

# HP Operations Manager for Windows®

ソフトウェア バージョン 8.10

---

## インストール ガイド

Manufacturing Part Number: B7491-99098

ドキュメント発行日 : 2008 年 7 月

ソフトウェア リリース日 : 2008 年 7 月



## ご注意

### 保証について

HP 製品およびサービスに対する保証は、それらの製品およびサービスに付属している保証規定に明記された条項に限られます。本書に記載された内容は、追加の保証を規定するものではありません。HP は、本書の技術的および編集上の誤りや不備について、その責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

### 法律上の権利の制限について

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用ライセンスのもとで、米国政府にライセンスが付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe<sup>®</sup> および Acrobat<sup>®</sup> は Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Intel<sup>®</sup> および Pentium<sup>®</sup> は、米国またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Java<sup>™</sup> は Sun Microsystems, Inc. の米国内での商標です。

Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>、Windows NT<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup> XP は、Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

Windows Vista<sup>™</sup> は、米国またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX<sup>®</sup> は The Open Group の登録商標です。

## サポート

HP ソフトウェア サポートの Web サイトには、次の URL でアクセスできます。

**<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>**

HP ソフトウェア オンライン サポートでは、対話型テクニカル サポート ツールをすぐにご利用いただけます。サポート サイトでは、次の機能が用意されています。

- 目的に合った技術情報の検索
- サポート ケースの登録とトラッキング、およびエンハンスメント 要求の送信とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート 契約の管理
- HP サポート連絡先の検索
- 利用可能なサービスの参照
- ユーザー同士のディスカッション
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

ほとんどのサポート エリアでは、アクセスするために HP Passport ユーザーとして登録、サインインする必要があります。また、多くのサポート エリアでサポート契約が必要です。

アクセスレベルの詳細については、次の Web ページを参照してください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**

HP Passport ID の登録は、次の Web ページで行ってください。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

## HPOM 8.10 でのサポート終了に関するお知らせ

以下のプラットフォームは、HP Operations Manager 8.10 for Windows ではサポートされません。下記のプラットフォームのいくつかは、HP Operations Manager for Windows のバージョン 7.50 でもサポート対象外になります。

次の Web ページに記載されているサポート マトリクスも併せてご覧ください。

[http://h20230.www2.hp.com/sc/support\\_matrices.jsp](http://h20230.www2.hp.com/sc/support_matrices.jsp)

### エージェント プラットフォーム

HP Operations Manager 8.10 for Windows は、以下のエージェント プラットフォームをサポートしていません。



HP Operations Manager 8.10 for Windows のサポート期間内に、ベンダが下記以外のオペレーティング システムのサポートを終了した場合、該当するプラットフォームで動作しているエージェントのサポートも同時に終了します。サービスパックのサポートは、各ベンダのライフサイクル ポリシーに従って終了します。プラットフォームのサポート終了予定については、製品サポート マトリクスを定期的にご確認ください。

- Microsoft Windows NT 4.0 (Workstation/Server/Enterprise Edition)
- Microsoft Windows 2000 (すべてのエディション。ただし、Microsoft の拡張サポート契約が有効な場合を除く)
- Microsoft Windows 2003 (SP0)
- Microsoft Windows XP (すべてのエディション。ただし、Microsoft の拡張サポート契約が有効な場合を除く)
- HP-UX 11.0、11.22
- Tru64 UNIX 4.x、5.0A、5.1、5.1A
- IBM AIX (DCE エージェントのみ。バージョン 5.2 および 5.3 は HTTPS エージェントをサポート)
- Sun Solaris 2.6、7
- SuSE Linux 6.x、7.x、8.0、8.1
- SuSE Linux Enterprise Server 8.0

- RedHat Linux 6.x、7.x、8.x、9.0
- RedHat Enterprise Linux 2.1
- Mandrake Linux 9.2
- Turbo Linux 6.x、7.x
- Debian Linux 3.0、3.0r2
- OpenVMS 7.3.1
- Novell Netware IPX プロキシ ソリューション (Novell Netware との既存レベルの統合は、HP Gallery SPI として提供されます)
- Mandriva (Mandrake) Linux 10.1 は DCE エージェントのみサポートされます。

### DCE エージェントについての概要

HP は 2008 年 6 月末で DCE エージェント用の新しいプラットフォームの認定を終了します。これ以降、各ベンダからリリースされる新しいオペレーティング システム バージョンやクラスタまたは仮想化ソリューションは、DCE エージェントでテストおよびサポートされなくなります。

HP Operations Manager 7.50 for Windows のサポート終了時に、HP Operations Manager 8.10 for Windows での DCE エージェント サポートも終了します。サポート情報については、HP ソフトウェア サポート Web ページを参照してください。

### 管理サーバー プラットフォーム

HPOM 8.10 for Windows は、以下の管理サーバー プラットフォームをサポートしていません。サービス パックのサポートは、Microsoft のライフサイクル ポリシーに従って終了します。

- Microsoft Windows 2000 (Server、Advanced Server、Datacenter Server Edition)
- Microsoft Windows 2003 (SP0)

### リモート コンソール プラットフォーム

HPOM 8.10 for Windows では、以下のコンソール プラットフォームをサポートしていません。サービス パックのサポートは、Microsoft のライフサイクル ポリシーに従って終了します。

- Microsoft Windows 2000 (Server、Professional)
- Microsoft Windows 2003 (SP0)
- Microsoft Windows XP (すべてのエディション。ただし、Microsoft の拡張サポート契約が有効な場合を除く)

## Web コンソール

HPOM 8.10 for Windows では、以下の Web コンソール プラットフォームをサポートしていません。

- Microsoft Internet Explorer 5.5

## 高可用性サポート

HPOM 8.10 for Windows では、以下の高可用性ソリューションをサポートしていません。

- HP MC/ServiceGuard 10.10+
- IBM HACMP for AIX 4.2.2、4.3.1、4.4.1、4.5
- SunCluster 2.2

## データベース

HP は以下のデータベースのサポートを終了します。

- Microsoft MSDE
- Microsoft SQL Server 2000 (ただし、Microsoft の拡張サポート契約が有効な場合を除く)

## 統合ソリューション

HPOM 8.10 for Windows は、以下のソリューションの統合をサポートしていません。

- HP Reporter 3.70、3.60
- HP Network Node Manager/Windows 7.01、7.50
- HP Performance Manager 4.xx、5.00、6.00、6.01
- HP Performance Agent Software 3.xx、4.00
- HP Internet Services 5.20、6.00
- HP Operations Agent 6.xx

## HPOM 8.10 for Windows 以降のサポート終了に関するお知らせ

HP Operations Manager for Windows バージョン 8.10 の次の主要リリースで、以下のプラットフォームのサポートを終了する予定です。

HP では、ご意見をお待ちしております。次回の主要リリースでも、ここに示す管理ノードプラットフォームのサポートを希望される場合は、HP の担当営業またはサポート担当者までご連絡ください。

### エージェント プラットフォーム

- すべてのプラットフォームでの DCE エージェント サポート

### 管理サーバー プラットフォーム

- Microsoft Windows 2003 の全エディション

### リモート コンソール プラットフォーム

- Microsoft Windows 2003 の全エディション
- Microsoft Windows XP

### Web コンソール

- Microsoft Internet Explorer 6.0

### データベース

- Microsoft SQL Server 2000
- Microsoft SQL Server 2005 Express

### 統合ソリューション

- NDAOM アダプタ
- HP Operations Manager for UNIX 7.xx および 8.00
- HP Operations Manager 7.50 for Windows
- HP Operations Agent 7.xx
- HP Internet Services



# 目次

<b>1 HP Operations Manager for Windows</b> .....	13
本書について .....	13
HP Operations SPI (Microsoft Windows オペレーティング システム用) .....	14
HP Operations Smart Plug-In for UNIX Operating Systems .....	15
HPOM に含まれる製品 .....	16
HPOM for Windows の DVD .....	16
メディア キット .....	17
利用できるドキュメント .....	18
インストール計画用チェックリスト .....	19
エージェントのインストール .....	22
<b>2 要件</b> .....	23
ハードウェア要件 .....	23
管理サーバーとコンソール .....	23
リモート コンソール .....	24
エージェント .....	24
ソフトウェア要件 .....	25
管理サーバーとコンソール .....	25
リモート コンソール .....	25
Web コンソール .....	25
エージェント .....	26
データベース要件 .....	27
データベース設定 .....	27
リモート データベース要件 .....	28
認証モード .....	29
リモート コンソール要件 .....	30

ネットワーク要件	31
ドメイン要件	31
DNS (ドメイン ネーム システム) 要件	31
完全修飾ドメイン名	32
Active Directory と統合 DNS	32
プライマリ DNS サフィックスの確認と設定	32
Windows サービスの要件	34
HPOM と Internet Information Services (IIS)	34
エージェント要件	36
ハードウェアとソフトウェアの要件	36
エージェント配布のセキュリティ要件	37
Windows ノード セキュリティの設定ツール	38
管理ノードで使用されるアカウント	39
LocalSystem アカウント	39
デフォルトの LocalSystem アカウントの利点	39
UNIX システムの root エージェント アカウント	40
管理サーバーで使用されるアカウント	41
HP-OVE-User と HP-OVE-Deleg-User	41
HP-OVE-Deleg-User の委任権限の設定	42
HP-OVE-Group	43
HP-OVE-ADMINS と HP-OVE-OPERATORS	43
インストール権限の要件	45
サポートされない設定	46
アップグレードを行う場合	47
HPOM インストール パッチ	48
インストール パッチの使用	48
ファイアウォール環境での HPOM のインストール	49
『Firewall Concepts and Configuration Guide』	49
管理サーバーのインストール	49
Windows ファイアウォールが有効な管理サーバーのインストール	50
リモート コンソールのインストール	51
Windows ファイアウォールが有効なリモート コンソールのインストール	51

<b>3 HPOM の標準インストール</b> .....	53
ターミナル サービスによる HPOM のインストール.....	54
管理サーバーおよびコンソールのインストール.....	55
リモート コンソールのインストール.....	56
Windows XP SP2 上のリモート コンソールに必要な設定.....	56
ライセンス情報.....	59
<b>HPOM のインストール</b> .....	60
サイレント モードまたは非対話モードでの管理サーバーまたはリモート コンソールのインストール.....	81
サイレント モードまたは非対話モードで使用する設定ファイル.....	81
管理サーバー インストール用の設定ファイルの例.....	82
リモート コンソール インストール用の設定ファイルの例.....	84
ライセンス情報の入力.....	85
標準版ライセンスの請求.....	86
インストールの結果.....	87
[ スタート ] メニュー.....	87
ドキュメント.....	87
実行可能ファイル.....	87
インストール ログ ファイル.....	87
高度なセキュア Windows 環境への HPOM のインストールと実行.....	88
制限グループ設定を適用した HPOM の実装.....	88
要件.....	88
<b>4 HPOM のクラスター インストール</b> .....	91
クラスター セットアップの概要.....	92
管理サーバーおよびコンソールのインストール.....	96
インストールの前に.....	96
ライセンス情報.....	97
クラスターの要件.....	98
サポートされない設定.....	99
<b>HPOM インストールの準備</b> .....	100
最初のクラスター ノードへの HPOM のインストール.....	105

残りのクラスタ ノードへの HPOM のインストール .....	128
サイレント モードまたは非対話モードでのクラスタ ノードへのインストール .....	135
インストールの結果 .....	138
[ スタート ] メニュー .....	138
ドキュメント .....	138
実行可能ファイル .....	138
インストール ログ ファイル .....	138
HPOM クラスタ インストールの検証 .....	139
<b>5 HPOM のアンインストールと再インストール .....</b>	<b>143</b>
HPOM のアンインストール .....	143
アンインストールの前提条件 .....	143
HPOM のアンインストール手順 .....	145
リモート データベースの削除 .....	150
HPOM for Windows の再インストール .....	151
管理サーバーの再インストール .....	151
データベース .....	151
リモート コンソールの再インストール .....	151
<b>6 インストール後の作業 .....</b>	<b>153</b>
HPOM の操作方法 .....	154
コンソールの概要 .....	155
Microsoft Management Console (MMC) とそのメニュー .....	156
Web コンソール インタフェース .....	156
HPOM メニュー .....	156
詳細ペイン .....	156
コンソール ツリー .....	157
設定可能な項目 .....	158
<b>A システム要件のチェック .....</b>	<b>161</b>
<b>索引 .....</b>	<b>167</b>

# 1 HP Operations Manager for Windows

## 本書について

このガイドは、Windows に習熟した管理者を対象としています。説明する内容は、次のとおりです。

- 第1章は、このガイドの対象範囲について説明します。次の内容が含まれます。
  - HPOM for Windows とコア SPI の概要
  - HPOM に含まれる製品のリスト
  - インストール計画用チェックリスト
- 第2章「要件」は、以下の内容について説明します。
  - HPOM の管理サーバーと管理コンソールのインストールに必要な、ソフトウェアおよびハードウェアの要件
  - HPOM を正しく実装するために必要なアカウントに関する情報
  - 正常に HPOM をインストールするためのファイアウォール設定
- 第3章「HPOM の標準インストール」と第4章「HPOM のクラスタ インストール」は、クラスタ化されていない環境と、クラスタ化されている環境に HPOM をインストールする手順を示します。
- 第5章「HPOM のアンインストールと再インストール」は、HPOM のアンインストールと再インストールについて説明します。
- 第6章「インストール後の作業」は、HPOM の使用について簡単に説明します。
- 付録 A 「システム要件のチェック」は、インストールの開始前に HPOM がチェックするシステム要件を示します。

# HPOM for Windows について

HP Operations Manager for Windows (HPOM) は分散型のクライアント / サーバーソフトウェアソリューションです。サービス主導型のイベントを提供し、ビジネスクリティカルなエンタープライズシステム、アプリケーション、およびサービスのパフォーマンスを管理します。

HPOM はさまざまな機種が分散している e-ビジネス インフラストラクチャを管理できます。Windows と UNIX の幅広いシステム、および電子商取引、Web サーバー、アプリケーション サーバー、会議システム、電子メール、データベース、ERP ソフトウェアなどの各種アプリケーションをサポートします。

HPOM には、コンソールおよびサーバー機能があり、管理ノードにインストールされたエージェントを使用してパフォーマンスおよびイベントを一元的に監視します。アドオンおよび SPI を使用するには、事前に管理サーバーに HPOM をインストールしておく必要があります。

HPOM の基本機能として含まれるコンポーネント (Windows 用と UNIX 用の 2 つのコア SPI) は、単独で購入またはインストールする必要はありません。

メディアに含まれ、このドキュメントで説明する、その他すべての製品については、追加のライセンスを購入する必要があります。

## HP Operations SPI (Microsoft Windows オペレーティングシステム用)

HP Operations Smart Plug-In for Microsoft Windows Operating System (Windows OS SPI) により、Windows ノードの運用、パフォーマンスを管理する事前設定ポリシーおよびツールが提供されます。この機能は HPOM 製品の一部として提供され、Windows アプリケーション (MS Backoffice アプリケーション、MS Web Server)、ウイルス対策アプリケーション、Veritas Backup、Citrix Metaframe、Dell OpenManage、HP Systems Insight Manager、Active Directory の基本監視機能などを管理するためのポリシーなど、システムと基本的なアプリケーションの管理を含みます。管理ポリシーは、必要に応じて容易にカスタマイズできます。

Windows OS SPI は、HPOM や関連製品とシームレスに統合されています。統合により、ポリシー、ツール、および強力なサービス自動検出機能が提供されます。

## HP Operations Smart Plug-In for UNIX Operating Systems

HP Operations Smart Plug-in for UNIX Operating Systems (UNIX OSSPI) は HPOM と完全に統合され、管理対象を UNIX システムの分散環境にまで拡大します。

UNIX OSSPI は、UNIX オペレーティング システムと、関連するソフトウェアおよびハードウェアの可用性を監視し、機能を管理します。UNIX OSSPI が主に提供する機能は、強力なサービス自動検出機能と、UNIX ベースの IT インフラストラクチャで使用される主要要素を迅速に制御するための、事前に定義されたポリシー、ツール、ユーザー ロールです。

# HPOM に含まれる製品

## HPOM for Windows の DVD

HP Operations Manager 8.10 for Windows 製品には、以下のモジュールを収録している DVD が 1 枚含まれています。

- HP Operations Manager for Windows 基本機能
- HP Operations SPI (Windows オペレーティング システム用)
- HP Operations SPI (UNIX オペレーティング システム用)
- HP Network Node Manager アダプタ
- HP Business Availability Center アダプタ
- HP SiteScope アダプタ

サーバーに HPOM コンソール、サーバー、またはリモート コンソールをインストールするときは、DVD を使用します。アドオン モジュールとアダプタは、HPOM と HP Network Node Manager や HP Business Availability Center、HP SiteScope などの製品を統合する場合に、HPOM とそれらの製品の機能を拡張します。

また、DVD には、HPOM のインストール ガイドとアップグレード ガイド、HPOM リリース ノート、コア SPI リリース ノート、ホワイトペーパーも格納されています。すべてのリリース ノート ドキュメントは、DVD の ¥Documentation¥Releasenotes ディレクトリに保存されています。ホワイトペーパーは ¥Documentation¥Whitepapers ディレクトリに保存されています。

## メディアキット

HP Operations Manager Media Kit には、HPOM for Windows DVD のほかに、SPI (Smart Plug-in) が含まれ、アドオン製品が含まれる場合もあります。SPI とアドオン製品は、HPOM for Windows での使用がテストされているので、そのままの状態ですべてのソリューションの構築に使用できます。

メディアキットに含まれるソフトウェアは次のとおりです。

- HP Operations Manager for Windows  
( 詳細は、「[HPOM for Windows の DVD](#)」を参照してください )
- HP Operations SPI (HP Operations Manager for Windows 用 )
- HP Reporter for Windows
- HP Performance Manager for Windows
- HP Network Node Manager for Windows  
( 現在は HP NNM に組み込まれている Problem Diagnosis を含む )
- HP Performance Agent Software

▶ HPOM 8.10 for Windows インストール用メディアのファイルをファイルシステムにコピーする場合は、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- HPOM for Windows DVD と SPI DVD を別個のフォルダに保存します。以前のバージョンの HPOM とは異なり、製品 DVD のすべての内容を 1 つのフォルダにコピーすることはできません。
- HPOM をインストールする場所からのパスは 160 字未満になるようにします ( 完全なパスにはバイナリの Setup.exe が含まれます )。これは、Windows インストーラ (msiexec) の既知の制限です。

▶ SPI (Smart Plug-in) は、HPOM と一体となって動作する、すぐに使用できるモジュールです。エンタープライズオペレータが Microsoft Exchange、データベース、Microsoft Active Directory などの複雑なビジネスアプリケーションや IT インフラストラクチャを監視 / 管理する際に役立ちます。

SPI は、HP Operations Manager 8.10 for Windows コンソールおよび管理サーバーのインストール後にインストールします。SPI の詳細については、HP Operations Manager 8.10 for Windows の HP Operations SPI DVD に収録されているドキュメントを参照してください。



メディアキットの内容は、HPOM 8.10 for Windows のバージョンアップ前に変更される可能性があります。各種製品の最新バージョンの収録や、評価用製品の追加/削除が行われる可能性があります。

## 利用できるドキュメント

HPOM に関する情報は、いくつかの情報源から参照できます。環境設定の方法、日々の管理作業、およびコンソールでのメッセージやマップを用いたイベントの監視と解決に関して、1900 を超えるトピックを含むヘルプシステムが主要な情報源となります。

- HPOM と各 HPOM コンポーネントでは、広範囲なヘルプシステムが利用できます。
- Adobe Acrobat PDF 形式の追加の製品ドキュメントが、インストールメディアの ¥Documentation ディレクトリに格納されています。
- HPOM for Windows 基本機能に関連する PDF ファイルは、管理サーバーの %O\InstallDir%\paperdocs¥en ディレクトリにもインストールされています。

# インストール計画用チェックリスト

HPOM のインストールを計画するときは、コンソール、サーバー、または両方のインストールを開始する前に重要な情報の参照先を確認しておくために、次のチェックリストを使用してください。

## タスク 1: HPOM コンソール / サーバーをインストールする場所

- これまでに HPOM をインストールしたことがないサーバー  
この場合は、このチェックリストの残りの項目を確認したら、[第 3 章「HPOM の標準インストール」](#)に進み、HPOM の初回インストールについての詳細を参照してください。
- HPOM が既にインストールされていて、HPOM のアップグレードを検討しているシステム  
この場合は、HPOM for Windows インストール メディアの [¥Documentation](#) ディレクトリに収録されている『[HP Operations Manager for Windows Upgrade Guide](#)』を参照してください。このアップグレード ガイドは、クラスタ化されていない HPOM サーバーから、MS クラスタで稼動する HPOM サーバーにデータを移行するための置換アップグレード / 並列移行手順についても説明しています。
- Microsoft クラスタ上の HPOM 仮想サーバー  
この場合は、このチェックリストの残りの項目を飛ばして、[第 4 章「HPOM のクラスタ インストール」](#)に進みます。このチェックリストは、Microsoft クラスタへの HPOM のインストールには適用されません。

## タスク 2: 使用する Windows 環境について

### — Windows ワークグループ環境

Windows ワークグループ環境に HPOM をインストールする場合は、以下の HPOM 機能を使用できません。

- 自動でのエージェントのインストールと配布

代わりに、手動エージェント インストール方法を使用して、ノードを管理下に置きます。

- リモート データベース

代わりに、ローカル データベース、つまり HPOM サーバー/コンソールをインストールするシステム上のデータベースを使用します。

- リモート コンソール

HPOM の管理サーバーがワークグループに含まれ、そのワークグループがドメインのメンバではない場合、HPOM ではリモート MMC コンソールがサポートされません。この場合は、ターミナル サービスを使用して HPOM サーバーに接続し、サーバー上のコンソールを実行できます。

### — Windows ドメイン

Windows ドメインに HPOM をインストールする場合は、HPOM 機能を完全に使用することができます。

どちらの種類のインストールを選択するかについては、37 ページの「エージェント配布のセキュリティ要件」を参照してください。このセクションは、インストール時にどのようなアカウントが作成され、それが HPOM でどのように使用されるか、また、Windows ノードの管理とエージェントのインストールを自動的に行う HPOM サーバーの機能が、インストールの種類によってどのように制限されるかについて説明します。

### タスク 3: どのようなデータベース構成の利用を検討しているか

- 新規データベース (SQL Server Express 2005) をローカルにインストールするデフォルト設定を使用する  
この場合は、第 3 章「HPOM の標準インストール」で HPOM のインストールの詳細について参照してください。インストール時にデフォルト設定を使用する場合は、特別な手順は必要ありません。
- ローカルまたはリモート システム (HPOM をインストールするサーバー以外のサーバー) の既存のデータベース インスタンス (Microsoft SQL Server 2000 または 2005 Enterprise Edition) を使用する  
まず、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 Enterprise Edition をインストールして、次に任意の名前のデータベース インスタンスを作成します。HPOM のインストール時に、このインスタンス名を指定します。ローカル データベースまたはリモート データベースのいずれのインスタンスに接続しても、HPOM インストールプロセスの実行中に“openview”データベースがインストールされます。

各種データベース設定の詳細は、27 ページの「データベース要件」を参照してください。

### タスク 4: 使用するサーバーの最小要件

- ハードウェア要件  
23 ページの「ハードウェア要件」を参照してください。
- ソフトウェア要件  
25 ページの「ソフトウェア要件」を参照してください。
- ネットワーク要件  
31 ページの「ネットワーク要件」を参照してください。
- Windows サービスの要件  
34 ページの「Windows サービスの要件」を参照してください。

### タスク 5: セキュリティルールを適用するために、企業が Microsoft Security テンプレートを使用して、HPOM のインストールを予定しているサーバーにそれがインストールされているか

この場合は、インストールを開始する前に、88 ページの「高度なセキュア Windows 環境への HPOM のインストールと実行」を参照してください。

## エージェントのインストール

HPOM 8.10 for Windows では、どのプラットフォーム用のエージェントでも自動または手動でインストールできます。エージェントのインストールは、HPOM for Windows サーバーによる管理の対象となるノードを選択すると、自動的に行われます (36 ページの「**エージェント要件**」を参照してください)。

サポートしているシステムについては、次の URL を参照してください。  
**[http://h20230.www2.hp.com/sc/support\\_matrices.jsp](http://h20230.www2.hp.com/sc/support_matrices.jsp)**



エージェントのインストールについての詳細は、HPOM ヘルプ トピック「**環境の管理**」→「**エージェントの設定**」を参照してください。

## 2 要件

### ハードウェア要件

ここでは、HPOM のハードウェアに関する最小要件と推奨される要件を示します。

#### 管理サーバーとコンソール

- 最小：1.4 GHz 以上の Intel Pentium III (または互換) プロセッサ (32 ビットモードをサポートする AMD Opteron および Athlon 64 CPU)。  
推奨：3.0 GHz 以上の Intel Pentium 4 プロセッサ (デュアル CPU システム)。
- 最小：768 MB の物理メモリと 512 MB 以上の仮想メモリ (ページファイル)。  
推奨：2 GB の物理メモリ。
- 最小：インストールに 6.5 GB のディスク容量を使用 (選択する製品オプションによって異なります)。管理サーバーは、NTFS ボリュームへのインストールのみをサポートします。  
推奨：1 GB 以上の空き容量を持つ高性能ハードディスク。  
  
クラスタに HPOM をインストールする場合は、以下の最小ディスク容量要件を適用します。
  - 最初のクラスタ ノード：5.5 GB 以上
  - 以降のクラスタ ノード：2.25 GB 以上  
サードパーティ製の追加 SPI や統合する他の HPOM アプリケーション用に、これ以上のディスク容量が必要になる場合もあります。
- DVD-ROM ドライブ (ネットワーク共有からインストールする場合を除く)。
- 最小：解像度が 1024x768 の 17 インチ モニタ。256 色以上。  
推奨：解像度が 1280x1024 の 19 インチ モニタ (コンソールシステムとして使用する場合)。256 色以上。
- マルチプロセッサ システムはサポートされません。

## リモート コンソール

- 最小：500 MHz の Intel Pentium III ( または互換 ) プロセッサ。  
推奨：1.4 GHz。
- 最小：256 MB の物理メモリと 512 MB 以上の仮想メモリ ( ページファイル )。  
推奨：1 GB の物理メモリ。
- 最小：インストールに 300 MB の容量が必要。  
推奨：1 GB 以上の空き容量を持つハードディスク。
- DVD-ROM ドライブ ( ネットワーク共有からインストールする場合を除く )。
- 最小：解像度が 1024x768 の 17 インチ モニタ。256 色以上。  
推奨：解像度が 1280x1024 の 19 インチ モニタ。256 色以上。

## エージェント

詳細は、36 ページの「[エージェント要件](#)」を参照してください。

## ソフトウェア要件

- ▶ 次の Web ページに記載されているサポート マトリクスも併せてご覧ください。  
**[http://h20230.www2.hp.com/sc/support\\_matrices.jsp](http://h20230.www2.hp.com/sc/support_matrices.jsp)** (HPOM 8.10 for Windows でサポートしているエージェント、管理サーバー、コンソールプラットフォーム用)

### 管理サーバーとコンソール

- Windows 2008 (32 ビット)、Windows Server 2003 SP1、SP2、R2 (32 ビット) Standard Edition、Enterprise Edition、Data Center Edition。Windows Server 2003 用の Hotfix KB925336 の適用を推奨。
- ドキュメントの表示には、Adobe Acrobat Reader 7.0 以降が必要です。
- Internet Explorer 6.0 以降。
- Internet Information Services (IIS) 6.0。最小要件については、本章の 34 ページを参照してください。
- Microsoft クラスタはサポートされます。

### リモート コンソール

- Windows 2008 (32 ビット)、Windows Server 2003 SP1、SP2、R2 (32 ビット)、Windows XP SP2 (32 ビット)、Windows Vista (32 ビット)。
- ドキュメントの表示には、Adobe Acrobat Reader 7.0 以降が必要です。
- Internet Explorer 6.0 以降。

### Web コンソール

HPOM は、次のブラウザで表示できる Web コンソールを提供します。これらのブラウザ バージョンをインストールしているすべての環境で、Web コンソールがサポートされます。

- Internet Explorer 6.0 以降
- Netscape 7.1 以降
- Mozilla Firefox 1.5 以降

## エージェント

詳細は、36 ページの「エージェント要件」を参照してください。

## データベース要件

HPOM は、ローカルおよびリモート データベース用に、さまざまなタイプのデータ リポジトリ設定をサポートしています。サポートしているデータベースは以下のとおりです。

- Microsoft SQL Server 2005 Express Edition SP2 (32 ビット )
- Microsoft SQL Server 2005 Enterprise Edition SP2 (32 および 64 ビット )
- Microsoft SQL Server 2000 Enterprise Edition (32 ビット )

データベース インスタンスの名前は、ユーザーが設定できます。データベース インスタンスには、HPOM のインストール中に作成される “openview” データベースが含まれます。HP Reporter は、HPOM と同じ、または HPOM とは異なるデータベース インスタンスのどちらも使用できます。

SQL Server Enterprise データベースが存在しない場合、HPOM インストールプログラムにより、HPOM 管理情報を格納するデフォルトのデータベースとして Microsoft SQL Server Express がインストールされます。

## データベース設定

HPOM は、データ リポジトリの次の設定をサポートします。

- **SQL Server Express**

デフォルトのデータベースとして Microsoft SQL Server Express を使用する HPOM を、単一の ( クラスタ化されていない ) Windows サーバーにインストールするには、他に使用されていないローカル SQL Server インスタンスの名前を指定します。SQL Server 2005 Express がインストールされ、新しいデータベース インスタンスが作成されます。



MS クラスタに HPOM と SQL Server Express をインストールすることはできません。MS クラスタに HPOM をインストールする場合、リモート SQL Server Enterprise データベースのみを使用できます。詳細は、第 4 章「HPOM のクラスタ インストール」を参照してください。

- **SQL Server Enterprise**

HPOM で SQL Server Enterprise データベースを使用する場合、SQL Server Enterprise は、HPOM をインストールするシステムにローカルでインストールするか、リモート Windows システムにインストールします。SQL 2000 または 2005 のインストール時に、ユーザーが設定可能な名前で新しいインスタンスを作成します。

SQL Server 照合順序の指定では、大文字と小文字が区別されないように設定する必要があります。

HPOM をインストールする際に、HPOM の [SQL Server サーバー インスタンスの選択] ウィザード ページで、SQL Server インストール時に作成したインスタンスを選択します。

▶ 通常のインストール時には、既存の“openview”データベースは使用できません。古いデータベースの削除とデータベースの再作成についての警告が表示されます。古いデータを保持する場合は、アップグレードまたは移行を実行する必要があります。

## リモート データベース要件

HPOM の [SQL Server サーバー インスタンスの選択] ウィザード ページで、リモート データベース インスタンスを選択できない場合は、以下の設定を確認してください。

- **SQL Server 設定**

- a リモート データベース サーバーで、SQL Server Surface Area Configuration (SQL Server セキュリティ構成) マネージャを起動します。
- b [サービスと接続のセキュリティ構成] をクリックします。
- c ツリーで [リモート接続] をクリックし、[ローカル接続およびリモート接続] オプションをオンにします。
- d [SQL Server Browser] をクリックし、SQL Server Browser サービスが自動で開始されることを確認します。
- e SQL Server Browser サービスが開始されたら、SQL Server インスタンスを再起動します。

- **ネットワーク設定とファイアウォール設定**

リモート データベース サーバーが他のサブネットに配置されている場合や、リモート データベース サーバーと HPOM 管理サーバーの間にファイアウォールが設置されている場合は、UDP ポート 1434 がブロックされないようにしてください。このポートがブロックされると、SQL Server Browser サービスに到達できないため、HPOM 管理サーバーで対象の SQL Server インスタンスを認識できなくなります。

Windows Server 2008 を実行中の管理サーバーで、Windows ファイアウォールが UDP 応答パケットを破棄しないようにすることも必要です。

詳細は、Microsoft の次の情報を参照してください。

— <http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/ms181087.aspx>

— <http://support.microsoft.com/kb/944390/>

## 認証モード

デフォルトでは、HPOM は Windows アカウントを使用して SQL Server または SQL Server Express データベースに接続します (SA ユーザー アカウントは使用されなくなりました)。

SQL Server データベースをインストールする際、Windows 認証モードか混合モードを選択します。いずれのモードでも、HPOM は Windows アカウントを使用してデータベースに接続します。

# リモート コンソール要件

24 ページと 25 ページのハードウェア要件およびソフトウェア要件に加えて、リモート コンソールを正常に実行するための以下の要件を満たしている必要があります。

- **ドメイン要件**

リモート HPOM コンソールは、HPOM サーバー システムとリモート コンソール システムが同一の Windows ドメインに存在するか、同等の双方向ドメイン信頼関係が確保されている場合にのみサポートされます。

- **HP-OVE-Deleg-User 要件**

ポリシーの管理と配布ユーザー (HP-OVE-Deleg-User) は、ユーザー グループ Users および Everyone でリモート コンソール システムにアクセスするネットワーク権限を持つ必要があります。これらのグループを「ネットワーク経由でコンピュータへアクセス」セキュリティ ポリシーから削除した場合、対象のリモート コンソール システム上で、このポリシーに HP-OVE-Deleg-User を明示的に追加しなければなりません。追加しない場合は、リモート コンソールでポリシーを管理できません。

- **ユーザー要件**

リモート コンソールを使用するには、コンソールを実行する Windows ユーザーが HP-OVE-ADMINS または HP-OVE-OPERATORS グループのメンバーである必要があります。

- **HPOM バージョン要件**

リモート コンソールのバージョンと管理サーバーのバージョンは、同じでなければなりません。たとえば、OVO 7.50 for Windows のリモート コンソールは、HPOM 8.10 for Windows の管理サーバーに接続できません。この逆も同様です。起動時に、リモート コンソールは両方のバージョンを確認し、バージョン番号が一致しない場合はエラー メッセージを表示します。

# ネットワーク要件

HPOM を Windows ドメインにインストールする場合は、以下のセクションに示されている要件を満たすよう、ドメインを設定します。

## ドメイン要件

- ドメイン コントローラは、Windows 2000 SP4 以降か、Windows Server 2003 SP1、R2、またはそれ以降をベースとする必要があります。
- ドメインの機能レベルは、「Windows 2000 ネイティブ」または「Windows Server 2003」に設定する必要があります。

## DNS (ドメイン ネーム システム) 要件

HPOM を稼働させ、DNS 検出を使用する場合は、次のように DNS (ドメイン ネーム システム) サーバーを設定する必要があります。

- DNS サーバーは、必ず 1 つは設置します (ドメイン コントローラと同じシステム上など)。
- 管理サーバーや管理ノードの正引き (FQDN から IP) や逆引き (IP から FQDN) を適切に解決できるよう、DNS サーバーを設定します。
- DNS サーバーは「ゾーン転送を許可するサーバー」として設定します。
- DNS と AD (Active Directory) のドメイン名が異なる場合は、AD ドメイン名と一致するように、DNS サーバーの設定で新しいゾーンを作成します。
- セカンダリ DNS サーバーをネームサーバーのリストに追加して、HPOM で検索できるようにすることもできます。

データがドメインに伝達され、HPOM の検出によって正しく表示されるまで、数時間かかる場合があります。これらのゾーンを正しく設定する方法については、DNS サーバーのマニュアルを参照してください。

## 完全修飾ドメイン名

HPOM サーバー ソフトウェアをインストールする前に、FQDN (完全修飾ドメイン名) が正しく設定されていることを確認してください。インストールされているすべての HP Operations エージェントは、HPOM サーバーとの通信に FQDN を使用します。システムと HPOM サーバーの FQDN を後から変更することもできますが、現在管理されているすべてのシステムの更新が必要になります。そのため、DNS サーバーが同じ方法でこの FQDN を解決するように、事前に FQDN を最終的な値に設定しておくことを強くお勧めします。

## Active Directory と統合 DNS

Windows Server 2003 での通常の Active Directory (AD) ドメインの設定では、システムの FQDN の一部として AD ドメイン識別子を含めます。

- HPOM をインストールする前に、Windows サーバーが最終的なドメインにあり、ドメイン サフィックスが正しく設定され、DNS に正しく登録されていることを確認します。サーバーのプロパティを調べ、nslookup ユーティリティを使用して DNS を調べます。
- HPOM では、DNS サーバーが一貫した PTR レコードを参照する (IP から FQDN への逆引き) 必要があります。nslookup ユーティリティを使用して、IP アドレスが正しい FQDN に解決されることを確認します。
- すべてのエージェントが、HPOM サーバーの FQDN ドメイン名を同じように解決する必要があります。これは、Windows 環境で提供される Active Directory 統合 DNS とは別の DNS サーバーを使用する UNIX システムを管理する場合に特に重要です。

## プライマリ DNS サフィックスの確認と設定

ドメイン サフィックス (FQDN) を使用する DNS 環境に管理サーバーをインストールする場合、次の手順に従ってプライマリ DNS サフィックスを確認および設定します。

- 1 Windows Server 2003 のデスクトップで **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 2 Windows Server 2003 システムの **[コンピュータ名]** を選択します。
- 3 この画面には、**[フル コンピュータ名]** というフィールドがあります。この名前は Windows システムの FQDN で、HPOM の FQDN として使用されます。

- 4 **[フルコンピュータ名]** フィールドに使用する名前が表示されていない場合は、このダイアログで値を変更します。または、組み込み型の AD/DNS 設定を使用する場合は、NIC ( ネットワーク インタフェース カード ) の設定で TCP/IP の設定を変更します。DNS サフィックスの変更を実装する方法については、Windows 2000/2003 のドキュメントを参照してください。

# Windows サービスの要件

## HPOM と Internet Information Services (IIS)

管理サーバーのインストール時に、HPOM は IIS に接続し、設定を行います。まず、IIS がインストールされていて、サイトに必要であると考えられるすべてのセキュリティパッチが含まれていることを確認してください。



利用できる IIS のパッチについては、IIS のドキュメントや関連する Microsoft の Web サイトを参照してください。

HPOM は Internet Information Services (IIS) を使用します。また、これを実行するために特定のコンポーネントを必要とします。ウィルスからの攻撃を最小にするため、次に示す必要な基本 Web ページサービスのみをインストールすることをお勧めします。

Windows 2008 では、Server Manager で次の役割サービスを使用して Web サーバー (IIS) の役割をインストールします。

- 一般的な HTTP 機能：
  - 静的コンテンツ
  - 既定のドキュメント
- アプリケーション開発：
  - ASP.NET
  - ASP
- セキュリティ：
  - 基本認証
  - Windows 認証
- IIS 6 の管理との互換性：
  - IIS 6 メタベースの互換性
  - IIS 6 管理コンソール

Windows 2003 では、次の IIS コンポーネント が利用できることを確認してください。

- 共通ファイル (IIS のすべてのインストールで必要です)
- WWW (World Wide Web) サーバー

- Web コンソールをサポートするために管理サーバーで有効化される Active Server Pages (.asp)
- Internet Information Services Manager (WWW サーバーを選択すると必ずインストールされます)

その他の IIS コンポーネントはすべてオプションです。



OS を Windows 2003 にアップグレードする場合は、HPOM Web コンソール IIS 拡張が再度有効となるように、IIS の設定を調整する必要があります。

- 1 [マイ コンピュータ] → [管理] を選択します。
- 2 [コンピュータの管理] で [サービスとアプリケーション] の表示を展開します。
- 3 [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] を選択し、[Web サービス拡張] の表示を展開します。
- 4 [Active Server Pages] 拡張の設定が「許可」になっていることを確認します。



HPOM for Windows とともに Microsoft ツール URLScan がインストールされているシステムでは、HPOM のグラフ表示機能は機能しません。この問題を解決するには、urlscan.ini ファイルで次の設定を変更します。

- UseAllowExtensions=0 を UseAllowExtensions=1 に変更します。
- AllowExtensions セクションに次の行を追加します。
  - .exe
  - .xml
  - .jar
  - .class
- IIS を再起動して、変更を適用します。

デフォルトでは、URLScan 2.5 の urlscan.ini ファイルは %WINDIR%\system32\inetsrv\urlscan ディレクトリにあります。

このユーティリティに関する Microsoft の TechNet リンクは次のとおりです。  
<http://www.microsoft.com/technet/security/tools/urlscan.msp>

## エージェント要件

管理サーバーは、サポート対象の Windows オペレーティング システムを実行しているノードに自動で HTTPS および DCE エージェントを配布できます。さらに、管理サーバーで適切な Secure Shell Client を設定すると、管理サーバーは、サポート対象の UNIX または Linux オペレーティング システムを実行しているノードにも、自動で HTTPS エージェントを配布できます。

UNIX または Linux オペレーティング システムを実行しているノードに、リモートで DCE エージェントを配布することはできません。したがって、これらのシステムにはエージェントを手動でインストールします。

HPOM 8.10 for Windows がサポートしているエージェント プラットフォームの詳細は、以下の Web ページに記載されているサポート マトリクスを参照してください。

[http://h20230.www2.hp.com/sc/support\\_matrices.jsp](http://h20230.www2.hp.com/sc/support_matrices.jsp)

HTTPS および DCE エージェントの配布については、オンライン ヘルプのトピック「[環境の管理](#)」→「[エージェントの設定](#)」を参照してください。

## ハードウェアとソフトウェアの要件

HTTPS または DCE 管理ノードのハードウェアとソフトウェア要件は、次の場所に記載されています。

- **HTTPS 管理ノード**

サポート対象のオペレーティング システムと必要なパッチについては、以下の URL のサポート マトリクスを参照してください。

[http://h20230.www2.hp.com/sc/support\\_matrices.jsp](http://h20230.www2.hp.com/sc/support_matrices.jsp)

ノードは、オペレーティング システムのハードウェア要件を満たしている必要があります。HTTPS 管理ノードに関する追加のハードウェア要件はありません。

- **DCE 管理ノード**

オンライン ヘルプのトピック「[環境の管理](#)」→「[エージェントの設定](#)」→「[エージェントの手動インストール](#)」→「[DCE エージェントの手動インストール](#)」を参照してください。

管理対象のノードを管理下に置くと、HPOM はそのノードが管理に必要な条件を満たしているかどうかをチェックします。また、管理ノード ツリー内の任意のノードに対し、手動で必要条件チェックを実行することもできます。

## エージェント配布のセキュリティ要件

管理ノードを追加するユーザーは、管理サーバーの HP-OVE-ADMINS グループのメンバでなければなりません。管理ノードとして追加するシステムは、起動され、稼動中であることが必要です。

HPOM 8.10 for Windows では、Windows 管理ノードを追加するときに、「Windows ノード セキュリティの設定」ツール (OveConfig.exe) は表示されません。代わりに、任意のタイプのエージェントをインストールするために使用するユーザーアカウントを指定します。次の設定から選択します。

- **PMAD ユーザー**

この配布方法は、HP-OVE-Deleg-User アカウントの資格情報を使用します。

HP-OVE-Deleg-User は、デフォルトではノードに対する管理アクセス権限を持っていません。このユーザーをドメイン管理グループに追加することはお勧めできません。代わりに、HP-OVE-Deleg-User アカウントを手動で各ノードのローカル Administrators グループに追加するか、コンソールの【ツール】→【HP Operations Manager ツール】→【Windows ノード セキュリティの設定】ツール (OveConfig.exe) を使用します。このツールは、HP-OVE-Deleg-User アカウントを、指定したノードのローカル Administrators グループに追加します。

- **偽装ユーザー**

この配布方法では、ovpmad は HPOM コンソールを開始したユーザーの資格情報を使用して、エージェントを配布します。このユーザーは、ノードの管理者権限を持っている必要があります。

リモート コンソールからエージェントを配布する場合は、HP-OVE-Deleg-User アカウントに委任権限が与えられている必要があります。これは、Windows がダブルホップ偽装をサポートしていないためです。

- **別の資格情報を使用**

この配布方法では、代替ユーザーのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。ovpmad は、これらの資格情報を使用してエージェント ソフトウェアを配布します。指定されたユーザー アカウントは、ノードに対する管理アクセス権限を持っていないければなりません。

## Windows ノード セキュリティの設定ツール

「Windows ノード セキュリティの設定」ツール (OveConfig.exe) を以後も使用する場合は、コンソールからこのツールを手動で実行するか、このツールを使用して Windows 管理ノードをインストールまたは更新するよう HPOM 管理サーバーを設定します。<sup>1</sup>

ログインしているユーザーの設定に基づいて、ユーティリティがいくつかのセキュリティ設定を試行し、結果を報告します。具体的には、HP-OVE-Deleg-User アカウントが、管理ノードのローカル Administrators グループの一部であるかどうかを調べます。グループに含まれない場合、HPOM はそのアカウントをグループに追加します。また、このアカウントに「バッチ ジョブとしてログオン」と「サービスとしてログオン」の権限があることを確認します。

セキュリティの設定に失敗した場合 (たとえばノードが稼動していない場合) には、それを知らせるメッセージが表示され、そのノードに対するセキュリティの設定は中止されます。この場合は、問題を解決し、Windows ノードセキュリティの設定ツール ([ ツール ] → [HP Operations Manager ツール] → [Windows ノード セキュリティの設定]) を使用して、設定が失敗したノードのセキュリティを手動で設定する必要があります。HP-OVE-Deleg-User アカウントが既にそのノードのローカル Administrators グループのメンバーであり、適切な権限を付与されている場合は、この設定の失敗を無視できます。

1. [サーバーの設定] ダイアログ ボックスを使用し、「ポリシー管理と配布」名前空間で Windows ノード セキュリティの設定ツールを有効にします。エキスパート モードに切り替え、該当する値を true に設定してください。

# 管理ノードで使用されるアカウント

ここでは、管理ノード上の各種 HPOM アカウントについて説明します。

- Local System アカウント (Windows 管理ノード)
- root (UNIX 管理ノード)

## LocalSystem アカウント

HPOM for Windows エージェント パッケージは、デフォルトで Local System アカウントを使用してインストールされます。

Local System アカウントは、Windows オペレーティングシステムにより作成され、常に存在します。このアカウントは、デフォルトでローカル Administrators グループのメンバです。また、パスワードは設定されていません。通常は、ほとんどの Windows サービスでこのアカウントを使用します。



OVO 7.10 以前で使用されていた `opc_op` および HP ITO Account アカウントは、廃止されました。

## デフォルトの LocalSystem アカウントの利点

次のような利点があるため、デフォルトの LocalSystem アカウントの使用を強くお勧めします。

- 管理ノードに他のアカウントが追加されない。
- Active Directory 環境でのエージェント インストールの問題を回避できる。
- パスワード ポリシーと矛盾しない。
- ローカルアカウントを許可しないドメイン ポリシーと矛盾しない。
- 必要な特権またはユーザー権限を除去するドメイン ポリシーと矛盾しない。  
Smart Plug-in for Exchange Server など、特定の SPI の向上した機能を利用できます。詳細は、各 SPI のドキュメントを参照してください。

## UNIX システムの root エージェント アカウント

UNIX システムでは、`root` がエージェント アカウントとして使用されます。インストール時に `opc_op` ユーザー アカウントが作成されるため、ツールの実行にはこのアカウントを使用できます。

# 管理サーバーで使用されるアカウント

ここでは、管理サーバー上の各種 HPOM アカウントについて説明します。

- HP-OVE-User ( ユーザー アカウント )
- HP-OVE-Deleg-User ( ユーザー アカウント )
- HP-OVE-Group ( グループ アカウント )
- HP-OVE-ADMINS ( グループ アカウント )
- HP-OVE-OPERATORS ( グループ アカウント )



HPOM では、HPOM 管理サーバーのインストール後に、セキュリティ コンテキストを変更できません。変更するには、HPOM 管理サーバーの再インストールが必要になります。そのため、適用するセキュリティ要件をよく検討したうえで、HPOM 管理サーバーをインストールしてください。

## HP-OVE-User と HP-OVE-Deleg-User

HP-OVE-User ユーザーと HP-OVE-Deleg-User ユーザーは、ユーザー アカウントです。HPOM は、インストール時に指定されたパスワードを使用して、管理サーバー システムにこれらのアカウントを作成します。

HPOM が自動で作成するのではなく、ユーザー自身がインストール前またはインストール中にこれらのユーザーを作成することもできます。HP-OVE-User ユーザーおよび HP-OVE-Deleg-User アカウントは、通常ドメイン ユーザー アカウントとしてください。さらに、HP-OVE-Deleg-User には、管理サーバーに対するローカル管理者権限が必要です。これらのユーザーをドメイン管理ユーザーのメンバーにすると、所定のドメイン内のすべての Windows 管理ノードに対する管理アクセス権限が HPOM 管理サーバーに付与されるため、お勧めできません。また、実際のユーザーがログオンに使用するアカウントを選択することも避けてください。

HP-OVE-Deleg-User アカウントを自分で作成する場合、このアカウントでログオンして HPOM 管理サーバーをインストールしないでください。

### • HP-OVE-User

HP-OVE-User ユーザーは、HP-OVE-ADMINS グループおよび Users グループのメンバーです。ポリシーの管理と配布プロセス以外の HPOM 管理サーバー プロセスはこのアカウントで実行されます。

HPOM 8.10 for Windows では HP-OVE-Group アカウントが存在しないため、HP-OVE-User ユーザーは、このグループのメンバーではありません。

- **HP-OVE-Deleg-User**

HPOM 8.10 for Windows では、ポリシーの管理と配布プロセス (ovpmad) は HP-OVE-Deleg-User ユーザー アカウントで実行されます。HPOM が Windows ワークグループ環境にインストールされている場合、このアカウントはローカルアカウントです。HPOM が Windows ドメインにインストールされている場合は、HP-OVE-Deleg-User はドメインアカウントとして、デフォルトで委任権限が設定されています。HPOM のインストール時に、このユーザーに委任権限を与えるかどうかを指定できます。HP-OVE-Deleg-User ユーザーは、HP-OVE-ADMINS グループおよび Users グループのメンバです。

委任権限は、ターゲット ノードにログオンしているユーザーの資格情報を使用して、ポリシーの管理と配布プロセスを実行できるようにします。**[偽装ユーザー]** オプションを使用して、リモート コンソールから Windows オペレーティングシステムを実行しているノードに HTTPS エージェントを配布する場合、委任権限が必要になります。

## HP-OVE-Deleg-User の委任権限の設定

自動で HP-OVE-Deleg-User アカウントを作成しない場合、ユーザー自身がこのアカウントを作成できます。**[偽装ユーザー]** オプションを使用して、リモート コンソールから Windows エージェントを配布する場合は、作成したユーザー アカウントが委任について信頼されている必要があります。信頼されていない場合は、エージェントを配布するときに、**[PMAD ユーザー]** または **[ユーザー名 / パスワード]** オプションを使用する必要があります。

場合によっては、その Active Directory ユーザーの [プロパティ] ダイアログボックスで適切なオプションを選択することで、委任についての信頼を設定できます。しかし、Active Directory がデフォルトでは適切なオプションを表示せず、Active Directory の追加設定の実行が必要になる場合もあります。

たとえば、Microsoft が提供する setspn コマンドを使用した、ユーザー アカウントのサービスプリンシパル名 (SPN) の登録が必要になる場合があります。このコマンドの構文は、次のとおりです。

```
setspn -A <サービス>/<ホスト名> <ドメイン>¥<ユーザー>
```

たとえば、ユーザー example¥HP-OVE-Deleg-User の SPN として ovpmad/manager1.example.com を登録するには、次のコマンドを使用します。

```
setspn -A ovpmad/manager1.example.com example¥HP-OVE-Deleg-User
```

詳細は、Microsoft が提供する Active Directory のドキュメントを参照してください。

## HP-OVE-Group

HP-OVE-Group アカウントは、HPOM 8.10 for Windows の新しいインストールには存在しません。以前のバージョンでは、このグループ アカウントは HP-OVE-User を含み、Windows 管理ノード上のローカル Administrators グループに追加されました。これにより、管理サーバーから対象ノードへのエージェントパッケージの自動配布が可能となっていました。

OVO 7.50 for Windows から HPOM 8.10 for Windows へのアップグレードでは、HP-OVE-Group アカウントは使用されなくなり、HP-OVE-Deleg-User ユーザーが追加されました。ポリシーの管理と配布プロセス (ovpmad) は、このユーザーを使用して、既存の Windows DCE 管理ノードに対しエージェント パッケージの配布やアップグレードを実行できます。

## HP-OVE-ADMINS と HP-OVE-OPERATORS

HP-OVE-ADMINS と HP-OVE-OPERATORS は、グループ アカウントです。HPOM インストールにより、管理サーバー システム上でローカルに、またはドメイン内にこれらのグループが作成されます。HPOM が自動で作成するのではなく、ユーザー自身がインストール前またはインストール中にこれらのグループを作成することもできます。

グループは HPOM 製品の有効なユーザーを識別するために使用します。これらのグループのメンバである Windows ユーザーは、そのグループに関連するタスクを実行できます。

- **HP-OVE-ADMINS**

HP-OVE-ADMINS のメンバである Windows ユーザーは、HPOM の管理者とみなされ、管理タスク ( ノードの追加、ポリシーの設定と配布など ) を実行できます。

HPOM 管理者は、Windows ドメイン管理者と同じではありません。HPOM 管理者は、すべての管理ノードに対して管理権限と同様の権限を ( エージェントを介して ) 持つため、信頼されたユーザーでなければなりません。



HPOM 8.10 for Windows では、管理サーバー システムのローカル管理者は、自動的に HP-OVE-ADMINS グループに追加されません。つまり、これらの管理者は自動では HPOM 管理者になりません。

HPOM のインストール後、インストールを行ったユーザーには HPOM 管理者の権限が与えられます。この権限を無効にするには、コンソールで **[ ツール ]** → **[HP Operations Manager ツール]** → **[ インストール ユーザーの権限の削除 ]** ツールを実行します (HPOM 管理者のみがこのツールを実行できます。インストールを行ったユーザーや HPOM オペレータには、このツールを実行する権限がありません)。

- **HP-OVE-OPERATORS**

HP-OVE-OPERATORS グループのメンバは HPOM のオペレータであり、コンソール (特にメッセージ ブラウザ) の監視やメッセージへの対応などのタスクを実行します。

ユーザーに 1 つ以上のユーザー ロールを付与して、各 HPOM ユーザーの責任をより詳細に設定できます。ユーザー ロールの詳細は、オンライン ヘルプの「**環境の管理**」 → 「**ユーザー ロールの設定**」以下のトピックを参照してください。



HP-OVE-User および HP-OVE-Deleg-User ユーザー アカウントと、HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS グループ アカウントを混同しないようにしてください。HP-OVE-User および HP-OVE-Deleg-User ユーザー アカウントは、実行時に配布目的で管理サーバー プロセスによって使用されます。HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS グループ アカウントは、HPOM 製品の有効なユーザーを識別するために使用します。

## インストール権限の要件

インストール時に、HPOM は以下のタスクの実行を試みます。

- **ユーザー アカウントとグループ アカウントの作成**

HPOM のユーザー アカウントとグループ アカウントが、選択されたドメインにまだ作成されていない場合、HPOM によりそれらが作成されます。問題なく作成するには、HPOM 管理サーバー インストールを実行する Windows ユーザーが、ドメイン コントローラ上でユーザー アカウントとグループ アカウントを作成できる権限を持っているなければなりません。さらに、既存の HP-OVE-Deleg-User ユーザーに委任権限が付与されていない場合に、HP-OVE-Deleg-User アカウントに委任権限を設定できる権限を持っている必要もあります。

親の ADS ドメインでこれらのアカウントを作成するときは、インストールを行うユーザーがリソースや子ドメインに対するドメイン管理者であっても、権限が十分でないことがあります (通常、管理上の信頼関係は推移的または一方向ではありません)。こうした要件を満たしている場合、HPOM 管理サーバーをインストールする前に、手動で HPOM ユーザー アカウントとグループ アカウントを該当するレベルに作成できます。

- **既存のユーザーの認証**

HP-OVE-User および HP-OVE-Deleg-User ユーザー アカウントが既に利用できる場合、HPOM インストールで、HP-OVE-User および HP-OVE-Deleg-User の通常の認証が実行されます (有効なパスワードが必要)。この場合、インストールを行うユーザーはドメイン管理権限を持つ必要はありません。ドメイン ユーザーは、ローカル Administrators グループのメンバーであれば十分です。

HPOM 管理サーバーのインストールに HP-OVE-Deleg-User アカウントを使用することはできません。

## サポートされない設定

HP Operations Manager for Windows (HPOM) は、次のような設定をサポートしていません。

- HPOM をネットワークドライブにインストールする。
- 暗号化されたファイルシステム。
- 固定 IP アドレスを使用せずに、DHCP を使用して管理サーバーを設定する (DHCP は管理ノードではサポートされます)。
- HPOM 管理サーバーが、ドメインコントローラでサポートされていない。
- HPOM を VMWare の共有フォルダからインストールする。

## アップグレードを行う場合

HP OpenView Operations for Windows の以前のバージョンから HP Operations Manager 8.10 for Windows にアップグレードする場合、HPOM 8.10 for Windows のインストール前にいくつかの手順を実行する必要があります。現在インストールされている製品によっては、データおよび作成したカスタム ポリシーを保存します。この処理を簡単に実行するためのツールが用意されている場合もあります。『HP Operations Manager 8.10 for Windows アップグレード ガイド』を参照してください。



現在の製品をアンインストールする場合は、現在のバージョンに該当するアップグレード ガイドを読んでから行ってください。アンインストールを行うと、管理サーバーのデータは削除され、復元できなくなる場合があります。

# HPOM インストール パッチ

HPOM 8.10 for Windows は、インストールにパッチを適用する機能を備えています。インストールパッチと製品 DVD を使用して、最新の製品インストールを実行できます。

HPOM 8.10 for Windows のインストールパッチは、HP サポートから入手できます。インストールパッチは、定期的に公開される製品パッチとは異なり、通常はインストール関連の問題のみを対象としています。HPOM 8.10 for Windows のインストールが設定済みで稼動している場合は、インストールパッチは必要ありません。

## インストール パッチの使用

パッチをダウンロードした後、パッチにより製品のインストールが開始されます。インストールには元の DVD メディアが必要です。パッチに付属のドキュメントには、追加情報が記載されています。このドキュメントをよく読んでから、インストールパッチを使用して製品をインストールしてください。

# ファイアウォール環境での HPOM のインストール

## 『Firewall Concepts and Configuration Guide』

ファイアウォール環境の詳細については、『HPOM Firewall Concepts and Configuration Guide』を参照してください。このガイドでは、ファイアウォールを介した通信に関する HPOM の設定方法や、HPOM と組み合わせて使用する Windows ファイアウォールの設定方法について説明しています。

『HPOM Firewall Concepts and Configuration Guide』は、製品 DVD に収録されています。また、インストール後は、%OvInstallDir%\paperdocs\en ディレクトリにも格納されています。

## 管理サーバーのインストール

通常は、HPOM 管理サーバーをインストールする前に、ファイアウォール サービスを無効化する必要はありません。

ただし、リモート データベースを使用する場合は、インストール中に管理サーバーがリモート データベースに接続できるように、ファイアウォールを正しく設定する必要があります (詳細は、27 ページの「データベース要件」を参照してください)。

管理サーバーをインストールした後、『HPOM Firewall Concepts and Configuration Guide』の説明に従って、ファイアウォールと HPOM を設定してください。

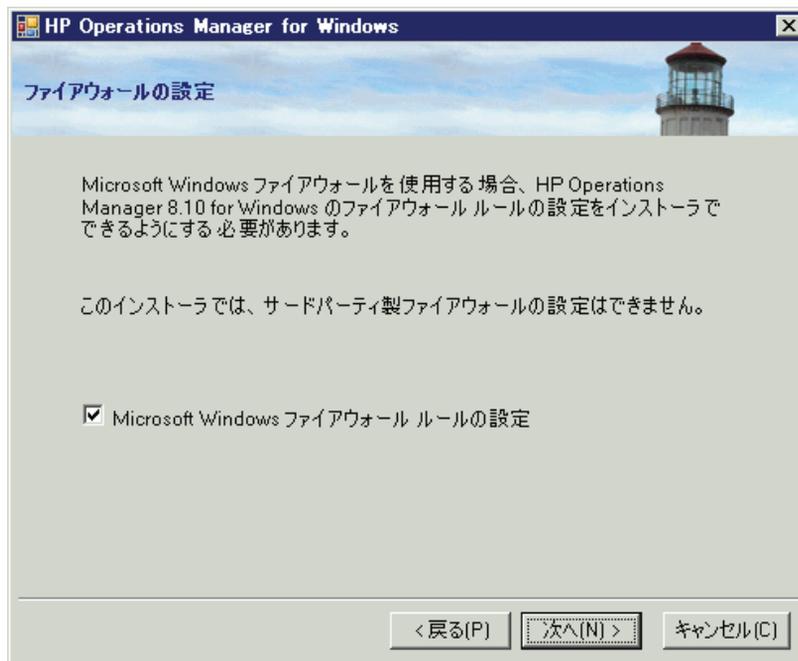


HPOM 管理サーバーは、Firewall Client サービスを実行している Microsoft Internet Security and Acceleration Server (ISA Server) とともにシステムにインストールすることはできません。HPOM のインストールを開始する前に、このサービスを停止する必要があります。インストールが終了したら、サービスを再開してください。

ISA Server Firewall Client のインストールは、HPOM のインストールが完了した後に実行することをお勧めします。

## Windows ファイアウォールが有効な管理サーバーのインストール

システムに管理サーバーをインストールする際、インストール ウィザードで、リモート コンソールとの通信に使用するファイアウォールの設定を選択する画面(下図)が表示されます。



## リモート コンソールのインストール

リモート コンソールをインストールするシステムで、ファイアウォール サービスを無効化する必要はありません。リモート コンソールをインストールした後、『HPOM Firewall Concepts and Configuration Guide』の説明に従って、ファイアウォールと HPOM を設定してください。

### Windows ファイアウォールが有効なリモート コンソールのインストール

リモート コンソールをインストールする際、インストール ウィザードで、管理サーバーとの通信に使用するファイアウォールの設定を選択する画面 ( 下図 ) が表示されます。





## 3 HPOM の標準インストール

HPOM の標準インストールは、クラスタ化されていない通常の Windows サーバーで行います。この章で説明する内容は次のとおりです。

- HPOM 管理サーバーおよびコンソールのインストール
- リモート コンソールのインストール
- サイレント モードまたは非対話モードでのリモート コンソールのインストール
- 高度なセキュア環境への HPOM のインストール

ここでの説明は、Windows のセキュリティに関する概念と用語を理解している Windows 管理者を対象としています。

HPOM を初めてインストールする場合は、ビジネス環境で使用する前に 1 つ以上のテスト用システムにインストールして、HPOM に習熟することをお勧めします。



既にインストールされている HP OpenView Operations 6.00 (VantagePoint for Windows)、HP OpenView Express、HP OpenView Operations for Windows 7.00、7.10、7.21、7.50 のバージョンを、新しいバージョンにアップグレードする場合は、現行インストールに適したアップグレード ガイドを参照してください。アップグレード ガイドは、インストール メディアに .pdf または .htm 形式で保存されています。このガイドには、アップグレード、エージェントのアップグレード、およびポリシーのアップグレード前のデータ保存の手順が記載されています。マニュアルを注文すると、印刷されたアップグレード ガイドも入手できます (HPOM 8.00 for Windows 以前のバージョンのみ)。

## ターミナル サービスによる HPOM のインストール

ターミナル サービスがリモート管理モードで実行されている場合、HPOM 管理サーバーとリモート コンソールをリモート デスクトップ接続セッション、またはターミナル サービス セッションを通じてインストールできます。

# 管理サーバーおよびコンソールのインストール

管理サーバーをインストールするには、ローカル Administrators グループのメンバーである必要があります。ドメインの一部である管理サーバーをインストールする場合は、ドメイン ユーザーであることも必要です。HPOM でセキュリティのために使用するアカウントのドメイン、グループ、ユーザー、およびユーザーパスワードの入力が求められます。インストール手順については、55 ページの「管理サーバーおよびコンソールのインストール」を参照してください。HPOM のインストールによって新しいドメイン アカウントが作成される場合は、ローカル管理者ではなく、ドメイン管理者としてログオンする必要があります。

インストール時に、Windows はインストールを実行しているユーザーの SID (セキュリティ識別子) をルックアップしようとします。これは、管理サーバーのコンピュータ アカウントが Active Directory 内のオブジェクトを参照できる場合にのみ機能します。デフォルトでは、この権限は有効化されています。コンピュータのアカウントから権限を取り除くことでセキュリティを強化している場合は、管理サーバーのインストール中は、この権限を再度有効化してください。

HPOM を使用できるようシステムを設定するために、インストール中は WMI (Windows Management Instrumentation) サービスと World-Wide-Web Publishing Server サービスを一時的に停止し、再開する必要があります。インストールを開始する前に、この中断と再開が他のアプリケーションに影響しないことを確認してください。

HPOM の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、付録 A 「システム要件のチェック」を参照してください。



HPOM では、管理サーバーをドメイン コントローラにインストールすることはできません。サポートされない設定については、46 ページの「サポートされない設定」を参照してください。

# リモート コンソールのインストール

リモート コンソールをインストールするには、インストールを行うユーザーにローカル管理者権限が必要です。

リモート コンソールから HPOM サーバーに接続するには、リモート コンソールを実行しているドメイン ユーザーが、次のいずれかの条件を (直接的に、またはグループ メンバとして間接的に) 満たしている必要があります。

- ユーザー グループ HP-OVE-ADMINS のメンバ

リモート コンソールのドメイン ユーザーは HPOM for Windows の管理者として認識されます。

- ユーザー グループ HP-OVE-OPERATORS のメンバ

ユーザーは HPOM for Windows のオペレータとして認識されます。

HPOM の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、付録 A 「システム要件のチェック」を参照してください。

## Windows XP SP2 上のリモート コンソールに必要な設定

Windows XP SP2 上のリモート コンソールから管理サーバーに接続する前に、管理サーバー システムの DCOM 設定を調整する必要があります。

管理サーバーのインストールでは、通常はこれらの変更が自動的に行われます。しかし、管理サーバー システム上のカスタム セキュリティ設定によって、このような変更が妨げられることがあります。そのため、場合によっては、dcomcnfg で、HP-OVE-OPERATORS グループと HP-OVE-ADMINS グループに対して DCOM アクセス権限を追加する必要があります。dcomcnfg はコマンドラインで起動するか、**[スタート] → [ファイル名を指定して実行]** から実行します。

- 1 ¥コンソール ルート ¥コンポーネント サービス ¥コンピュータ ¥マイ コンピュータに移動します。
- 2 右クリックして、ショートカット メニューから **[プロパティ]** を選択します。
- 3 **[COM セキュリティ]** タブを選択します。
- 4 **[アクセス許可]** セクションの **[制限の編集]** をクリックします。  
HP-OVE-ADMINS グループと HP-OVE-OPERATORS グループを追加します。  
これらのグループに **ローカル アクセス** と **リモート アクセス** を許可します。 **[OK]** をクリックします。

- 5 **[起動とアクティブ化のアクセス許可]** セクションの **[制限の編集]** をクリックします。HP-OVE-ADMINS グループと HP-OVE-OPERATORS グループを追加します。これらのグループに、利用できる権限 (全部で 4 つ) をすべて付与します。 **[OK]** をクリックします。
- 6 **[OK]** をクリックして、 **[マイ コンピュータのプロパティ]** ダイアログ ボックスを閉じます。
- 7 ¥コンソール ルート ¥コンポーネント サービス ¥コンピュータ ¥マイ コンピュータ ¥DCOM の構成 ¥ovpmd に移動します。右クリックして、ショートカット メニューから **[プロパティ]** を選択します。
- 8 **[セキュリティ]** タブを選択します。
- 9 **[起動とアクティブ化のアクセス許可]** と **[アクセス許可]** の両方を、 **[カスタマイズ]** に変更します。
- 10 **[起動とアクティブ化のアクセス許可]** リストには、System アカウント、HP-OVE-ADMINS ユーザー グループ、HP-OVE-OPERATORS ユーザー グループ、Windows ローカル Administrators グループが含まれている必要があります。これらのすべてに対し、利用できる権限をすべて付与してください。その他のエントリはすべて削除できます。
- 11 **[アクセス許可]** リストには、System アカウント、HP-OVE-ADMINS ユーザー グループ、HP-OVE-OPERATORS ユーザー グループ、Windows ローカル Administrators グループが含まれている必要があります。System アカウントには、ローカル アクセスのみが必要です。これらすべてのグループに対し、利用できる権限をすべて付与してください。その他のエントリはすべて削除できます。
- 12 **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。
- 13 OvOWReqCheck、OvOWReqCheckSvr、DNSDiscovery、ovadsprov、ovdnsprov、ovnetprov、ovnnmprov、ovunmagtprov の各エントリについて、上記の ovpmd での設定手順を繰り返します。
- 14 [Windows Management and Instrumentation] のプロパティを開きます。
- 15 **[起動とアクティブ化のアクセス許可]** と **[アクセス許可]** の両方を、 **[カスタマイズ]** に変更します。
- 16 **[起動とアクティブ化のアクセス許可]** リストには、デフォルトの設定のほか、HP-OVE-ADMINS ユーザー グループ、HP-OVE-OPERATORS ユーザー グループ、Windows ローカル Administrators グループが含まれている必要があります。これらのすべてに対し、利用できる権限をすべて付与してください。

- 17 **[アクセス許可]** リストには、デフォルトの設定のほか、System アカウント、HP-OVE-ADMINS ユーザーグループ、HP-OVE-OPERATORS ユーザーグループ、Windows ローカル Administrators グループが含まれている必要があります。System アカウントには、ローカルアクセスのみが必要です。これらすべてのグループに対し、利用できる権限をすべて付与してください。
- 18 **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

## ライセンス情報

HPOM には、この製品をインストール後 60 日間使用できる試用版ライセンスが付属しています。HPOM コンソールを最初に起動する際に、標準版ライセンスのパスワードを入力する画面が表示されます。標準版パスワードは、ここで取得することも、後から取得することもできます。61 日目に達すると、標準版ライセンスを取得するまでこの製品を使用できなくなります。85 ページの「ライセンス情報の入力」を参照してください。

# HPOM のインストール

HPOM メディア キットに含まれるその他の製品 (SPI やアドオンなど) をインストールすることもできます。ただし、SPI やアドオンをインストールするには、HPOM を最初にインストールするか、HPOM が既にインストールされている必要があります。

- 1 すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。
- 2 開いているすべてのアプリケーションを閉じて、再起動の必要性を最小限にします。
- 3 コンソールとして使用するシステムの DVD ドライブに HPOM 8.10 for Windows の DVD を挿入します。
  - ドライブの自動再生が有効な場合、インストールが自動的に開始されます。
  - 自動再生が無効な場合は、インストール メディアのルートから **Setup.exe** を実行します。

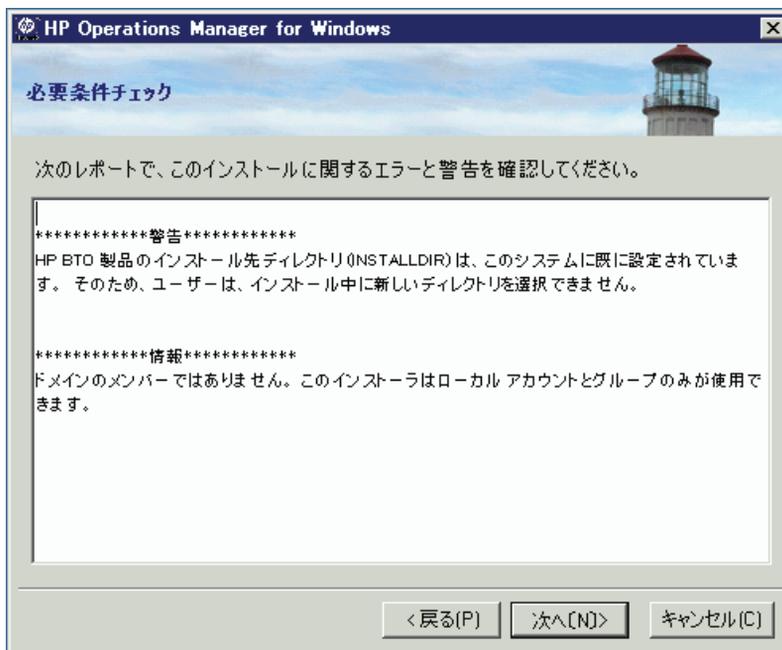
インストールには、Microsoft.NET Framework や Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージなどの前提条件が必要な場合があります。こうした必要なソフトウェアを先にインストールしてから、HPOM ソフトウェアのインストールを開始します。

- 4 管理サーバーとコンソールをインストールするには、[ようこそ] ページの [次へ] をクリックします。リモート コンソール システムをインストールするには、[リモート コンソール] をクリックして [次へ] をクリックします。



- 5 **[必要条件チェック]** ページには、HPOM の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告が表示されます。インストールを続ける前に、すべてのエラーを解決する必要があります。インストール時にチェックされるハードウェアとソフトウェアの項目については、付録 A 「システム要件のチェック」を参照してください。

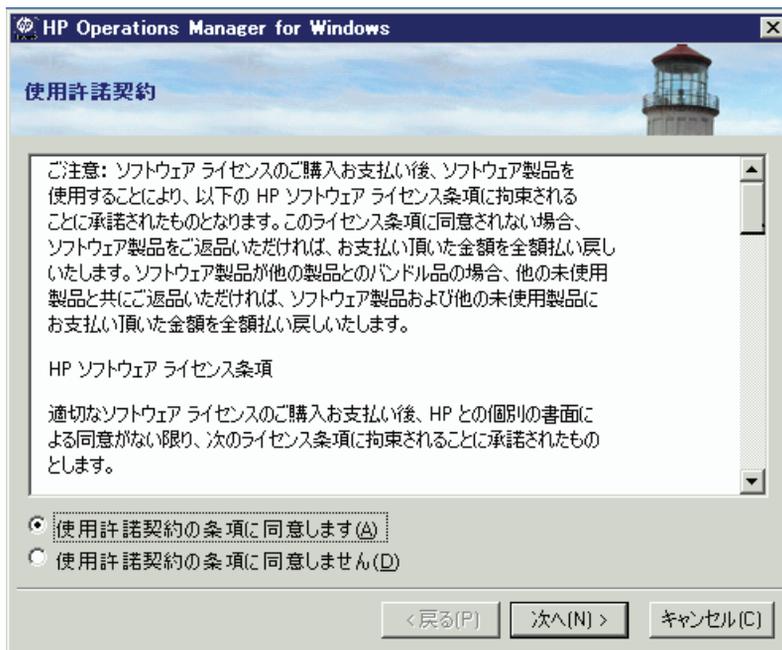
エラーが検出されない場合は、**[次へ]** をクリックして操作を続けます。



このウィンドウには、再起動されるサービスが表示されます。再起動は、インストールプロセスの実行中に自動的に行われます。砂時計のカーソルで **[OK]** をクリックし、使用許諾契約書の同意画面に進みます。



- 6 **[使用許諾契約]** ページでは、使用許諾契約書の内容に同意し、**[次へ]** をクリックしてインストーラを継続します。同意しない場合、インストーラはキャンセルされます。



標準版ライセンスの取得については、85 ページを参照してください。

- 7 **[管理サーバーまたはリモート コンソールの言語]** ページで、**[言語]** をクリックしてインストーラが使用する言語を選択します。

このウィザード ページは、システムで英語バージョンの Microsoft Windows オペレーティング システムが実行されている場合にのみ表示され、これにはマルチリンガル ユーザー インタフェース (MUI) のシステムも該当します。

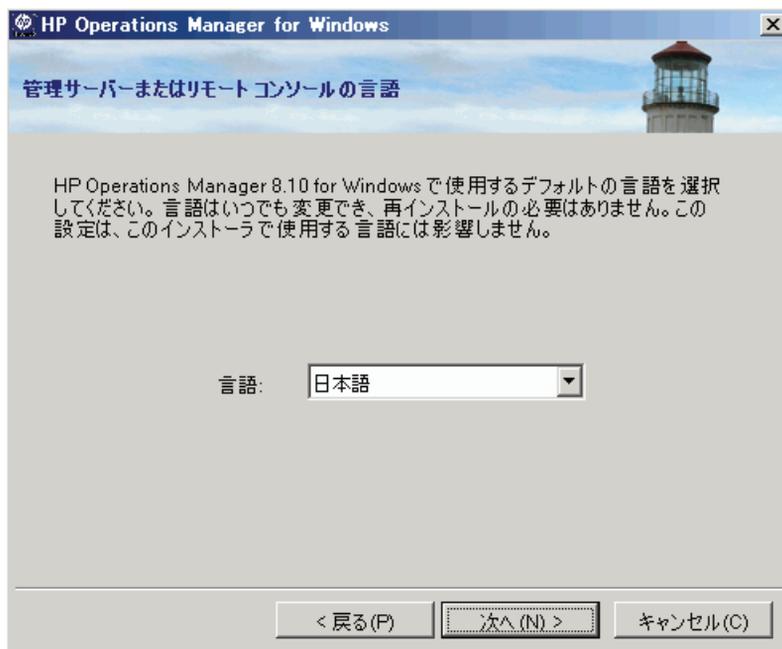
管理サーバーのインストール時、インストーラはここで選択された言語を使用して、デフォルトのツール、ポリシー、および HPOM が提供するその他のオブジェクトを作成します。これらの言語設定を後で変更することはできません。

インストーラはデフォルトでは、特定のポリシーが Windows OS SPI および UNIX OS SPI から自動配布されるよう設定します。ここで選択された言語によって、ポリシーの言語が決まります。

また、ここでの選択によって、管理サーバーが実行時に使用する言語、たとえば管理サーバーが生成するエラー メッセージの言語などが決まります。

MUI のシステムでは、Windows でのユーザーの言語設定によって、HPOM のコンソールおよびオンライン ヘルプに表示される言語が自動的に決まります。つまり、ここで選択した言語は、HPOM のコンソールおよびオンライン ヘルプで表示される言語には影響しません。このウィザード ページは、リモート コンソールのインストール時には表示されません。

**[次へ]** をクリックします。



- 8 **[ポリシー言語]** ページで、HPOM により提供されるポリシーの言語を追加で選択します。デフォルトでは、英語と、管理サーバーについて選択した言語 (英語ではない場合) のポリシーがインストールされます。その他の言語のポリシーをインストールするには、ここで言語を選択します。

このウィザード ページは、管理サーバーで英語バージョンの Microsoft Windows オペレーティング システムが実行されている場合のみ表示され、これにはマルチリンガル ユーザー インタフェース (MUI) のシステムも該当します。

**[次へ]** をクリックします。



- 9 **[インストール先フォルダ]** ページでは、デフォルトのインストール先ディレクトリを使用するか、別のディレクトリを指定して HPOM をインストールするかを選択できます。ここで選択したインストール先ディレクトリは、この DVD からインストールする他の HP BTO Software 製品のデフォルトディレクトリとして使用され、以後のインストールではこのディレクトリを変更できません。最初にインストールする HP BTO Software アプリケーションが、HPOM と、HP Reporter、HP Performance Manager、HP Performance Agent Software などのその他の HP BTO Software 製品のインストールディレクトリを決定します。

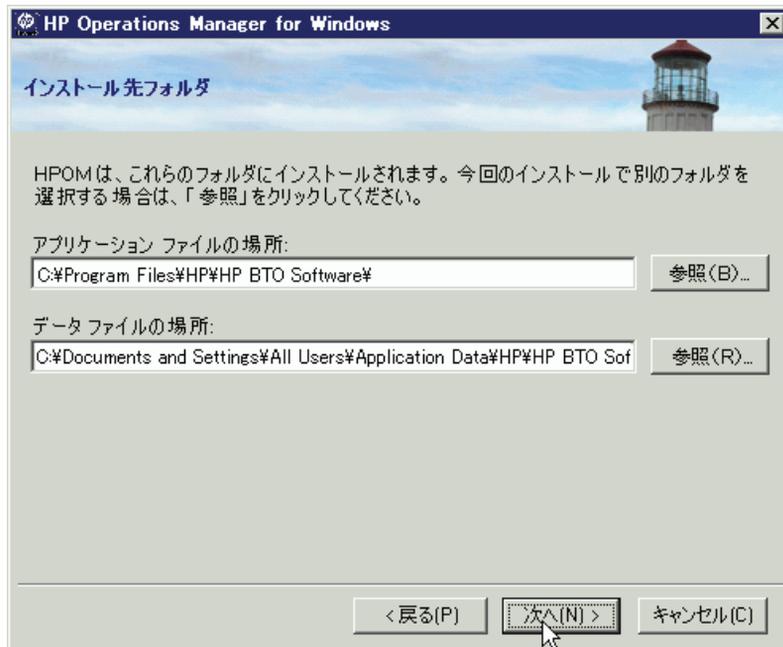
デフォルトのインストール先ディレクトリは次のとおりです。

C:\Program Files\HP\HP BTO Software\

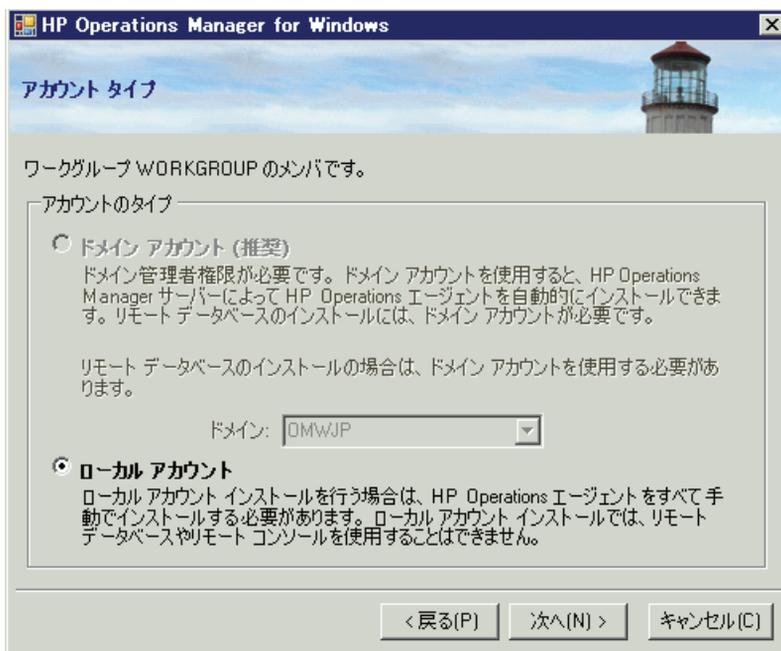
- a デフォルトのインストール先ディレクトリにインストールする場合は、**[次へ]**をクリックします。
- b デフォルト以外のディレクトリにインストールする場合は、適切な**[参照]**ボタンをクリックして、**[フォルダの参照]**ダイアログボックスを表示します。

**[インストール先フォルダ]**ページの**[参照]**ボタンは、HP BTO Software 製品 (HPOM、HP Reporter、HP Performance Manager) の最初のインストールでのみ有効です。その他の HP BTO Software 製品が既にインストールされている場合、**[参照]**ボタンは無効化されます。

- c **[フォルダの参照]**ダイアログボックスで適切なディレクトリを指定し、**[OK]**をクリックします。ディスク容量が不足している場合は、**[OK]**をクリックしたときにメッセージが表示されます。
- d **[インストール先フォルダ]**ページの**[次へ]**をクリックします。



- 10 **[アカウント タイプ]** ページで、使用するアカウントを指定し、必要に応じてドメイン名を選択します。



### ドメイン インストール:

ドメイン インストールを行うユーザーは、ドメイン管理者でなければなりません。または、ドメイン ルックアップ権限を持つローカル管理者がインストールを実行することもできます。この場合、アカウントが既に作成されていて、委任ユーザーの委任権限が設定されている必要があります。

ドメイン インストール方法は、HPOM 管理サーバーが Windows ドメインのメンバであることを前提としています。この方法では、選択したドメインでドメイン アカウント (HP-OVE-User および HP-OVE-Deleg-User) を新規作成するか、既存のものを使用します。

ドメイン インストールでは、HPOM サーバーは自動的に Windows ノードを管理し、このノードにエージェント ソフトウェアをインストールします。これは、Windows ノードが管理サーバーと同じドメインにあるか、管理サーバーのドメインに適切な信頼関係が設定されている場合のみ可能です。

## ローカル インストール:

このインストール方法は、Windows ドメイン アカウントを必要としません。管理サーバーは、ワークグループのメンバ、または Windows ドメインのメンバのどちらでもかまいません。このインストール方法には、次の制限があります。

— 一部の SPI 製品が使用するエージェント機能パッケージは自動配布できないため、Windows 管理ノードで手動インストールする必要があります (各 SPI については、それぞれのインストール手順を参照してください)。

— 管理サーバーが、ドメインのメンバではないワークグループに含まれる HPOM のインストールでは、リモート MMC コンソールはサポートされません。この場合は、ターミナル サービスを使用して HPOM サーバーに接続し、サーバー上のコンソールを実行します。

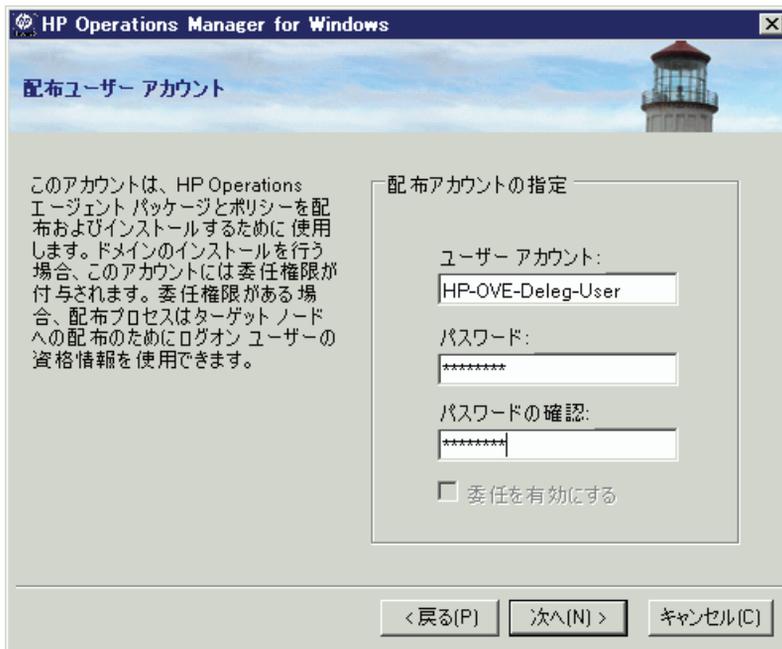
ドメイン インストール セットアップ、またはローカル アカウント セットアップのいずれかを使用する HPOM 管理サーバーではリモート MMC コンソールはサポートされますが、HPOM サーバー システムとリモート コンソール システムが同一 Windows ドメインに存在するか、それと同等の双方向ドメイン信頼関係が設定されている必要があります。

— 運用マシンにローカル アカウント インストールを行った場合、それを後からドメイン アカウントに変更することはできません。

— 管理サーバーからエージェントへの通信、イベント、ポリシー、配布、グラフ作成などは、ローカル アカウント インストールの影響は受けません。

— UNIX 管理ノードの場合は、ドメイン セットアップまたはローカル アカウント セットアップによる違いはありません。

- 11 **「配布ユーザー アカウント」** ページで、配布ユーザー アカウントに関する必要な情報を入力します。委任権限の詳細については、41 ページの「**管理サーバー**で使用されるアカウント」を参照してください。



HP Operations Manager for Windows

### 配布ユーザー アカウント

このアカウントは、HP Operations エージェント パッケージとポリシーを配布およびインストールするために使用します。ドメインのインストールを行う場合、このアカウントには委任権限が付与されます。委任権限がある場合、配布プロセスはターゲット ノードへの配布のためにログオン ユーザーの資格情報を使用できます。

配布アカウントの指定

ユーザー アカウント:  
HP-OVE-Deleg-User

パスワード:  
\*\*\*\*\*

パスワードの確認:  
\*\*\*\*\*

委任を有効にする

<戻る(P)      次へ(N) >      キャンセル(C)

12 **「管理サーバー アカウント」** ページで、次の設定を行います。

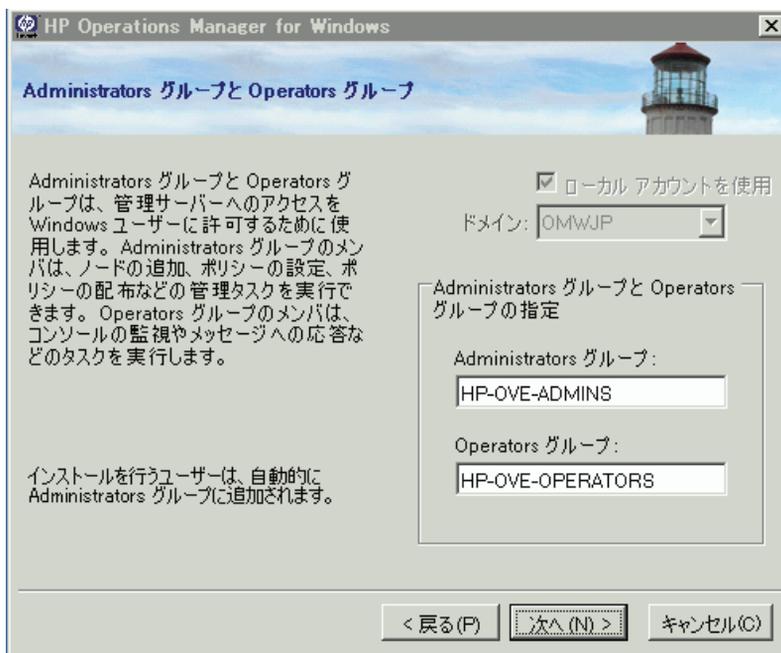
- a **「ユーザー アカウント」** を指定するか、デフォルト値をそのまま適用します。
- b 前の画面で配布ユーザーの設定に使用したものと同一パスワードを使用してください。パスワード およびパスワードの確認を入力したら、**「次へ」** をクリックします。

一度設定すると、インストール メディアから他の製品をインストールする場合にも、このアカウント情報が使用されます。リモート コンソールのインストールでは、この画面は表示されません。

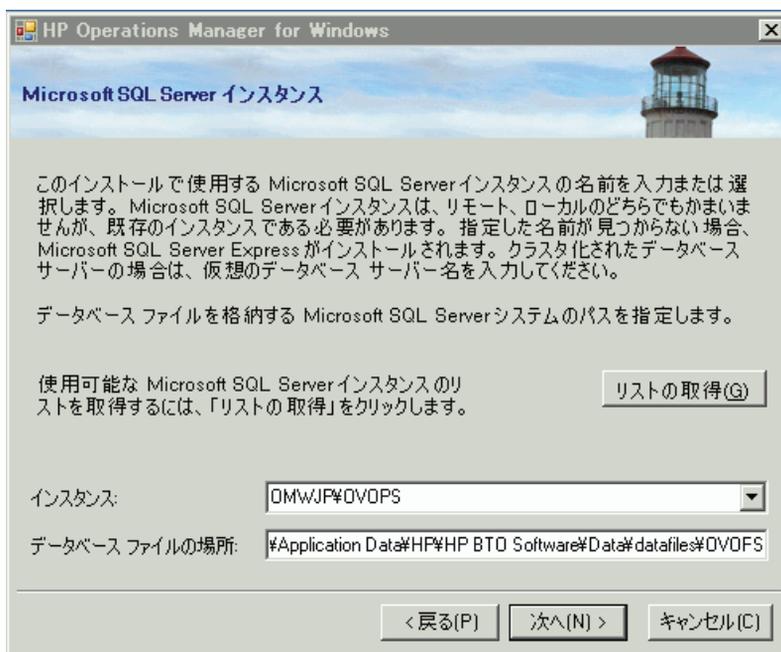
The screenshot shows a Windows application window titled "HP Operations Manager for Windows". The main heading is "管理サーバー アカウント" (Management Server Account). Below the heading is a descriptive paragraph: "管理サーバー アカウントは、ポリシーの管理および配布プロセス以外のすべての管理サーバー プロセスを実行するアカウントです。" (The management server account is an account used to execute all management server processes other than policy management and distribution processes). To the right, under the heading "管理サーバー アカウントの指定" (Specify Management Server Account), there are three input fields: "ユーザー アカウント:" (User Account) with the value "HP-OVE-User", "パスワード:" (Password) with masked characters "\*\*\*\*\*", and "パスワードの確認:" (Confirm Password) with masked characters "\*\*\*\*\*". At the bottom of the window are three buttons: "< 戻る(P)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル(C)" (Cancel).

- 13 **[Administrators グループと Operators グループ]** ページで、ローカルグループ アカウントを作成する場合は **[ローカル アカウントを使用]** を選択し、ドメイン グループ アカウントを作成する場合はドメインを選択します。

続いて、管理者グループとオペレータ グループのアカウントを指定し、**[次へ]** をクリックします。



- 14 **[Microsoft SQL Server インスタンス]** ページで、HPOM データベースで使用する SQL Server インスタンスの名前を追加し、データベース ファイルを配置する SQL Server 上の場所のパスを指定します。SQL Server サービスは、HPOM ファイルが配置されているディレクトリにアクセス可能なログインで実行できます。たとえば、管理権限を持つログインや、管理権限を持っていなくても対象のファイルにアクセスできるログインです。



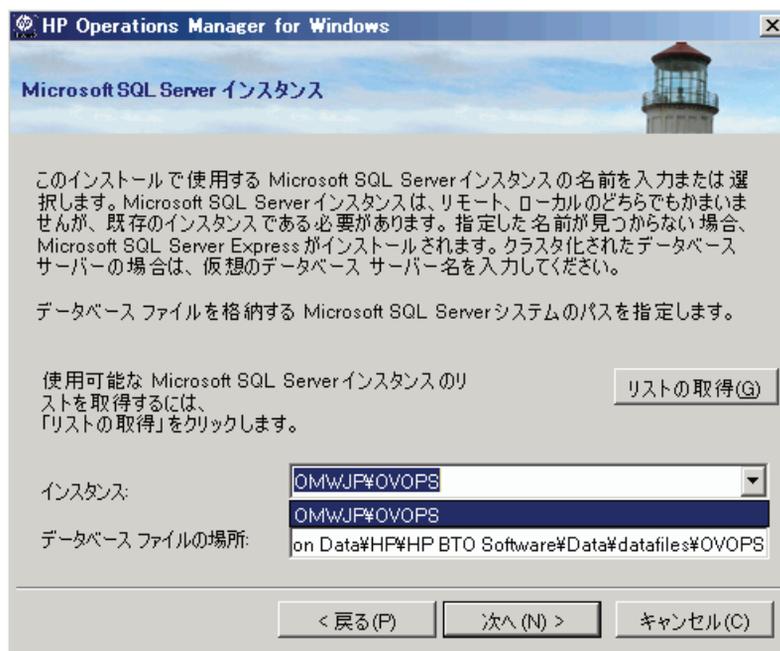
**[データベース ファイルの場所]** ボックスに指定したパスが SQL Server システム上に存在しない場合、HPOM インストールは自動でこの場所を追加します。

▶ データベース ファイル用に十分なディスク容量があることを確認してください。データベース ファイルのサイズは、管理するオブジェクトの数によって異なります。

HPOM とともにローカル SQL Server Express インスタンスをインストールする場合は、[ インスタンス ] フィールドでまだ使用されていない名前を指定します。フル SQL Server (ローカルまたはリモート) を使用する場合は、HPOM のインストール前にフル SQL Server をインストールしておく必要があります。

利用できる SQL サーバー インスタンスのリストを見るには、**[リストの取得]** をクリックします。使用対象となるインスタンスのリストが表示されます。

リストからリモート データベース インスタンスを選択できない場合は、SQL Server が正しく設定されていない可能性があります。詳細は、27 ページの「データベース要件」を参照してください。



**【次へ】**をクリックすると、インストールプログラムにより、このインスタンスが存在するかどうかチェックされます。ローカル インスタンスが存在しない場合、HPOM により SQL Server Express がインストールされます。

指定したフル SQL Server インスタンス (ローカルまたはリモート) が存在し、接続できる場合は、既存の openview データベースの確認が行われます。データベースが存在しない場合、インストール時に自動で追加されます。

openview データベースが既に存在しているときは、インストール時にそのデータベースを削除して新しいデータベースを追加するかどうかを選択できます。



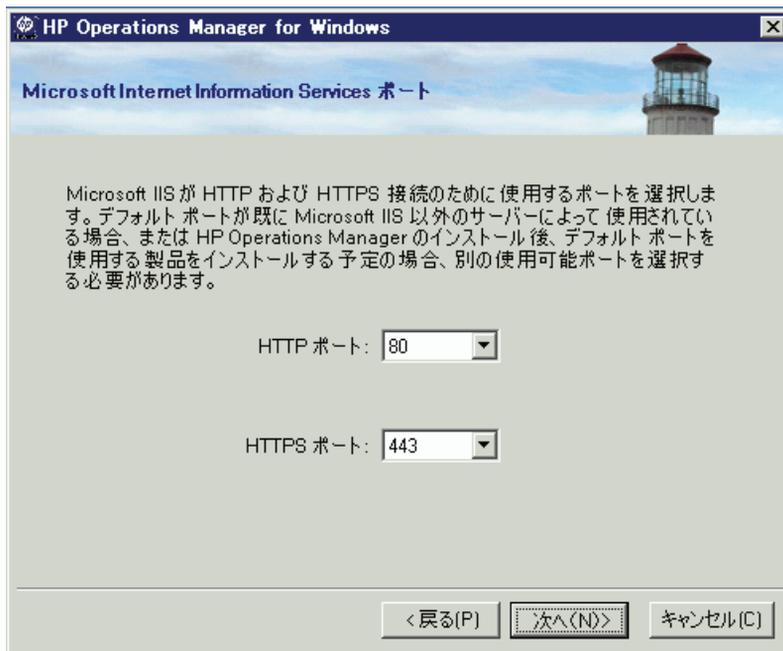
破損したデータが問題を引き起こす可能性があるため、HPOM 8.10 for Windows では、既存の openview データベースの再使用をサポートしていません。古いデータを保持する場合は、アップグレードまたは移行を実行する必要があります。

指定されたリモート インスタンスが存在しないか接続できない場合は、接続が有効かどうか、および名前が正しいかどうかを確認するようメッセージが表示されます。

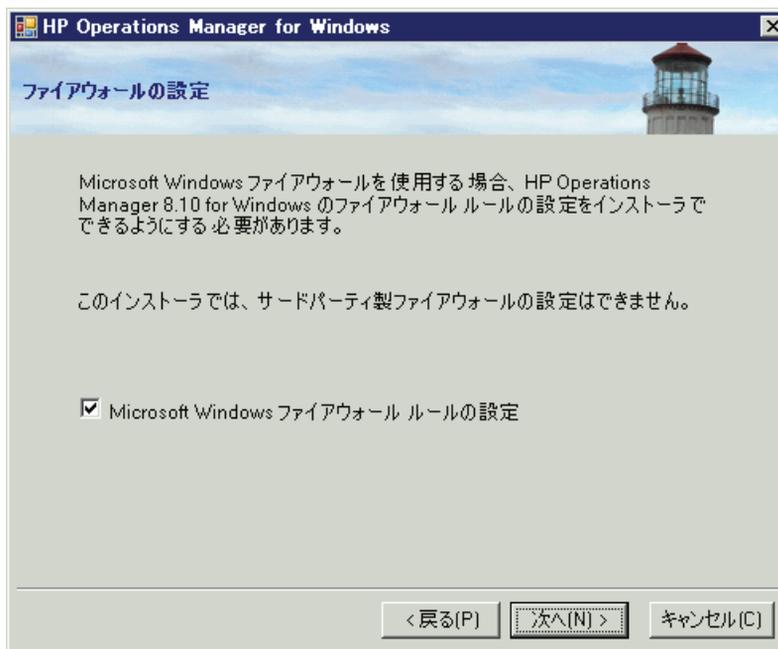


指定したインスタンスがリモート **SQL Server Express** インスタンスである場合、リモート接続が可能であればインストールは継続されます。ただし、この状況は **HPOM** ではサポートされていません。

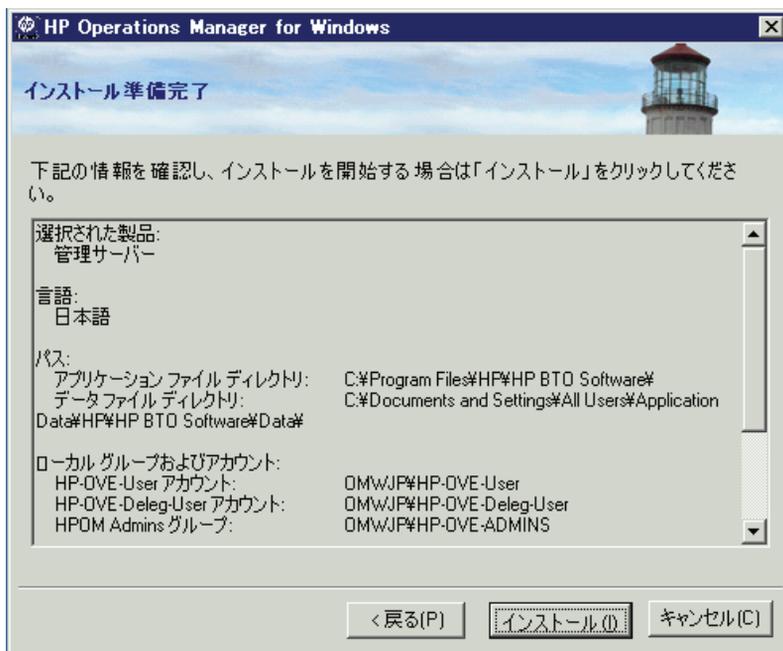
- 15 デフォルト以外のポートを使用するときは、**[Microsoft Internet Information Services ポート]** ページで、Internet Information Services (IIS) の HTTP および HTTPS ポートを変更します。**[次へ]** をクリックし、**[ファイアウォールの設定]** ページに進みます。



- 16 管理サーバーで Windows ファイアウォールが有効になっていて、HPOM インストールの際に必要なルールを作成する場合は、[ **ファイアウォールの設定** ] ページで [ **Microsoft Windows ファイアウォール ルールの設定** ] を選択します。[ **次へ** ] をクリックして、[ **インストール準備完了** ] ページに進みます。



- 17 [インストール準備完了] ページで [インストール] をクリックします。インストールが開始されます。



- 18 各インストール コンポーネントがそれぞれのステータス ダイアログを表示します。たとえば、ライセンス コンポーネント、コア コンポーネント、SQL Server コンポーネント、および SPI が製品に含まれます。インストールの間、定期的に進捗ウィンドウが表示されます。インストールが完了した項目とインストール中の項目についての詳細が示されます。

システムの処理速度によって、インストール プロセスには数分から 1 時間以上かかります。インストールが完了したら、[次へ]をクリックし、[インストール終了] ページに進みます。

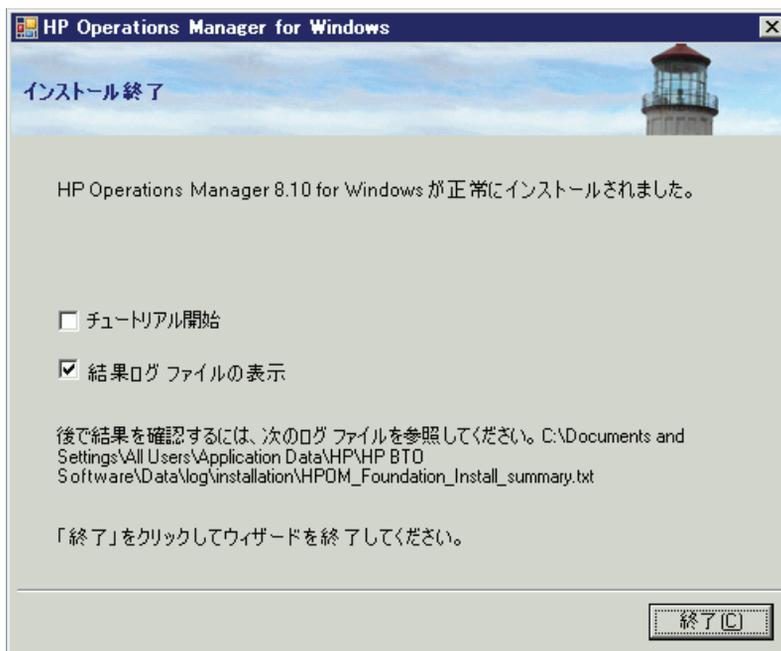


- ▶ HPOM 管理サーバーに SQL Server コンポーネント (Client Tools など) が既にインストールされている場合、インストール中に以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

「Warning 28213. Warning: SQL Server Setup cannot install this feature because a different edition of this feature is already installed. For more information, see 'Version and Edition Upgrades' in SQL Server Books Online.」

このメッセージを承認して、HPOM インストールを続けます。

- 19 **【インストール終了】**ページが表示されると、インストールは終了です。  
**【終了】**をクリックしてインストールを終了します。



完了したインストールの詳細を確認するには、**【結果ログ ファイルの表示】**チェックボックスをオンにします。

インストールプログラムの終了時に、基本トレーニング チュートリアルを参照するように求められます。**【インストール終了】**ページで**【チュートリアル開始】**をクリックします。このチュートリアルは、HPOM の機能と製品概要を紹介し、HPOM の操作を始める前に行う必要がある設定と配布の手順を詳細に説明します。

# サイレント モードまたは非対話モードでの管理 サーバーまたはリモート コンソールのインストール

設定ファイルとコマンドライン パラメータを使用して、サイレント モードまたは非対話モードで管理サーバーまたはリモート コンソールをインストールできます。

Setup.exe では以下のパラメータを使用できます。

- /qn は、サイレント モード (進捗情報の表示なし、ユーザー インタフェースなし) を指定します。

サイレント インストールを開始するには、次のコマンド構文を使用します。

```
Setup.exe /qn /configfile:<設定ファイル> /sourcedir:<ディレクトリ >
```

- /qr は非対話モード (進捗情報の表示あり、ユーザー インタフェースなし) を指定します。

非対話式インストールを開始するには、次のコマンド構文を使用します。

```
Setup.exe /qr /configfile:<設定ファイル> /sourcedir:<パス >
```



通常、Microsoft .NET Framework のインストールには数分を要し、その間、進捗を示す情報は何も表示されません。

インストールを開始する前に、設定ファイルの構文と値をチェックすることはできません。

## サイレント モードまたは非対話モードで使用する設定ファイル

対話式のインストールで指定するすべての設定値を、設定ファイルに XML 形式で指定します。設定ファイルのサンプルは、インストール メディアの次の場所にあります。

- Documentation¥Unattended Install¥RemoteConsole.config
- Documentation¥Unattended Install¥ManagementServer.config

サイレント モードまたは非対話モードでクラスタ ノードにインストールするための設定ファイルの例も用意されています。詳細は、135 ページの「サイレントモードまたは非対話モードでのクラスタ ノードへのインストール」を参照してください。

サンプルの設定ファイルのいずれかを他の場所にコピーして、必要なフィールドを編集します。フィールドの詳細については、60 ページの「[HPOM のインストール](#)」に示す対応するウィザード ページのドキュメントを参照してください。

設定ファイルには、サイレント モードまたは非対話モードでアップグレードや移行を行うためのオプションもあります。ただし、アップグレードや移行には、`setup` コマンドでは自動的に実行されない手順が含まれています。サイレント モードや非対話モードで実行されるのは、HPOM インストール ウィザードで通常ユーザーが行う手順のみです。アップグレードと移行の詳細は、『[HP Operations Manager 8.10 for Windows アップグレード ガイド](#)』を参照してください。



サイレント モードと非対話モードがサポートされるのは、HPOM 8.00 から HPOM 8.10 への移行とアップグレードに限られます。HPOM 7.50 からの移行とアップグレードは、サイレント モードや非対話モードで行うことはできません。

次に、管理サーバーおよびコンソールを、サイレント モードまたは非対話モードでインストールするための設定ファイルの例を示します。

## 管理サーバー インストール用の設定ファイルの例

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>

  <!-- Use the appSettings section to define an unattended install
  session. -->
  <appSettings>
    <!--Valid values: "server" or "console". Case insensitive. -->
    <add key="ProductType" value="server" />

    <!-- The destination directory for application files. -->
    <add key="InstallDir" value="c:\Server\" />

    <!-- The destination directory for product data files. -->
    <add key="DataDir" value="C:\Server\data\" />

    <!-- Acknowledgement of the license agreement. Valid values:
    "yes" or "no". -->
    <add key="AgreeToLicense" value="yes" />

    <add key="CreateFirewallRules" value="yes" />

    <!-- Valid values: "single", "primary", or "subsequent". Case
    insensitive. -->
    <add key="ClusterMode" value="single" />
  </appSettings>
</configuration>
```

```

<add key="InstanceNameFull" value="[local machine]\OVOPS" />

<!-- The absolute path to the database files directory. -->
<add key="DatabaseFilesPath" value="c:\database\OVOPS\" />

<add key="HPOM Users Domain" value="DOMAIN" />

<!-- The account name of the HP-OVE-User. -->
<add key="HP-OVE-User Username" value="HP-OVE-User" />

<!-- The password for the HP-OVE-User. -->
<add key="HP-OVE-User Password" value="" />

<!-- The account name of the HP-OVE-Deleg-User. -->
<add key="HP-OVE-Deleg-User Username" value="HP-OVE-Deleg-User" />

<!-- The password for the HP-OVE-Deleg-User. -->
<add key="HP-OVE-Deleg-User Password" value="" />

<add key="EnableDelegation" value="yes" />

<!-- HPOM roles groups setup. -->
<add key="HPOM Roles Domain" value="[local machine]" />
<add key="HP-OVE-Admins Roles Group" value="HP-OVE-ADMINS" />
<add key="HP-OVE-Operators Roles Group" value="HP-OVE-OPERATORS" />

<!-- IIS configuration -->
<add key="HTTPPort" value="81" />
<add key="HTTPSPort" value="444" />

<!-- Policy languages -->
<add key="UploadEnglishPolicies" value="yes" />
<add key="UploadJapanesePolicies" value="no" />
<add key="UploadKoreanPolicies" value="no" />
<add key="UploadChinesePolicies" value="no" />

<!-- Optional values used for migration -->
<!-- Valid values: "UpgradeKeepData", "DownloadData", or
"UploadData". Case insensitive. -->
<add key="MigrationCase" value="UpgradeKeepData" />

<!-- The path to the migration data -->
<add key="MigrationDataPath" value="C:\migrationdata\" />

</appSettings>
</configuration>

```

## リモート コンソール インストール用の設定ファイルの例

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>

  <!-- Use the appSettings section to define an unattended install
  session. -->
  <appSettings>
    <!--Valid values: "server" or "console". Case insensitive. -->
    <add key="ProductType" value="console" />

    <!-- The destination directory for application files. -->
    <add key="InstallDir" value="c:\Console\" />

    <!-- The destination directory for product data files. -->
    <add key="DataDir" value="C:\Console\data\" />

    <!-- Acknowledgement of the license agreement. Valid values:
    "yes" or "no". -->
    <add key="AgreeToLicense" value="yes" />

    <add key="CreateFirewallRules" value="yes" />

    <!-- Optional values used for migration -->
    <!-- The migration case can be "UpgradeKeepData", "DownloadData", or
    "UploadData" -->
    <add key="MigrationCase" value="UpgradeKeepData" />

    <!-- The path to the migration data -->
    <add key="MigrationDataPath" value="C:\migrationdata\" />

  </appSettings>
</configuration>
```

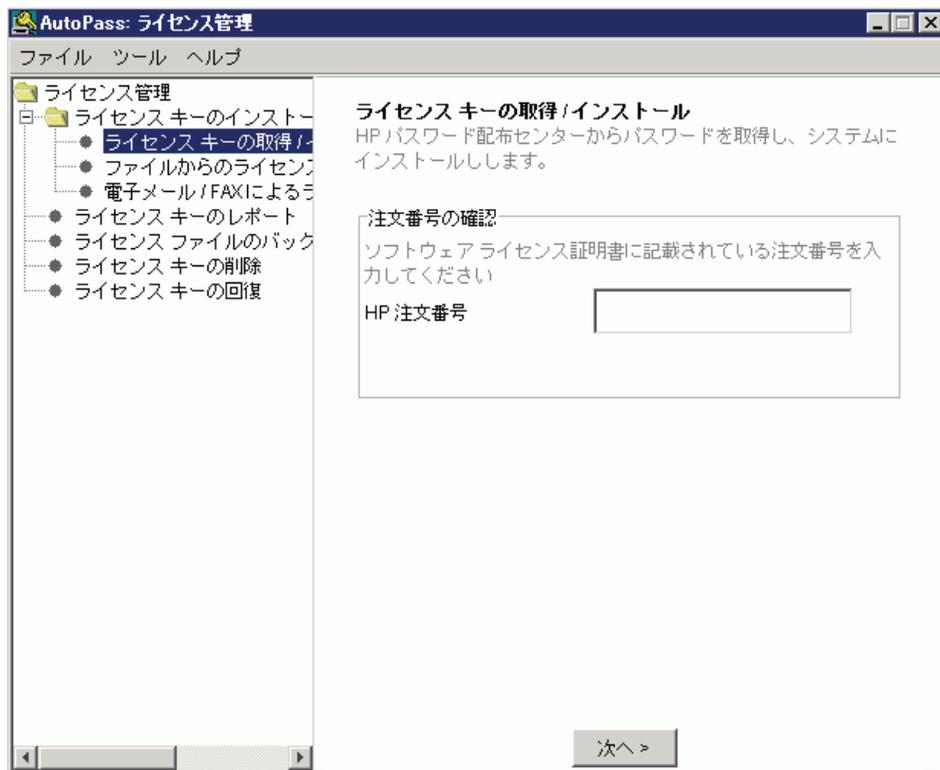
## ライセンス情報の入力

HPOM for Windows を使用するには、ライセンス キー パスワードが必要です。インストール時に、60 日間試用版ライセンスが提供されます。HPOM を継続して使用する場合は、60 日以内に標準版ライセンス キー パスワードを取得してください。

インストール時にライセンス キー パスワードを取得するには、製品の起動画面に表示されるメッセージボックスの指示に従います。ライセンス プログラムが起動するまでに数分かかります。



リモート コンソールから、ライセンス キー パスワードを請求することはできません。管理サーバーにログオンして、ライセンス キー パスワードを取得してください。



必要であれば、ライセンス情報の入力を延期することができます。後でライセンスプログラムを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 HPOM 管理サーバーで、コンソール ツリーから **[ツール]** フォルダを選択します。
- 2 **[ツール]** → **[HP Operations Manager ツール]** → **[ライセンス]** を選択して、ツールのリストを表示します。
- 3 **[ライセンスの取得]** を選択します。これにより、管理サーバー、エージェント、または SPI の標準版ライセンスのパスワードを請求できます。右クリックして、ショートカット メニューを開きます。
- 4 **[すべてのタスク]** → **[ツールの起動]** を選択して、**[AutoPass: ライセンス管理]** ダイアログ ボックスを開きます。

ライセンスプログラムの詳細な使用方法については、AutoPass のオンライン ヘルプを参照してください。AutoPass は、¥Program Files¥Common Files¥Hewlett-Packard に格納されています。

HPOM コンソールで、**[ツール]** → **[HP Operations Manager ツール]** → **[ライセンス]** を選択することでライセンス レポート ツールも選択できます。これにより、使用中のパスワードの情報を取得できます。

詳細については、HPOM オンライン ヘルプ トピックの「はじめに」 → 「HP Operations Manager for Windows のライセンス」を参照してください。

## 標準版ライセンスの請求

標準版ライセンスのパスワードを請求するには、次の情報が必要です。

- HP の注文書番号
- サーバーの IP アドレス
- お客様の会社情報

ライセンスの入手には、ライセンスを取得する製品の購入時に HP Software 正規販売代理店から発行された HP 購買注文番号を提示する必要があります。製品をまだ購入していない場合は、1-877-686-9637 (米国およびカナダ) に電話するか、または **www.hp.com** にアクセスして、各地の HP Software 正規販売代理店の所在地を確認してください。

# インストールの結果

## [スタート] メニュー

HPOM のインストールの完了後、[スタート] メニューにフォルダが追加され、コンソールを開くことができます。

[スタート] → [すべてのプログラム] → [HP] → [HP Operations Manager] → [コンソール]

## ドキュメント

HPOM のインストール後、Adobe Acrobat PDF 形式の HPOM ドキュメントが、`%OvInstallDir%\paperdocs\en` ディレクトリに格納されています。

## 実行可能ファイル

`%OvInstallDir%` ディレクトリのサブディレクトリに格納されている HPOM 実行可能ファイルのほかに、以下のディレクトリに実行可能ファイルが追加されます。

`%OvDataDir%\bin\instrumentation\`

`%OvShareDir%\Instrumentation\`

`%OvShareDir%\Packages\HTTPS\`

`%OvShareDir%\Packages\Windows\`

インストールの間に、`%SystemRoot%\System32` ディレクトリ内のファイルに変更が加えられます。

## インストール ログ ファイル

インストール後、いくつかのログ ファイルが作成され、以下のディレクトリに配置されます。

`%OvDataDir%\log\installation`

# 高度なセキュア Windows 環境への HPOM のインストールと実行

Windows 2003 には、厳密で強制力のあるセキュリティルールを、管理者が各システムに個別に、または Windows ドメイン レベルのすべてのシステム メンバに対してグローバルに実装できるセキュリティテンプレートが用意されています。

Windows 2003 システムでは、デフォルトでこれらのセキュリティテンプレートを使用できます (%SystemRoot%\security\templates)。アクセスには、「セキュリティ構成と分析」MMC スナップインを使用します。セキュリティテンプレートの実装については、Windows のドキュメントを参照してください。

## 制限グループ設定を適用した HPOM の実装

### 要件

- **管理サーバー**

HPOM サーバーは、「HP-OVE-User」の既存のローカル Administrator アカウントと、「HP-OVE-Deleg-User」のアカウントを使用して、インストールする必要があります。

HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS グループは、ローカルグループとドメイングループのいずれかとしてサポートされます。

- **管理ノード**

すべての HPOM Windows エージェントは、手動でインストールする必要があります (ただし、サーバーのインストール時に自動的にインストールされる HPOM 管理サーバーの HP Operations エージェントを除きます)。

- **リモート コンソール**

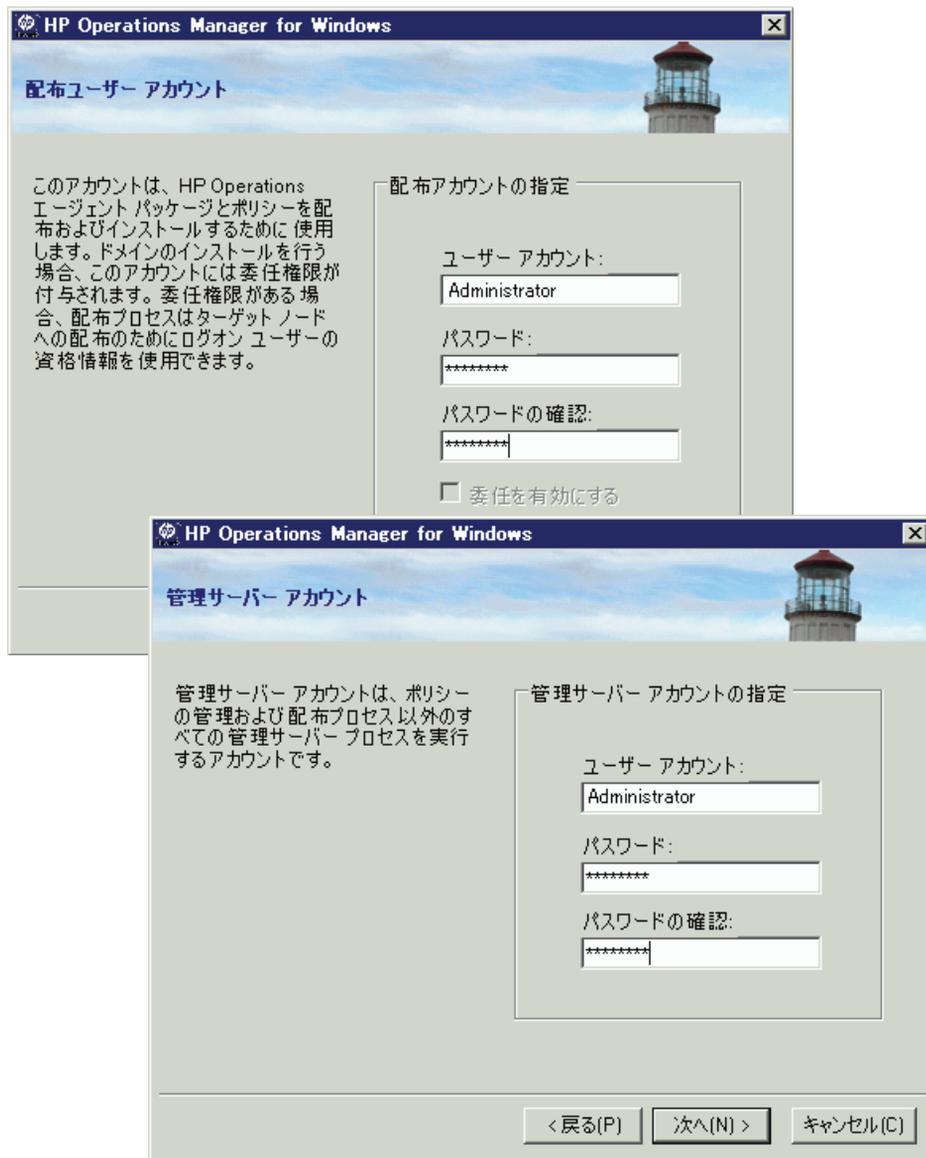
リモート コンソールはサポートされます (ただし、リモート コンソールシステムと HPOM 管理サーバーが同一ドメインのメンバであるか、または同等の双方向ドメイン信頼関係が設定されている必要があります)。

 「HP-OVE-User」および「HP-OVE-Deleg-User」アカウントとして、ドメイン管理ユーザーを使用することができますが、Windowsドメインとすべてのメンバシステムに対する管理アクセス権がHPOM管理サーバー（およびHPOM管理者）に付与されてしまうため、お勧めできません。

 高度なセキュリティ設定では、ローカル管理者を含むすべてのユーザーに対して、厳密なパスワードポリシーと、パスワード有効期限ポリシーが適用されます。HPOMは、一部のサービスをローカル「管理者」として実行するため、パスワードの有効期限に基づいて、パスワードを頻繁に更新する必要があります（パスワードの更新には **OvChgPass.exe** ユーティリティを使用します）。

 管理者グループに「制限グループ」設定が適用されている場合でも、ローカル管理者グループに一時的に別のユーザーまたはグループを追加することが可能です。ただし、最終的にはグループポリシーオブジェクト (GPO) によってこれらのユーザーまたはグループは自動的に削除されます（通常の検出間隔は15分です）。

以下の図は、配布ユーザーと管理サーバーユーザーに関するアカウントセットアップウィザードの例です。既存のローカルユーザーアカウント管理者を使用していることを確認します。追加ユーザーアカウントを作成しないでください。



## 4 HPOM のクラスタ インストール

この章では、クラスタ化された環境に HPOM をインストールする手順について説明します。これには、次の情報が含まれます。

- クラスタ セットアップの各種オプションの説明
- クラスタ セットアップの要件と、サポートされない設定
- HPOM のインストール前に行う準備
- HPOM のインストールとインストールの検証

このセクションは、Windows に習熟した管理者で、Windows のクラスタに関する概念および用語を理解している読者を対象としています。

クラスタ化されていないスタンドアロン システムに HP Operations Manager 8.10 for Windows のバージョンをインストール済みで、高可用性のためにクラスタ インストールへのアップグレードが必要な場合は、『HP Operations Manager for Windows アップグレード ガイド』を参照してください。このアップグレード ガイドには、既存の単一システム HPOM インストールを可用性の高いクラスタ化された HPOM インストールに移行する手順が記載されています。

メディア キットは、標準インストールの場合と同じです。

# クラスタ セットアップの概要

次の3つの図は、HPOM クラスタ構成の例を示しています。

- 図1の構成は、3つの仮想サーバーが同一クラスタ内で稼働します。
- 図2の構成は、HPOM 仮想サーバーが特定のクラスタで稼働し、MS SQL 仮想サーバーが別のクラスタで稼働します。両者はリモート接続されています。
- 図3の構成は、MS SQL が非クラスタシステムにインストールされ、HPOM がクラスタ環境にインストールされます。この構成は、MS SQL が単一障害点となる可能性があるため、お勧めできません。

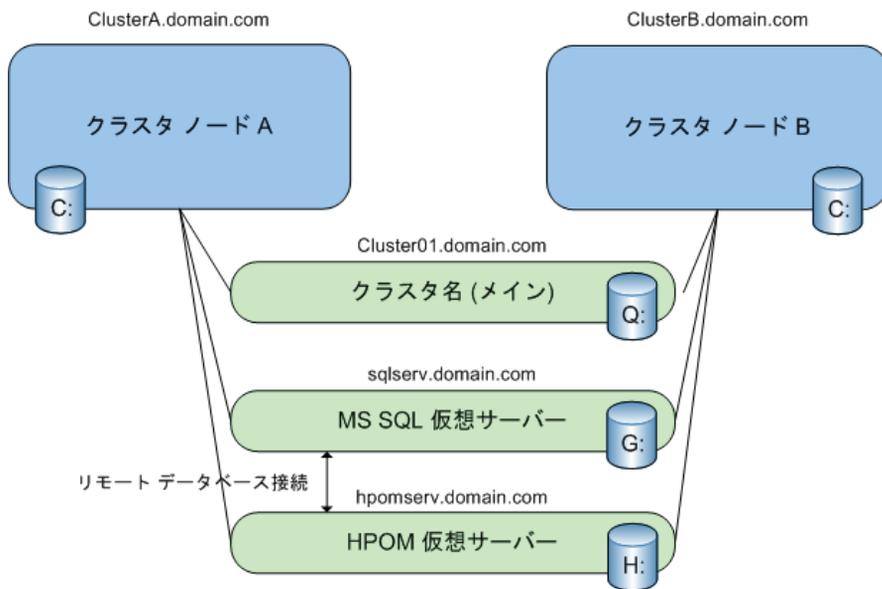
次の表は、各構成例に必要なデータを示します。インストールを行うには、次の表のように、実際の環境に即した値を収集する必要があります。

**表 1 構成データ**

項目	名前	FQDN	IP アドレス	ローカル ディスク
クラスタ仮想サーバー (メイン)	Cluster01	Cluster01.domain.com	15.8.153.30	Q: (クォーラム)
MS SQL 仮想サーバー	sqlserv	sqlserv.domain.com	15.8.153.31	G: (SQL データ)
HPOM 仮想サーバー	hpomserv	hpomserv.domain.com	15.8.153.32	H: (HPOM データ)
MS SQL データベース インスタンス	OVOPS	適用外	適用外	適用外

図 1 HPOM サーバーと SQL Server を同一クラスタ内に配置

HPOM サーバーと SQL Server を同一クラスタ内に配置



Q:、G:、H: は共有物理ディスク

図2 HPOM サーバーと SQL Server を別々のクラスタに配置

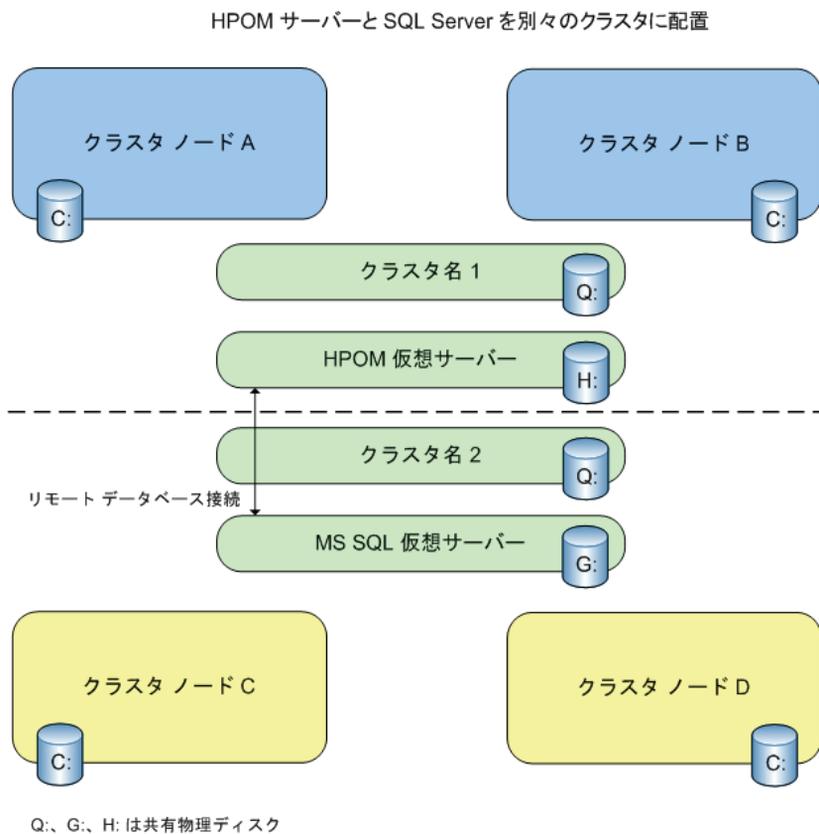
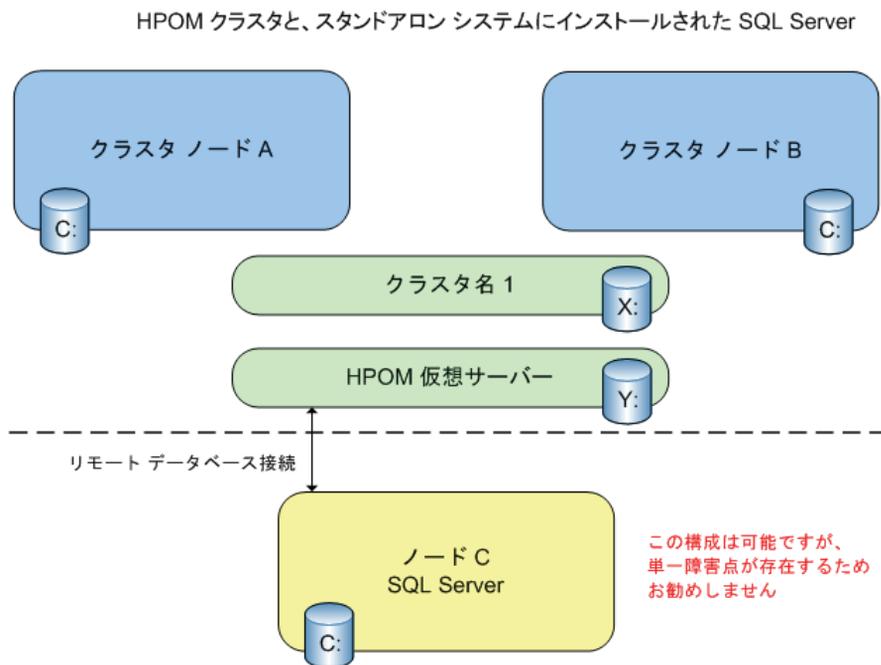


図 3 HPOM クラスタと、スタンドアロン システムにインストールされた SQL Server



# 管理サーバーおよびコンソールのインストール

HPOM 8.10 for Windows は、Microsoft Windows 2003 クラスタが稼動するフェイルオーバー構成への管理サーバーのインストールと実行をサポートします。

管理サーバーの可用性はデータ リポジトリ (Microsoft SQL Server 2000 または 2005) に左右されるため、SQL Server 2000 または 2005 も Windows クラスタにインストールすることをお勧めします。これは必須ではありませんが、通常は、SQL Server データベース インスタンスは、HPOM 管理サーバーと同じクラスタに配置されます。

▶ インストール手順を簡略化するには、HPOM と SQL Server が独立したリソースグループとして同じ Windows クラスタで稼動することが前提となります。SQL Server を、別のクラスタや、クラスタ化されていないスタンドアロン システムで稼動させることもできます。スタンドアロン システムでの稼動はサポートされますが、管理サーバーのセットアップに対する単一障害点が生じるため、お勧めできません。

▶ クラスタ ノードに HPOM 管理サーバーをインストールしたときは、そのクラスタの管理サーバーに接続する HPOM コンソールから、クラスタ ノードを表す新しい管理ノードを認識できません。クラスタ ノードを認識させるには、コンソールを終了し、再起動する必要があります。

HPOM 管理サーバーをインストールするには、インストールを行うユーザーにドメイン管理者権限が必要です。

▶ HPOM では、管理サーバーをドメイン コントローラにインストールすることはできません。サポートされないその他の設定については、46 ページの「サポートされない設定」を参照してください。

## インストールの前に

- すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。
- 99 ページの「サポートされない設定」を確認してください。

## ライセンス情報

HPOM には、この製品をインストール後 60 日間使用できる 60 日間試用版ライセンスが付属しています。

HPOM コンソールを最初に起動する際に、標準版ライセンスのパスワードを入力する画面が表示されます。標準版パスワードは、ここで取得することも、後から取得することもできます。61 日目に達すると、標準版ライセンスを取得するまでこの製品を使用できなくなります。85 ページの「[ライセンス情報の入力](#)」を参照してください。



HPOM の標準版ライセンスを請求する場合は、112 ページの[手順 9](#)で入力した HPOM 仮想サーバーの IP アドレスを指定します。取得したライセンスは、HPOM 仮想サーバーの IP アドレスに限定されます。

HPOM の標準版ライセンスを取得するプロセスは、HPOM がアクティブになっているクラスタ ノード上で開始する必要があります。クラスタ ノードを追加するときに、さらに他のライセンスを取得する必要はありません。

## クラスタの要件

- 2 ノード以上のハードウェア クラスタと、それに接続された共有ストレージ、およびオペレーティング システムとして Windows 2003 Enterprise または Datacenter Edition が必要。
- SQL Server 2000 (Enterprise Edition) SP4 以上、または SQL Server 2005 (Enterprise Edition) SP2 以上がインストールされ、ユーザーが設定可能な名前 (OVOPS など) でデータベース インスタンスが実行されていること。
- HPOM の空の専用リソース グループが必要。リソース グループの名前には、ASCII 文字のみを使用できます。詳細については、リリース ノートのエントリ QXCR1000125936 を参照してください。
- クラスタ ソフトウェアとして、次のリソースを使用できる Microsoft Cluster Server (MSCS) が必要です。

- 3 つ以上の専用の共有ディスク

- クラスタ クォーラム
- SQL Server データベース ストレージ
- HPOM データ ストレージ



クォーラム ディスクの代わりに Majority Node Set Quorum を使用する場合、クラスタ クォーラムの使用は必須ではありません。これらの違いについては、Windows Server 2003 Enterprise Edition で MS クラスタのオンライン ヘルプ トピック「クラスタ モデルの選択」を参照してください。

- 次のように、名前と逆引きのエントリで DNS (FQDN) に設定された 5 つ以上の静的な専用 IP アドレス

- 各クラスタ ノードの定常名と IP アドレス (2 つ以上)
- クラスタの仮想サーバー名と IP アドレス (1 つ)
- SQL Server の仮想サーバー名と IP アドレス
- HPOM 仮想サーバー名と IP アドレス

## サポートされない設定

- 同じクラスタ リソース グループにインストールされた SQL Server と HPOM 管理サーバーが、同じ共有ストレージを使用する。
- HPOM 管理サーバーをクォーラム ディスクと同じクラスタ リソース グループにインストールする。
- Microsoft SQL Server Express をデータ リポジトリとして使用する。
- Microsoft Cluster Server 以外のクラスタ ソフトウェアを使用する。
- クラスタ ノードのホスト名が 15 文字を超えている。
- 既存の非クラスタ HPOM インストールをクラスタ インストールに置換アップグレードする。
- 同一クラスタ内に複数の単一システム HPOM をインストールする。
- 1 つの HPOM 管理サーバーの複数のインスタンスを、ロードバランスによってクラスタ内に作成する。
- HPOM をインストールする前に、いずれかの HP BTO Software 製品をクラスタにインストールする。

# HPOM インストールの準備

管理サーバーに HPOM をインストールする前に、以下の要件が満たされていることを確認してください。

- MSCS がインストールされ、すべての要件を満たして正常に動作している。
  - ▶ Windows 2003 Cluster Server のインストールについては、<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/windowsserver2003/technologies/clustering/confclus.mspx> の「Guide to Creating and Configuring a Server Cluster under Windows Server 2003」(英語)を参照してください。
- ユーザーが設定可能な名前で SQL Server データベース インスタンスがセットアップされ、稼動している。
  - ▶ SQL Server 2005 のインストールをお勧めしますが、SQL Server 2000 もサポートされています。  
SQL Server 2000 仮想サーバーの名前付きインスタンスを、Windows 2003 ベースのクラスタにインストールする方法については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;815431> を参照してください。

## タスク 1: クラスタの検証

- 1 クラスタが機能していることを検証します。クォーラム ディスクを含むクラスタ リソース グループを、設定されているすべてのクラスタ ノードに移動します。各クラスタ ノードが、SQL Server と HPOM の指定共有ディスクを認識し、同じドライブ名が割り当てられていることを確認します ([マイコンピュータ] → [管理] → [ディスクの管理])。
- 2 MS SQL が 1 つの FQDN と IP アドレスを持ち (たとえば、sqlserv.domain.com)、HPOM サーバーが 1 つの FQDN と IP アドレスを持つ (たとえば、hpomserv.domain.com) ことを確認します。両方の名前と IP アドレスの名前解決が可能であることを確認します。
  - ▶ Active Directory と DNS セットアップが統合された環境では、仮想サーバーをアクティブにしなければ、仮想サーバー名と IP アドレスは解決されません。

## タスク 2: クラスタ リソースの作成と共有ディスクの割り当て

- 1 SQL Server データベース ストレージ用の共有ディスクを含むクラスタ リソース グループを指定します。これらのグループは、通常は検出されるすべての共有ディスクについて、MS クラスタ ウィザードによって作成されます。この方法で作成しない場合は、MS クラスタ アドミニストレータを使用して、手動でグループを作成する必要があります。「SQL Group」などのグループ名を設定します。
  - ▶ SQL Server は、共有ディスクと同じクラスタ リソース グループになければなりません。
- 2 HPOM データ ストレージ用の他のクラスタ リソース グループと共有ディスクを指定します。このグループの名前は、たとえば「HPOM Group」にします。このグループに IP アドレスとネットワーク名が含まれていないことを確認してください。
  - ▶ HPOM を最初のクラスタにインストールした後は、クラスタ リソース グループの名前を変更しないでください。
- 3 すべてのグループをすべての指定クラスタ ノードに移動でき、共有ディスクにアクセス可能 (読み書き可能) であることを確認します。

## タスク 3: SQL Server 2005 Enterprise Edition のインストール (推奨)

MS SQL 2005 をインストールするには、MS SQL 2005 のマニュアルを参照してください。

Windows Server 2008 クラスタに SQL Server 2005 をインストールする場合、まず Microsoft Distributed Transaction Coordinator (DTC) へのネットワーク アクセスが構成されているか確認する必要があります。構成されていない場合、非アクティブなクラスタ ノードは、他のクラスタ ノード上の SQL Server に接続できません。この制約によって、HPOM のインストール時やフェイルオーバーを行う際に問題が生じる可能性があります。

SQL Server 2005 をインストールする前に、クラスタ アドミニストレータを使用して、必ず DTC クラスタ リソースを作成してください。

クラスタ内の各ノードのコンポーネント サービスで、次の設定を行います。

- **[マイ コンピュータ]** → **[プロパティ]** の順に選択し、**[COM セキュリティ]** タブをクリックします。NETWORK SERVICE アカウントに次の権限が与えられているか確認します。
  - アクセス許可
    - ローカル アクセス

- リモート アクセス
- 起動とアクティブ化のアクセス許可
  - ローカルからの起動
  - リモートからの起動
  - ローカルからのアクティブ化
  - リモートからのアクティブ化
- クラスタ化された DTC のプロパティで、**[セキュリティ]** タブをクリックします。次の設定を有効にします。
  - ネットワーク DTC アクセス
  - トランザクション マネージャ通信
    - 受信を許可する
    - 送信を許可する
    - 着信呼び出し側には認証を必要とする

SQL Server 2005 をインストールしたら、アクティブおよび非アクティブなクラスタ ノードの双方が、相互に SQL でアクセスできることを確認してください。クラスタ ノード間の接続をテストするには、アクティブおよび非アクティブなクラスタ ノードで、次のコマンドを入力します。

**osql -E -S < 仮想 SQL Server 名 >%< データベース インスタンス >**

例

```
osql -E -S OVMSQL%OVOPS
```

接続が成功すると、プロンプトが表示されます (1>)。exit と入力します。

#### タスク 4: SQL Server 2000 Enterprise Edition のインストール

Windows 2003 に MS SQL 2000 をインストールするには、別名を作成する必要があります。たとえば、SQL 仮想サーバーの FQDN が sqlserv.domain.com であれば、SQLSERV%OVOPS という別名を作成します。インストールを開始する前に、次の手順を実行します。

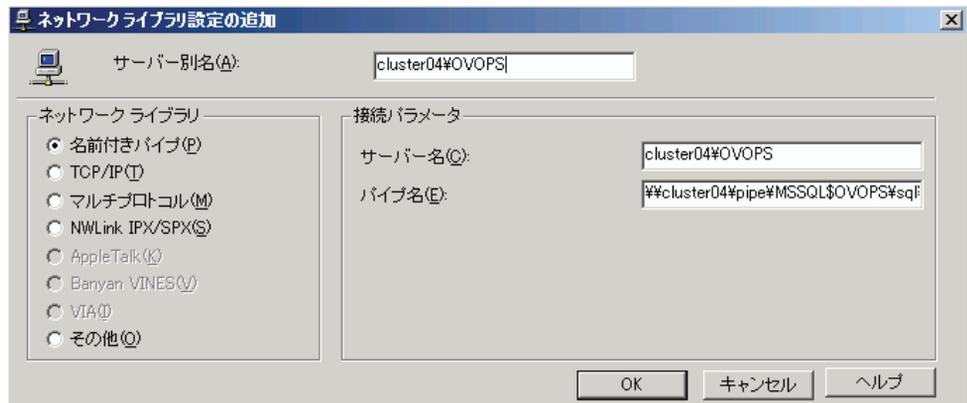


次の説明は、「PRB: Windows Server 2003 ベースのクラスタに SQL Server 2000 仮想サーバーの名前付きインスタンスをインストールすると失敗する」という Microsoft のサポート技術情報から転載したものです (<http://support.microsoft.com/kb/815431/ja>)。

HP による補足説明は、括弧で囲まれています。

- 1 セットアップを実行するノードから、クライアント接続用にサーバーの別名を作成します。
  - a セットアップを実行するクラスタ ノード上で **Cliconfg.exe** を実行します。
    - 使用しているコンピュータに **Cliconfg.exe** がインストールされていない場合は、SQL Server 2000 インストール ファイルから **Sqlredis.exe** を実行して **Cliconfg.exe** をインストールします。これを行うには、コマンド プロンプトで次のように入力します。  

```
\x86\Other\sqlredis.exe /q:a /C:"setupre.exe WARN=1 -s -SMS"
```
    - **Cliconfg.exe** をすぐに使用できない場合、コンピュータを再起動することが必要な場合があります。
  - b **[SQL クライアント設定ユーティリティ]** ダイアログ ボックスで、**[別名]** タブをクリックします。
  - c **[追加]** をクリックして、**[ネットワーク ライブラリ設定の追加]** ダイアログ ボックスを開きます。



- d **[名前付きパイプ]** をクリックします。
- e **[サーバー別名]** ボックスに別名を入力します (別名の形式は、(MSSQL)VIRTUALSERVERNAME¥(MSSQL)INSTANCENAME です。たとえば、SQLSERV¥OVOPS と入力します)。
- f **[サーバー名]** ボックスに (MSSQL) 仮想サーバーのインスタンス名を入力します (たとえば、SQLSERV¥OVOPS と入力します)。

- g [パイプ名] ボックスの名前を確認します。デフォルトでは、[パイプ名] ボックスの値は次のとおりです。
- ```
¥¥(MSSQL)VIRTUALSERVERNAME¥pipe¥MSSQL$instance¥sql¥query
```
- 2 SQL Server 2000 (SP3 以降) セットアップを実行します (MS SQL サーバー 2000 のインストール時には、手順 e および手順 f で使用したものと同名前のインスタンスを作成します)。
  - 3 (MSSQL) 仮想サーバー名には、手順 e および手順 f で使用したものと同名仮想サーバー名 (たとえば、SQLSERV¥) およびインスタンス名 (たとえば、SQLSERV¥OVOPS) を使用します。
  - 4 手順 1 で作成した名前付きパイプの別名を削除します。

## HPOM のインストール

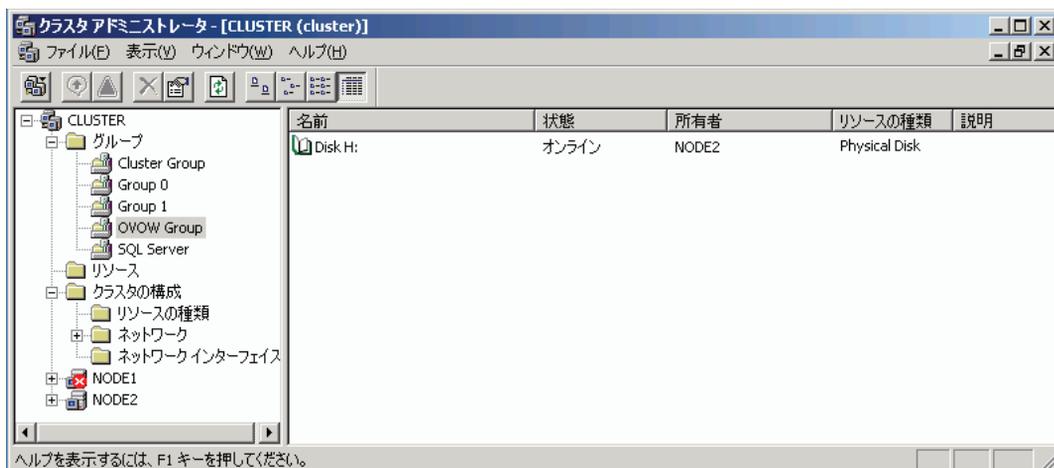
可用性の高い HPOM インストールが機能するには、HPOM の実行が指定されたすべてのクラスタ ノードに HPOM をインストールする必要があります。最初のクラスタ ノードへのインストールは、それ以降のノードへのインストールとは異なります。

- ▶ 同一クラスタ内の別のノードで、並行して HPOM のインストールを開始しないでください。最初のノードへのインストールが正常に完了してから、次のノードでのインストールを開始します。すべての指定ノードでインストールが完了するまで、これを繰り返します。

インストール メディアに含まれるその他の製品 (SPI やアドオンなど) をインストールすることもできます。ただし、先に HPOM をインストールしてから、SPI やアドオンをインストールしてください。

## 最初のクラスタ ノードへの HPOM のインストール

- 1 クラスタ ノードを選択し、そのシステムを最初にインストールするクラスタ ノードとして指定します。アンインストール時に、このノードのアンインストールを最後に行う必要があるため、最初にインストールしたノードを忘れないようにしてください。
- 2 HPOM for Windows 管理サーバー用に指定された共有ディスクが使用可能であり、現在のシステムにアクセス可能であることを確認します。アクセスできない場合は、**Microsoft クラスタ アドミニストレータ**を使用して、グループを現在のノードに移動します。



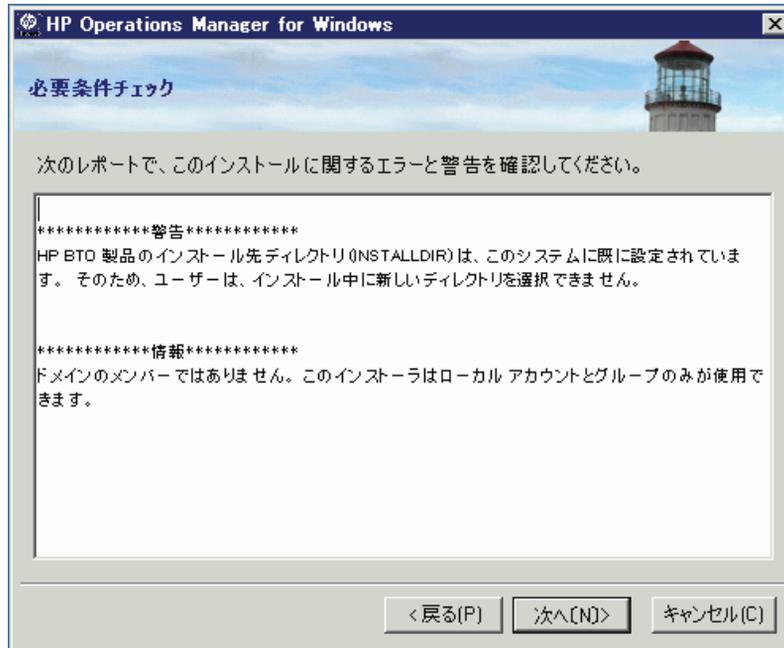
この図は、HPOM のインストール前の HPOM クラスタ リソース グループを示しています。共有ディスクはオンラインで、最初にインストールを行うノードとして指定されたノードによって所有されています。

- 3 HPOM 8.10 for Windows インストール メディアを挿入します。[ようこそ] ページで、[管理サーバー] が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックして [必要条件チェック] ページに進みます。

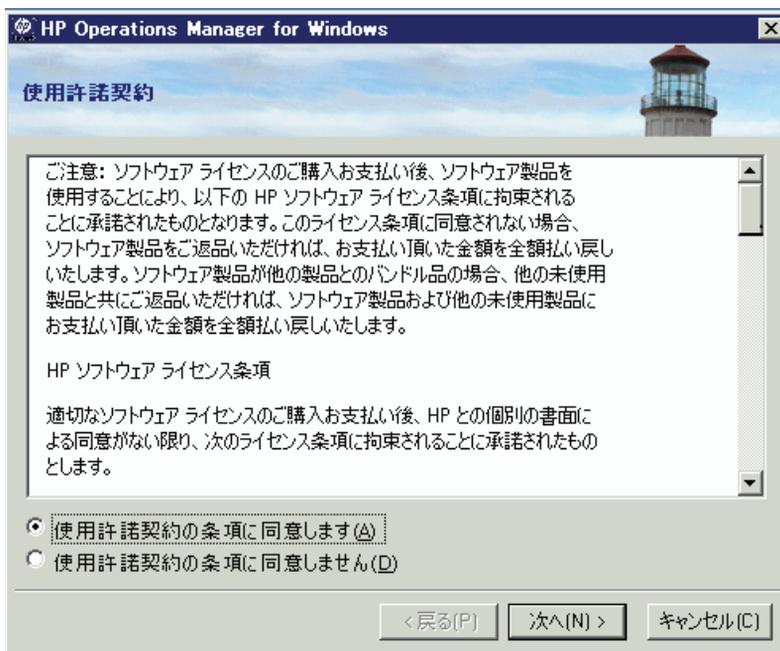
- ▶ ドライブの自動再生が有効な場合、インストールが自動的に開始されます。
- 自動再生が無効な場合は、インストール メディアのルートから **setup.exe** を実行します。



- 4 **[必要条件チェック]** ページには、HPOM の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告が表示されます。インストールを続ける前に、すべてのエラーを解決する必要があります。インストール時にチェックされるハードウェアとソフトウェアの項目については、[付録 A 「システム要件のチェック」](#)を参照してください。エラーが検出されない場合は、**[次へ]**をクリックして操作を続けます。



- 5 **[使用許諾契約]** ページでは、使用許諾契約書の内容に同意し、**[次へ]** をクリックしてインストールを継続します。同意しない場合、インストールはキャンセルされます。



標準版ライセンスの取得については、85 ページを参照してください。

- 6 **[管理サーバーの言語]** ページで、**[言語]** をクリックしてインストーラが使用する言語を選択します。

このウィザード ページは、システムで英語バージョンの Microsoft Windows オペレーティング システムが実行されている場合にのみ表示され、これにはマルチリンガル ユーザー インタフェース (MUI) のシステムも該当します。

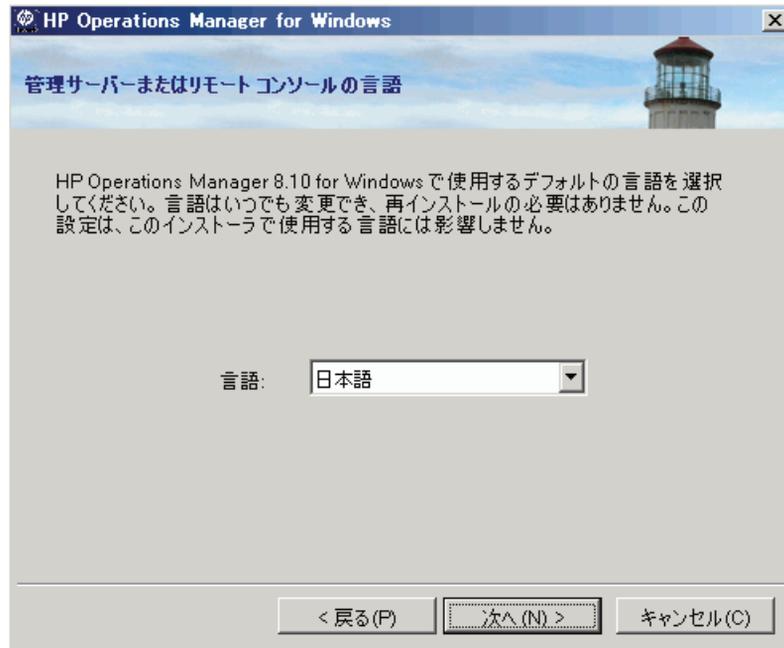
インストーラはここで選択された言語を使用して、デフォルトのツール、ポリシー、および HPOM が提供するその他のオブジェクトを作成します。これらの言語設定を後で変更することはできません。

インストーラはデフォルトでは、特定のポリシーが Windows OS SPI および UNIX OS SPI から自動配布されるよう設定します。ここで選択された言語によって、ポリシーの言語が決まります。

また、ここでの選択によって、管理サーバーが実行時に使用する言語、たとえば管理サーバーが生成するエラーメッセージの言語などが決まります。

MUI のシステムでは、Windows でのユーザーの言語設定によって、HPOM のコンソールおよびオンラインヘルプに表示される言語が自動的に決まります。つまり、ここで選択した言語は、HPOM のコンソールおよびオンラインヘルプで表示される言語には影響しません。

**[次へ]** をクリックします。



- 7 **[ポリシー言語]** ページで、HPOM により提供されるポリシーの言語を追加で選択します。デフォルトでは、英語と、管理サーバーについて選択した言語 (英語ではない場合) のポリシーがインストールされます。その他の言語のポリシーをインストールするには、ここで言語を選択します。

このウィザード ページは、管理サーバーで英語バージョンの Microsoft Windows オペレーティング システムが実行されている場合のみ表示され、これにはマルチリンガル ユーザー インタフェース (MUI) のシステムも該当します。

**[次へ]** をクリックします。



- 8 **[クラスタ対応インストール タイプ]** ページで、単一システムへのインストールまたはクラスタ環境へのインストールを選択します。高可用性の HPOM インストールでは、**[クラスタ]** を選択します。**[次へ]** をクリックして、**仮想サーバー情報** のページを表示します。

 クラスタに単一システムとしてインストールすることもできますが、これはお勧めできません。このようなインストールでは、HPOM の可用性は、クラスタ化されていない環境の単一システム インストールと変わりません。



9 [仮想管理サーバー名] ページで、仮想サーバー名と仮想 IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

- 仮想サーバー名は、ドメイン部分を除くホスト名です。
- 仮想 IP アドレスは、クラスタが使用するネットワークと同じネットワークのものである必要があります。ただし、現在使用している IP を指定することはできません。

インストールプログラムによって仮想 IP アドレスが調べられ、アドレスが同じネットワークのものでない場合は、エラー メッセージが表示されます。さらに、仮想サーバー名も調べられ、126 文字を超える長さである場合は、エラー メッセージが表示されます。

インストールプログラムはこの情報を使用して、管理サーバーのクラスタ リソース グループ内に、この仮想 IP アドレスと仮想サーバー名に対するクラスタ リソースを作成します。仮想サーバー名と仮想 IP アドレスがクラスタ リソースに既に設定されている場合、作成は失敗します。この場合は、別の仮想サーバー名と仮想 IP アドレスの入力が求められます。

クラスタ リソース グループで Kerberos (ケルベロス) 認証が使用されている場合、Kerberos 認証のチェック ボックスを選択します。

- 10 **[共有フォルダ ドライブ]** ページで、HPOM 共有データ ファイルをホスティングする、共有ディスク/クラスタ リソース グループを選択します。



- ▶ 既に別のアプリケーション (たとえば、SQL Server やクラスタ クォーラム) によって使用されているクラスタ リソース グループまたはリソース グループの選択はサポートされません。
- ▶ ASCII 文字以外の文字を含むリソース グループの選択はサポートされません。詳細については、リリース ノートのエントリ QXCR1000125936 を参照してください。

11 **[インストール先フォルダ]** ページでは、デフォルトのインストール先ディレクトリを使用するか、別のディレクトリを指定して HPOM をインストールするかを選択できます。ここで選択したインストール先ディレクトリは、この DVD からインストールする他の HP BTO Software 製品のデフォルトディレクトリとして使用され、以後のインストールではこのディレクトリを変更できません。最初にインストールする HP BTO Software アプリケーションが、HPOM と、HP Reporter や HP Performance Agent Software などのその他の HP BTO Software 製品のインストールディレクトリを決定します。

- デフォルトのインストール先ディレクトリは次のとおりです。

```
C:\Program Files\HP\HP BTO Software\
```

- デフォルトのデータディレクトリは次のとおりです。

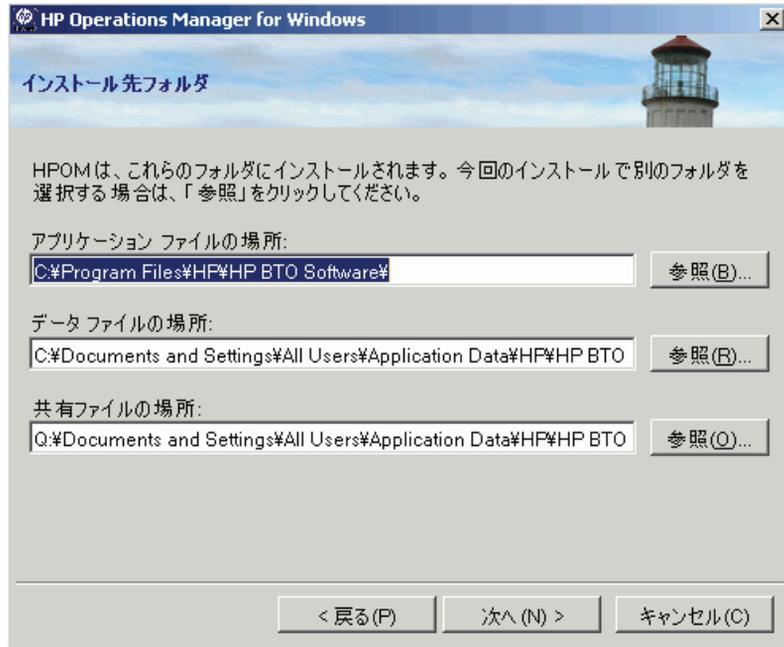
```
C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software
```

- デフォルトの共有ディレクトリは次のとおりです。

```
<共有ドライブ>\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software\shared\
```

この <共有ドライブ> は、**[共有フォルダ ドライブ]** ページで割り当てた論理ドライブです。

デフォルトのインストール先ディレクトリにインストールする場合は、**[次へ]** をクリックします。



デフォルト以外のディレクトリにインストールする場合は、適切な【参照】ボタンをクリックして、【フォルダの参照】ダイアログ ボックスを表示します。

- ▶ インストール ディレクトリとデータ ディレクトリは、クラスタ共有ディスクをポイントできません。
- ▶ 共有ディレクトリのドライブを変更するには、113 ページの[手順 10](#)に戻る必要があります。

- 12 **[アカウント タイプ]** ページでは、デフォルトで **[ドメイン アカウント]** が選択されています。HPOM が必要なアカウントを作成するドメインの名前を指定します。**[次へ]** をクリックして続きます。

インストールを行うユーザーは、ドメイン管理者でなければなりません。または、アカウントが既に作成されていて、ポリシーの管理と配布ユーザーの委任権限が設定されている場合、ローカル Administrators グループのメンバーであるドメイン ユーザーがインストールを実行することもできます。

- ▶ HPOM のクラスタ インストールでは、HP-OVE-User と HP-OVE-Deleg-User だけでなく、HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS アカウントもドメイン アカウントにする必要があるため、ローカル インストールは実施できません。

HP Operations Manager for Windows

アカウント タイプ

インストールで使用するユーザー アカウントのタイプを選択します。

アカウントのタイプ

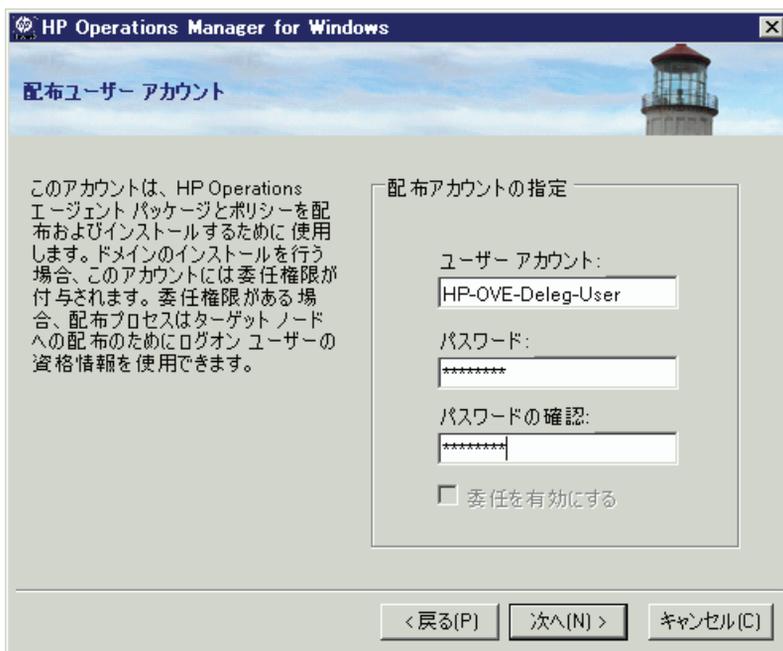
**ドメイン アカウント (推奨)**  
ドメイン管理者権限が必要です。ドメイン アカウントを使用すると、HP Operations Manager サーバーによって HP Operations エージェントを自動的にインストールできます。リモート データベースのインストールには、ドメイン アカウントが必要です。  
リモート データベースのインストールの場合は、ドメイン アカウントを使用する必要があります

ドメイン: L10N

**ローカル アカウント**  
ローカル アカウント インストールを行う場合は、HP Operations エージェントをすべて手動でインストールする必要があります。ローカル アカウント インストールでは、リモート データベース やリモート コンソールを使用することはできません。

< 戻る (P)      次へ (N) >      キャンセル (C)

- 13 **[ 配布ユーザー アカウント ]** ページで、配布ユーザー アカウントに関する必要な情報を入力します。委任権限の詳細については、41 ページの「**管理サーバー**で使用されるアカウント」を参照してください。



HP Operations Manager for Windows

配布ユーザー アカウント

このアカウントは、HP Operations エージェント パッケージとポリシーを配布およびインストールするために使用します。ドメインのインストールを行う場合、このアカウントには委任権限が付与されます。委任権限がある場合、配布プロセスはターゲットノードへの配布のためにログオン ユーザーの資格情報を使用できます。

配布アカウントの指定

ユーザー アカウント:  
HP-OVE-Deleg-User

パスワード:  
\*\*\*\*\*

パスワードの確認:  
\*\*\*\*\*

委任を有効にする

< 戻る(P)    次へ(N) >    キャンセル(C)

14 **「管理サーバー アカウント」** ページで、次の設定を行います。

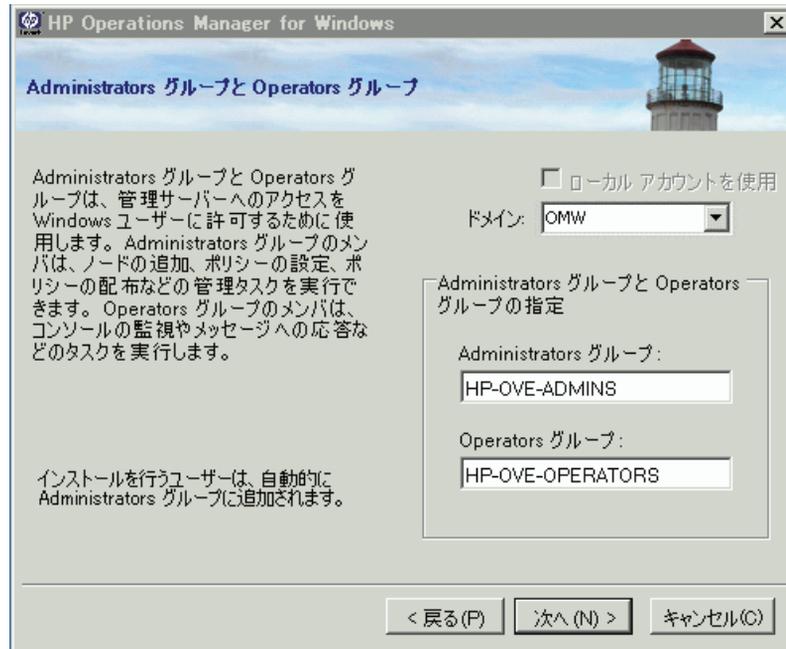
- a **「ユーザー アカウント」** を指定するか、デフォルト値をそのまま適用します。
- b 前の画面で配布ユーザーの設定に使用したものと**同じパスワード**を使用してください。パスワードおよびパスワードの確認を入力したら、**「次へ」** をクリックします。

一度設定すると、インストール メディアから他の製品をインストールする場合にも、このアカウント情報が使用されます。リモート コンソールのインストールでは、この画面は表示されません。

The screenshot shows a window titled "HP Operations Manager for Windows" with a close button (X) in the top right corner. The main title is "管理サーバー アカウント" (Management Server Account). Below the title is a descriptive paragraph: "管理サーバー アカウントは、ポリシーの管理および配布プロセス以外のすべての管理サーバー プロセスを実行するアカウントです。" (The management server account is an account used to execute all management server processes other than policy management and distribution processes). To the right, under the heading "管理サーバー アカウントの指定" (Specify Management Server Account), there are three input fields: "ユーザー アカウント:" (User Account) with the value "HP-OVE-User", "パスワード:" (Password) with "\*\*\*\*\*", and "パスワードの確認:" (Confirm Password) with "\*\*\*\*\*". At the bottom, there are three buttons: "<戻る(P)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル(C)" (Cancel).

- 15 **[Administrators グループと Operators グループ]** ページで、ローカルグループ アカウントを作成する場合は **[ローカル アカウントを使用]** を選択し、ドメイングループ アカウントを作成する場合はドメインを選択します。続いて、管理者グループとオペレータグループのアカウントを指定し、**[次へ]** をクリックします。

続いて、管理者グループとオペレータグループのアカウントを指定し、**[次へ]** をクリックします。



- 16 **[Microsoft SQL Server インスタンス]** ページで、HPOM データベースで使用する SQL Server インスタンスの名前を追加し、データベース ファイルを配置する SQL Server 上の場所のパスを指定します。SQL Server サービスは、HPOM ファイルが配置されているディレクトリにアクセス可能なログインで実行できます。たとえば、管理権限を持つログインや、管理権限を持っていないでも対象のファイルにアクセスできるログインです。



**[ データベース ファイルの場所 ]** ボックスに指定したパスが SQL Server システム上に存在しない場合、HPOM インストールは自動でこの場所を追加します。

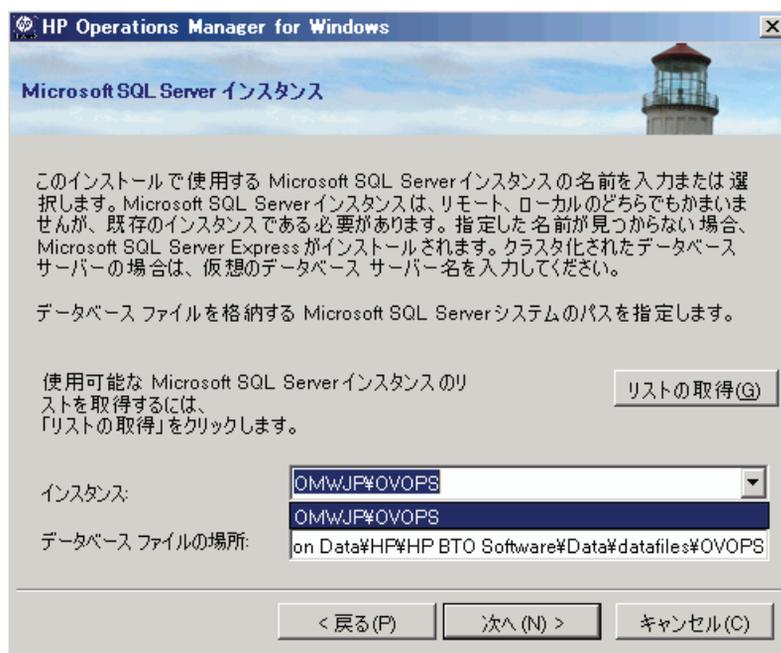


データベース ファイル用に十分なディスク容量があることを確認してください。データベース ファイルのサイズは、管理するオブジェクトの数によって異なります。

HPOM とともにローカル SQL Server Express インスタンスをインストールする場合は、[ インスタンス ] フィールドでまだ使用されていない名前を指定します。フル SQL Server (ローカルまたはリモート) を使用する場合は、HPOM のインストール前にフル SQL Server をインストールしておく必要があります。

利用できる SQL サーバー インスタンスのリストを見るには、[ リストの取得 ] をクリックします。使用対象となるインスタンスのリストが表示されます。

リストからリモート データベース インスタンスを選択できない場合は、SQL Server が正しく設定されていない可能性があります。詳細は、27 ページの「データベース要件」を参照してください。



**【次へ】**をクリックすると、インストールプログラムにより、このインスタンスが存在するかどうかチェックされます。ローカル インスタンスが存在しない場合、HPOM により SQL Server Express がインストールされます。

指定したフル SQL Server インスタンス (ローカルまたはリモート) が存在し、接続できる場合は、既存の openview データベースの確認が行われます。データベースが存在しない場合、インストール時に自動で追加されます。

openview データベースが既に存在しているときは、インストール時にそのデータベースを削除して新しいデータベースを追加するかどうかを選択できます。



破損したデータが問題を引き起こす可能性があるため、HPOM 8.10 for Windows では、既存の openview データベースの再使用をサポートしていません。古いデータを保持する場合は、アップグレードまたは移行を実行する必要があります。

指定されたリモート インスタンスが存在しないか接続できない場合は、接続が有効かどうか、および名前が正しいかどうかを確認するようメッセージが表示されます。



指定したインスタンスがリモート SQL Server Express インスタンスである場合、リモート接続が可能であればインストールは継続されます。ただし、この状況は HPOM ではサポートされていません。

- 17 デフォルト以外のポートを使用するときは、**[Microsoft Internet Information Services ポート]** ページで、Internet Information Services (IIS) の HTTP および HTTPS ポートを変更します。**[次へ]** をクリックし、**[ファイアウォールの設定]** ページに進みます。

HP Operations Manager for Windows

Microsoft Internet Information Services ポート

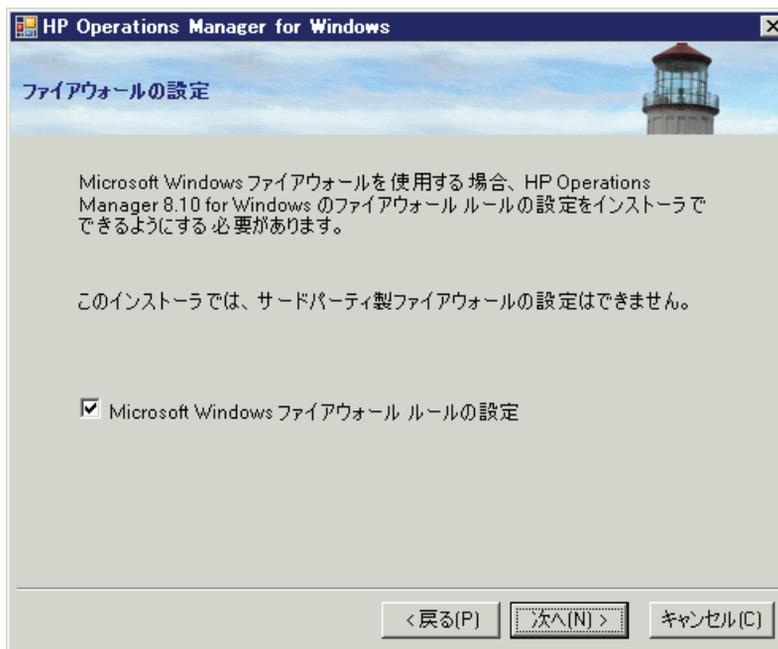
Microsoft IIS が HTTP および HTTPS 接続のために使用するポートを選択します。デフォルトポートが既に Microsoft IIS 以外のサーバーによって使用されている場合、または HP Operations Manager のインストール後、デフォルトポートを使用する製品をインストールする予定の場合、別の使用可能ポートを選択する必要があります。

HTTP ポート: 80

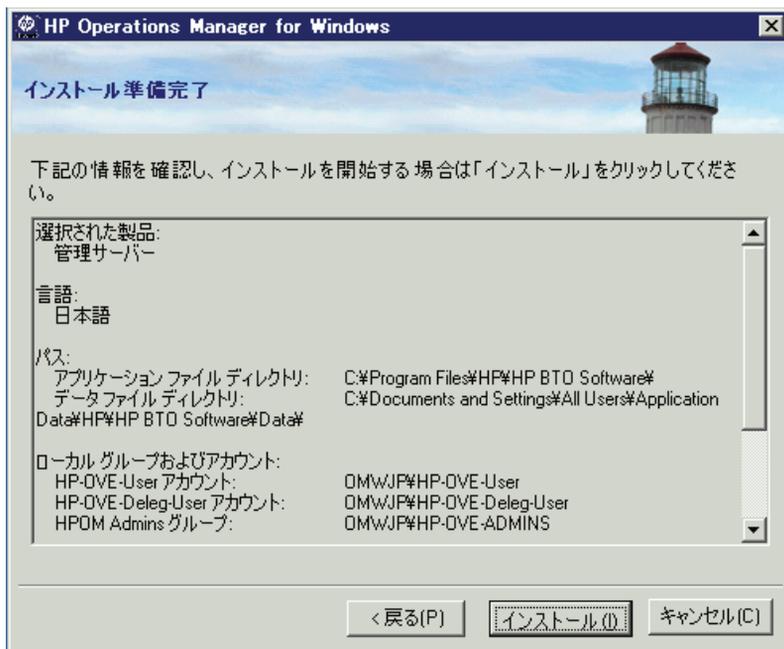
HTTPS ポート: 443

<戻る(P) 次へ(N)> キャンセル(C)

- 18 管理サーバーで Windows ファイアウォールが有効になっていて、HPOM インストールの際に必要なルールを作成する場合は、[ **ファイアウォールの設定** ] ページで [ **Microsoft Windows ファイアウォール ルールの設定** ] を選択します。[ **次へ** ] をクリックして、[ **インストール準備完了** ] ページに進みます。

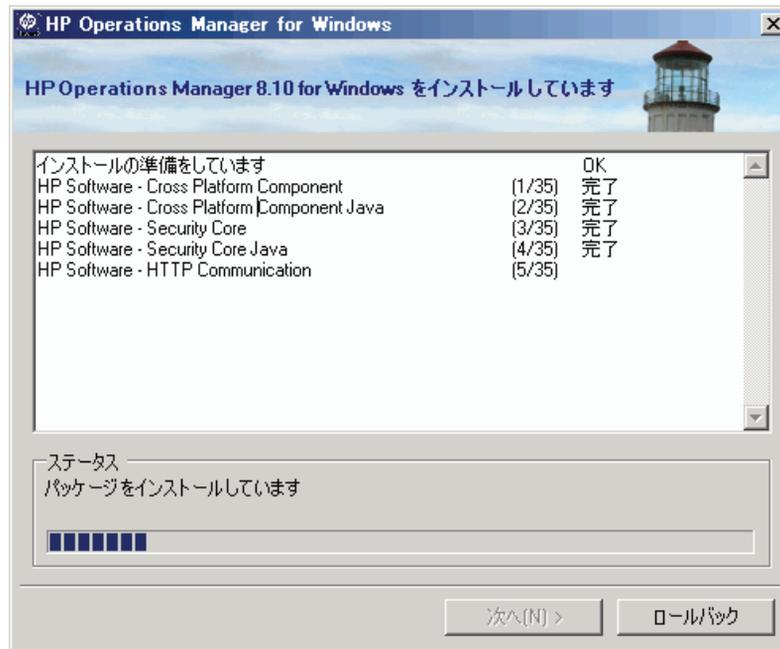


- 19 [インストール準備完了] ページで、これまでのページで設定したインストール情報を確認し、[インストール] をクリックします。インストールが開始されます。



- 20 各インストール コンポーネントがそれぞれのステータス ダイアログを表示します。たとえば、ライセンス コンポーネント、コア コンポーネント、SQL Server コンポーネント、および SPI が製品に含まれます。インストールの間、定期的に進捗ウィンドウが表示されます。インストールが完了した項目とインストール中の項目についての詳細が示されます。

システムの処理速度によって、インストール プロセスには数分から 1 時間以上かかります。インストールが完了したら、[次へ]をクリックし、[インストール終了] ページに進みます。

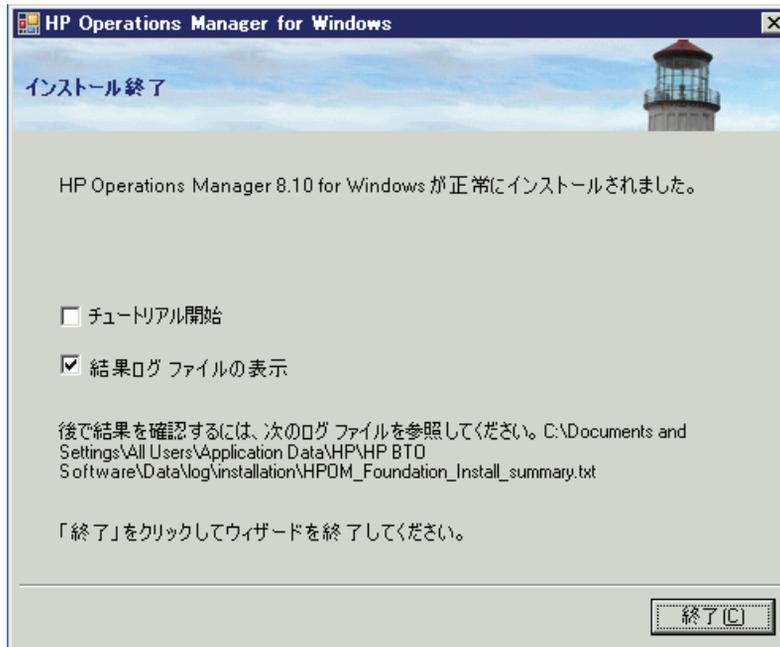


HPOM 管理サーバーに SQL Server コンポーネント (Client Tools など) が既にインストールされている場合、インストール中に以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

「Warning 28213. Warning: SQL Server Setup cannot install this feature because a different edition of this feature is already installed. For more information, see 'Version and Edition Upgrades' in SQL Server Books Online.」

このメッセージを承認して、HPOM インストールを続けます。

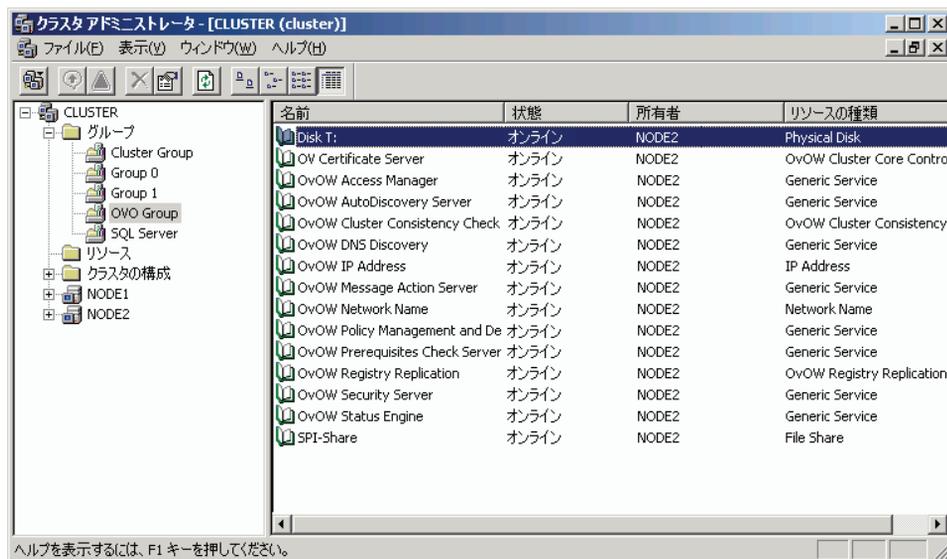
- 21 **「インストール終了」**ページが表示されると、インストールは終了です。  
**「終了」**をクリックしてインストールを終了します。



完了したインストールの詳細を確認するには、**「結果ログ ファイルの表示」**チェックボックスをオンにします。

インストールプログラムの終了時に、基本トレーニング チュートリアルを参照するように求められます。このチュートリアルは、HPOM の機能と製品概要を紹介し、HPOM の操作を始める前に行う必要がある設定と配布の手順を詳細に説明します。

- 22 最初のノードへの HPOM のインストールが完了すると、選択した HPOM クラスタ リソース グループにいくつかの新しいクラスタ リソースが追加されます。



## 残りのクラスタ ノードへの HPOM のインストール



複数のノードで同時に HPOM のインストールを行わないでください。HPOM のインストールが完了してから、次のノードへのインストールを開始します。



残りのノードへのインストールが完了するまで、HPOM 管理サーバーの機能を使用できません。インストール中に管理サーバーをオンラインにしようとしたり、HPOM が使用するクラスタ リソース グループを移動したりしないでください。



残りのクラスタ ノードに HPOM をインストールするには、最初にインストールしたクラスタ ノードが稼動し、残りのノードからアクセス可能になっている必要があります。

1 HPOM 8.10 for Windows インストール メディアを挿入します。



- ドライブの自動再生が有効な場合、インストールが自動的に開始されます。
- 自動再生が無効な場合は、インストール メディアのルートから **Setup.exe** を実行します。

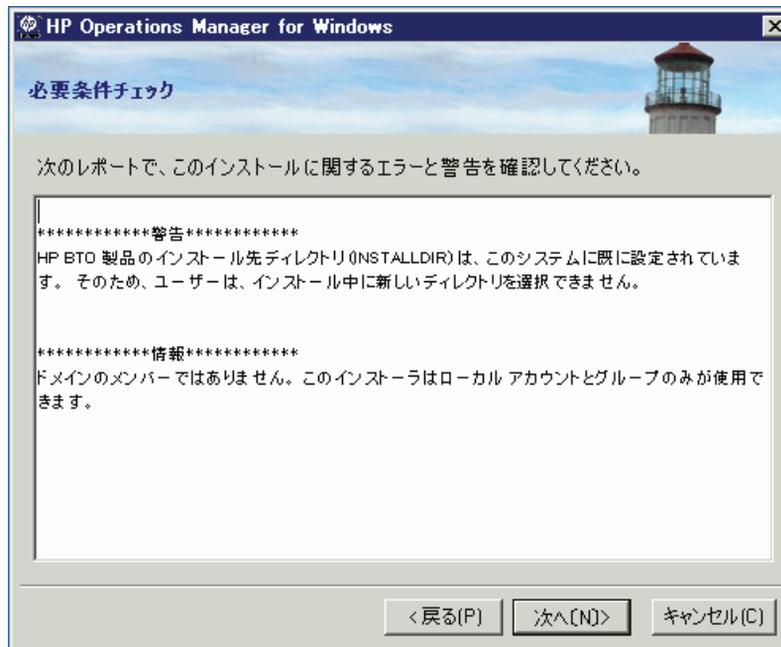
HP Operations Manager の [ ようこそ ] ページが表示されます。このページの [ 次へ ] をクリックすると、システム要件のチェックが行われます。



- 2 **[必要条件チェック]** ページには、インストール対象として選択した製品について実行された要件チェックの結果が表示されます。インストールを続ける前に、すべてのエラーを解決する必要があります。

HPOM の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、付録 A 「システム要件のチェック」を参照してください。

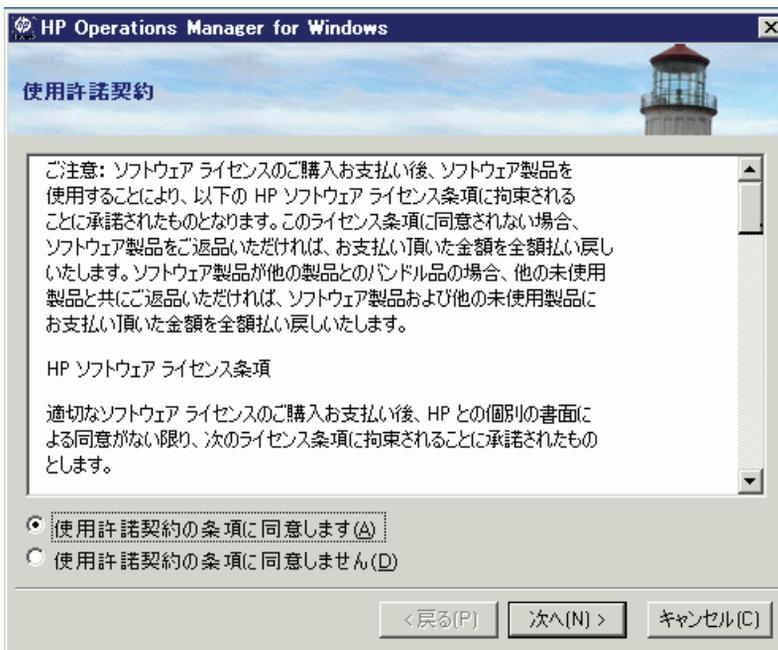
**[次へ]** をクリックして、**[使用許諾契約]** ページを開きます。



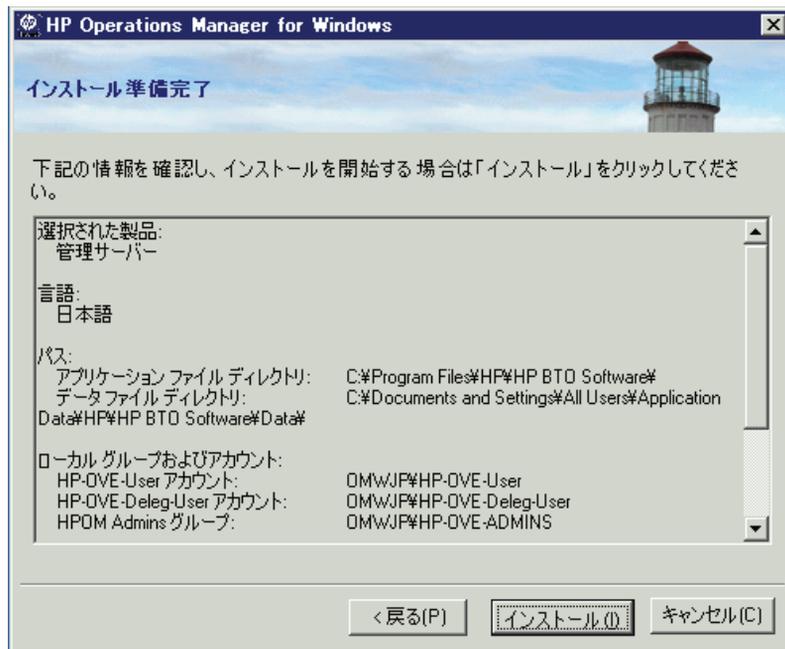
- 3 使用許諾契約書の内容に同意します。同意しない場合、インストールはキャンセルされます。

標準版ライセンスの取得については、85 ページの「ライセンス情報の入力」を参照してください。クラスタに HPOM をインストールする場合、必要なライセンスは 1 つだけです。標準版ライセンスを既に取得し、インストールしている場合は、これを繰り返す必要はありません。

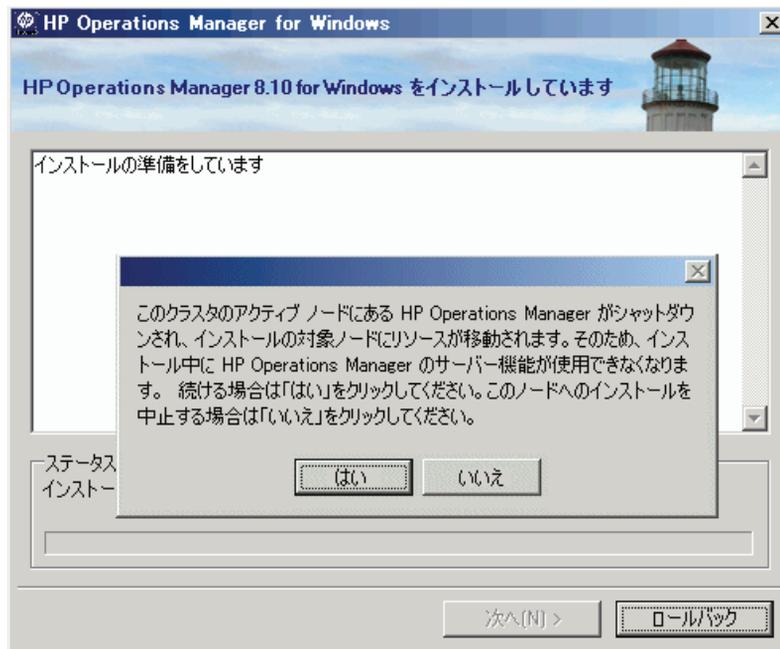
[次へ] をクリックして、[インストール準備完了] 画面に進みます。



- 4 これまでのダイアログで設定したインストール情報を確認し、[インストール]をクリックします。インストールが開始されます。



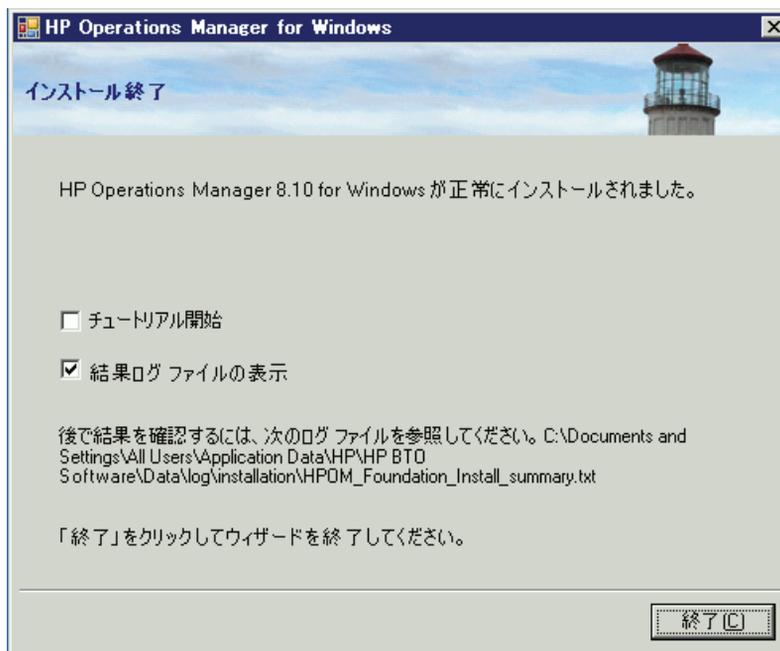
- 5 インストールでは、このクラスタのアクティブ ノードで稼動する HPOM が停止され、リソースがインストール対象ノードに移動されます。インストール中は、最初のクラスタ ノードで HPOM 管理サーバーの機能を利用できなくなります。[はい] をクリックして続けます。



- 6 インストールプログラムの実行中に、さまざまなステータス ダイアログボックスが表示されます。各インストール コンポーネント（製品に含まれるライセンス コンポーネント、コア コンポーネント、SPI など）がそれぞれのステータス ダイアログを表示します。

システムの処理速度とインストールの際に選択されたコンポーネントによっては、この処理に数分から 1 時間以上かかる場合があります。

- 7 **【インストール終了】**ページが表示されると、インストールは終了です。**【終了】**をクリックしてインストールを終了します。



インストールが完了すると、そのノードで HPOM クラスタ リソース グループがアクティブになります。このノードが、HPOM をインストールする最後のクラスタ ノードである場合は、HPOM 仮想サーバーを任意のクラスタ ノードに移動できます。

# サイレント モードまたは非対話モードでの クラスタ ノードへのインストール

設定ファイルとコマンドラインパラメータを使用して、サイレント モードまたは非対話モードでクラスタ ノードにインストールできます。

Setup.exe では以下のパラメータを使用できます。

- /qn は、サイレント モード (進捗情報の表示なし、ユーザー インタフェースなし) を指定します。

サイレント インストールを開始するには、次のコマンド構文を使用します。

```
Setup.exe /qn /configfile:<設定ファイル> /sourcedir:<ディレクトリ>
```

- /qr は非対話モード (進捗情報の表示あり、ユーザー インタフェースなし) を指定します。

非対話式インストールを開始するには、次のコマンド構文を使用します。

```
Setup.exe /qr /configfile:<設定ファイル> /sourcedir:<パス>
```

対話式のインストールで指定するすべての設定値を、設定ファイルに XML 形式で指定します。設定ファイルのサンプルは、インストール メディアの次の場所にあります。

Documentation¥Unattended Install¥ClusterManagementServer.config

サンプルの設定ファイルを他の場所にコピーして、必要なフィールドを編集します。フィールドの詳細については、104 ページの「[HPOM のインストール](#)」に示す対応するウィザード ページのドキュメントを参照してください。

設定ファイルには、サイレント モードまたは非対話モードでアップグレードや移行を行うためのオプションもあります。ただし、アップグレードや移行には、setup コマンドでは自動的に実行されない手順が含まれています。サイレント モードや非対話モードで実行されるのは、HPOM インストール ウィザードで通常ユーザーが行う手順のみです。アップグレードと移行の詳細は、『[HP Operations Manager 8.10 for Windows アップグレード ガイド](#)』を参照してください。



サイレント モードと非対話モードがサポートされるのは、HPOM 8.00 から HPOM 8.10 への移行とアップグレードに限られます。HPOM 7.50 からの移行とアップグレードは、サイレント モードや非対話モードで行うことはできません。

次に、サイレント モードや非対話モードでクラスタ ノードにインストールするための設定ファイルの例を示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>

  <!-- Use the appSettings section to define an unattended install
  session. -->

  <appSettings>
    <!--Valid values: "server" or "console". Case insensitive. -->
    <add key="ProductType" value="server" />

    <!-- The destination directory for application files. -->
    <add key="InstallDir" value="c:\Server\" />

    <!-- The destination directory for product data files. -->
    <add key="DataDir" value="C:\Server\data\" />

    <!-- Cluster configuration -->

    <!-- Valid values for doing a clustered installation: "primary" or
    "subsequent". Case insensitive. -->
    <add key="ClusterMode" value="primary" />

    <!-- The destination directory for product share files. -->
    <add key="ShareDir" value="D:\cluster\share\" />

    <!-- The virtual server name of the management server in the cluster -->
    <!-- It must not be fully qualified -->
    <add key="VirtualServerName" value="omw81" />

    <!-- Set this flag if the requires kerberos flag of the network name
    should be set -->
    <!-- Specifying this flag is mandatory but it is only used on
    Windows 2003 Cluster -->
    <!-- Valid values : "yes", "no" -->
    <add key="RequireKerberos" value="no" />

    <!-- The IP address of the Management Server in the cluster -->
    <add key="VirtualServerIP" value="10.0.0.1" />

    <!-- The name of the resource group the Management Server will be
    installed in -->
    <add key="ResourceGroupName" value="OperationsManager" />

    <!-- The name of shared disk resource. The directory pointed to by
    ShareDir must be on this drive -->
    <add key="SharedDiscResourceName" value="Disk D:" />
    <!-- Acknowledgement of the license agreement. Valid values:
    "yes" or "no". -->
    <add key="AgreeToLicense" value="yes" />

```

```

<add key="CreateFirewallRules" value="yes" />
<add key="InstanceNameFull" value="[local machine]\OVOPS" />
<!-- The absolute path to the database files directory. -->
<add key="DatabaseFilesPath" value="c:\database\OVOPS\" />
<add key="HPOM Users Domain" value="DOMAIN" />
<!-- The account name of the HP-OVE-User. -->
<add key="HP-OVE-User Username" value="HP-OVE-User" />
<!-- The password for the HP-OVE-User. -->
<add key="HP-OVE-User Password" value="" />
<!-- The account name of the HP-OVE-Deleg-User. -->
<add key="HP-OVE-Deleg-User Username" value="HP-OVE-Deleg-User" />
<!-- The password for the HP-OVE-Deleg-User. -->
<add key="HP-OVE-Deleg-User Password" value="" />
<add key="EnableDelegation" value="yes" />
<!-- HPOM roles groups setup. -->
<add key="HPOM Roles Domain" value="[local machine]" />
<add key="HP-OVE-Admins Roles Group" value="HP-OVE-ADMINS" />
<add key="HP-OVE-Operators Roles Group" value="HP-OVE-OPERATORS" />
<!-- IIS configuration -->
<add key="HTTPPort" value="81" />
<add key="HTTPSPort" value="444" />
<!-- Policy languages -->
<add key="UploadEnglishPolicies" value="yes" />
<add key="UploadJapanesePolicies" value="no" />
<add key="UploadKoreanPolicies" value="no" />
<add key="UploadChinesePolicies" value="no" />
<!-- optional values used for migration-->
<!-- Valid values: "UpgradeKeepData", "DownloadData", or "UploadData".
Case insensitive. -->
<add key="MigrationCase" value="UpgradeKeepData" />
<!-- The path to the migration data -->
<add key="MigrationDataPath" value="C:\migrationdata\" />
</appSettings>
</configuration>

```

# インストールの結果

## [スタート] メニュー

HPOM のインストールの完了後、[スタート] メニューにフォルダが追加され、コンソールを開くことができます。

[スタート] → [すべてのプログラム] → [HP] → [HP Operations Manager] → [コンソール]

## ドキュメント

HPOM のインストール後、Adobe Acrobat PDF 形式の HPOM ドキュメントが、`%OvInstallDir%\paperdocs\en` ディレクトリに格納されています。

## 実行可能ファイル

`%OvInstallDir%` ディレクトリのサブディレクトリに格納されている HPOM 実行可能ファイルのほかに、以下のディレクトリに実行可能ファイルが追加されます。

`%OvDataDir%\bin\instrumentation\`

`%OvShareDir%\Instrumentation\`

`%OvShareDir%\Packages\HTTPS\`

`%OvShareDir%\Packages\Windows\`

インストールの間に、`%SystemRoot%\System32` ディレクトリ内のファイルに変更が加えられます。

## インストール ログ ファイル

インストール後、いくつかのログ ファイルが作成され、以下のディレクトリに配置されます。

`%OvDataDir%\log\installation`

## HPOM クラスタ インストールの検証

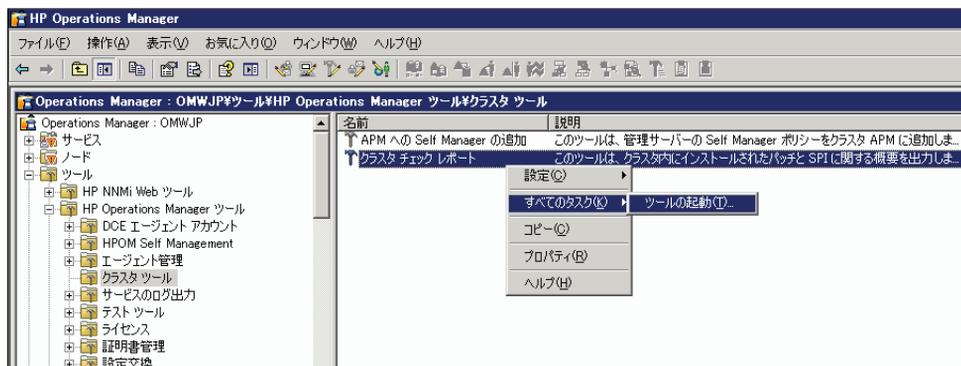
クラスタ化された HPOM が正しくインストールされていることを検証する手順は、次のとおりです。

- 1 いずれかの管理サーバーで HPOM コンソールを開きます。次のような警告が表示されます。**[OK]** をクリックします。

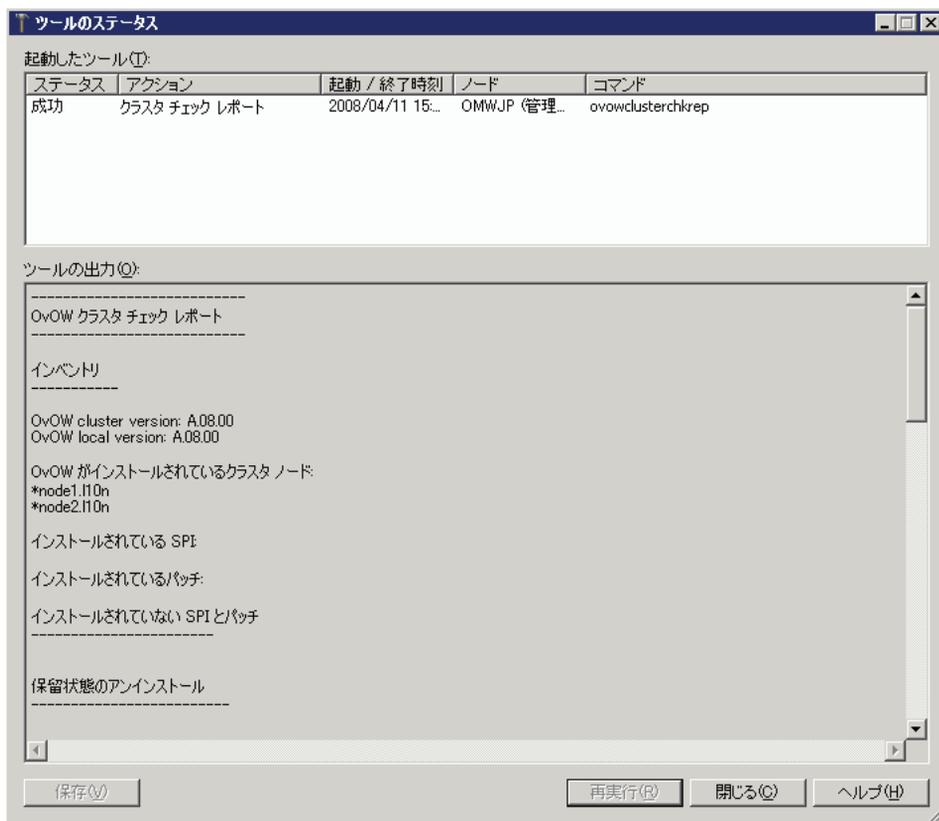


- 2 **[接続]** をクリックすると、HPOM サーバーに割り当てられている仮想ノードに接続します。

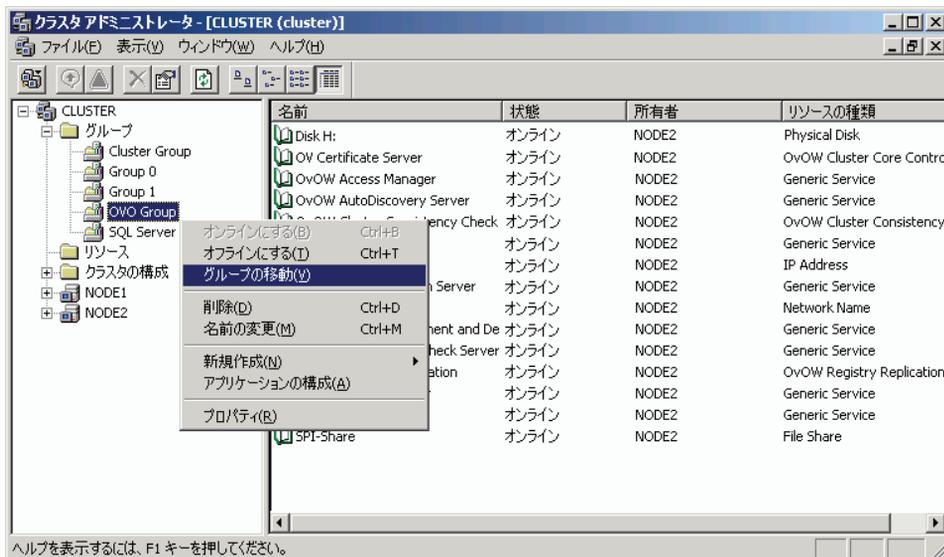
### 3 HPOM コンソールから **クラスタ チェック レポート** ツールを実行します。



### 4 実行後、ツールのステータスは **[成功]** となり、HPOM に関連するクラスタの情報が次のように **[ツールの出力]** に表示されます。



- 5 **Microsoft クラスタ アドミニストレータ**を開き、HPOM クラスタ リソース グループを別のノードに切り替えます。



## SPI またはアドオン製品のインストール

HPOM の実行が指定されているすべてのクラスタ ノードへの HPOM とコア SPI のインストールが完了すると、SPI またはアドオン製品をインストールできるようになります。SPI またはアドオン製品をインストールした後も HPOM のインストールを機能させるには、SPI またはアドオン製品をすべてのノードにインストールする必要があります。HPOM は、起動のたびにインストールの整合性を調べ、不整合が見つかった場合は起動されません。SPI またはアドオン製品が不足している場合は、Windows のイベント ログにエントリが記録されます。【ツール】→【HP Operations Manager ツール】→【クラスタ ツール】から実行できるクラスタチェックレポート ツールも、同様のレポートを生成します。

SPI とアドオン製品のインストールについては、各製品のインストール ガイドを参照してください。アドオン製品のインストール ガイドに特に明記されていない限り、常に HPOM クラスタ リソース グループにインストールします。



# 5 HPOM のアンインストールと再インストール

## HPOM のアンインストール

次に示す HPOM のアンインストール手順は、クラスタ化されていない環境と、クラスタ化されている環境の両方に適用されます。

### アンインストールの前提条件

HPOM のインストール後にインストールしたすべての管理ノード、SPI、アドオン製品は、HPOM のアンインストール前にアンインストールする必要があります。

- 1 すべての管理ノードから HP Operations エージェントをアンインストールします。オンラインヘルプトピックの「**環境の管理**」→「**エージェントの設定**」→「**エージェントの手動アンインストール**」を参照してください（管理サーバー上のローカル HP Operations エージェントを削除する必要はありません）。

HPOM の再インストールを計画している場合は、管理ノードを削除する必要はありません。

- 2 すべての SPI を削除します。アンインストール手順については、SPI インストールメディアに収録されているドキュメントを参照してください。
- 3 HP NNM Adapter、HP BAC Adapter、HP SiteScope Adapter などのアドオン製品をすべて削除します。アンインストール方法については、それぞれのドキュメントを参照してください。

他の製品 (HP Performance Manager や HP Reporter など) が同じサーバーにインストールされている場合、HPOM for Windows と共通のコンポーネントが共有されています。これらの共有コンポーネントは、その他の HP BTO Software 製品によって使用されない場合にのみ削除されます。

- 4 クラスタ ノードから HPOM をアンインストール前に、次の前提条件を満たす必要があります。
  - 最初にインストールを行ったクラスタ ノードからのアンインストールは最後に行う必要があります。その他のノードでは、任意の順序でアンインストールできます。
  - アンインストールされるノードは、HPOM クラスタ リソース グループの所有者である必要があります。必要に応じて **MS クラスタ アドミニストレータ** を使用してグループを移動してください。

## HPOM のアンインストール手順

HPOM をアンインストールする手順は、次のとおりです。

- 1 開いているすべての管理コンソールセッションを終了します。
- 2 **[アプリケーションの追加と削除]** ダイアログを開きます。現在インストールされているプログラムのリストから **HP Operations Manager 8.10 for Windows** を選択し、**[変更と削除]** をクリックします。HPOM のアンインストーラが起動します。インストールメディアから **Setup.exe** を再実行してアンインストールを開始することもできます。



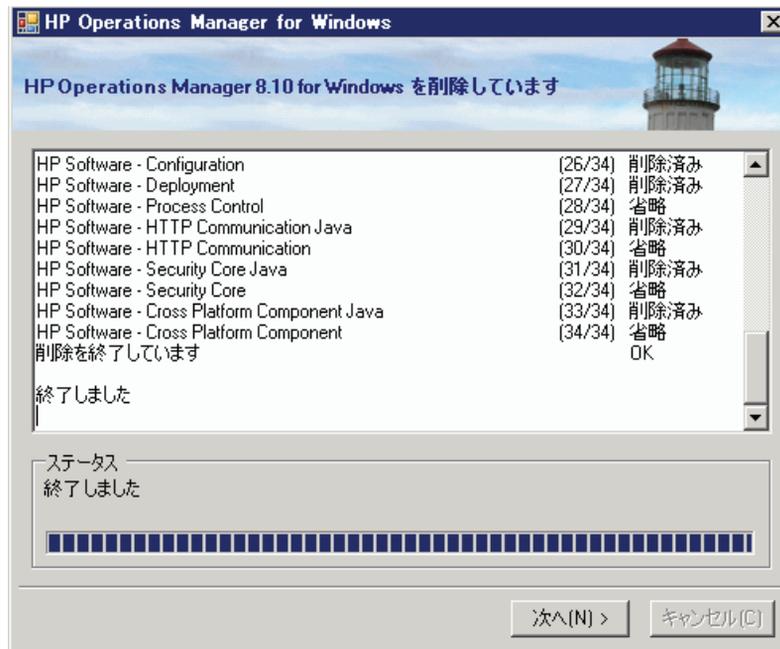
- 3 **[移行]** ページで、**[アンインストール]** をクリックし、**[次へ]** をクリックします。



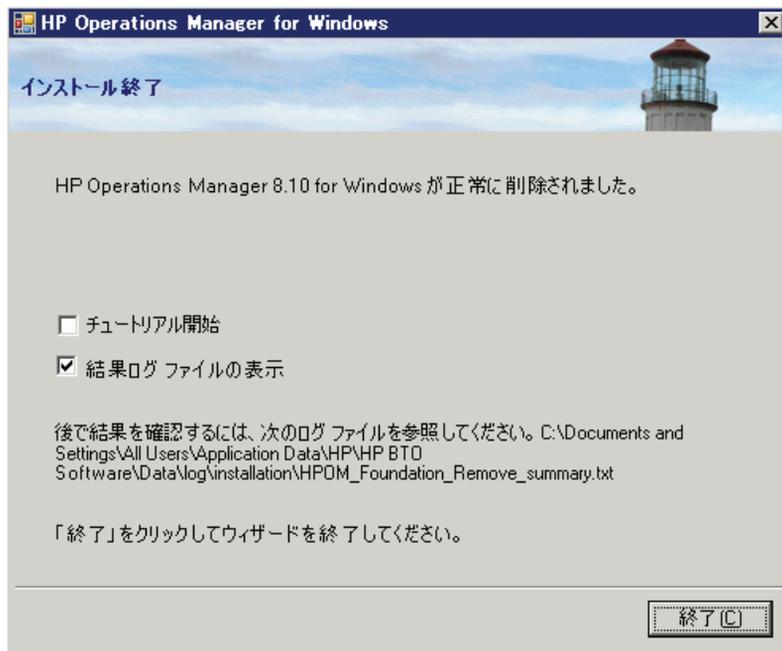
- 4 **[削除準備完了]** ページで、**[削除]** をクリックします。



- 5 アンインストールが完了したら、[次へ]をクリックし、[インストール終了]ページに進みます。



- 6 結果ログ ファイルの内容を調べ、アンインストール エラーや、アンインストール時に削除できなかったファイルを確認することをお勧めします。[終了]をクリックしてウィザードを終了します。



- 7 HPOM のアンインストールでは、以下のソフトウェアはシステムから削除されません。
- Microsoft SQL Server Express 2005 (インストールしている場合)
  - Microsoft .NET Framework
  - Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージ
- このソフトウェアが不要な場合は、[アプリケーションの追加と削除] ウィンドウで削除してください。
- 8 残りの HPOM ファイルとフォルダを手動で削除します。
- 残っている HPOM ファイルとフォルダの一部は、Microsoft のソフトウェアに依存しているために、HPOM によってアンインストールされないことがあります。これらのファイルやフォルダを問題なく削除するには、最初に Microsoft のソフトウェアをアンインストールする必要があります。

# リモート データベースの削除

リモート データベースを使用している場合、HPOM データを完全に削除するには、いくつかの手動操作を行う必要があります。リモート データベースを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 **[スタート]** → **[プログラム]** → **[Microsoft SQL Server]** → **[Enterprise Manager]** を選択して、**Enterprise Manager** を開きます。
- 2 左側のペインで **[Microsoft SQL Servers]** グループを展開します。
- 3 **[SQL Server Group]** を展開します。
- 4 HPOM インスタンス グループ (MSSQLSERVER\OVOPS) を展開します。
- 5 **[Databases]** フォルダをクリックします。
- 6 右側のペインで **openview** をクリックし、**[Delete]** をクリックします。  
'openview' データベースの削除を承認します。

 **[Delete backup and restore history for the database]** チェックボックスを適切に選択してください。

- 7 左側のペインで **[Security]** フォルダを展開し、**[Logins]** を選択します。
  - a 右側のペインで **HP-OVE-Deleg-User** をクリックし、キーボードの **Delete** キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。
  - b 右側のペインで **HP-OVE-User** をクリックし、キーボードの **Delete** キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。
  - c 右側のペインで **ovdb\_user** をクリックし、キーボードの **Delete** キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。
  - d 右側のペインで **ovms\_admin** をクリックし、キーボードの **Delete** キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。

# HPOM for Windows の再インストール

HPOM for Windows の管理サーバーとリモート コンソールの再インストールは、アンインストール後に行う 2 回目のインストールです。管理サーバーは、全く新しくインストールする必要があります(その際、サーバー データベース、ポリシーなどは完全に再作成されます)。

## 管理サーバーの再インストール

HPOM 管理サーバーを再インストールする前に、SPI とすべてのアドオン製品とともに、既存のサーバーをアンインストールしてください。サーバーのアンインストールでは、サーバーのエージェントや収集されたパフォーマンス データも自動的に削除されます。

### データベース

データベースの内容を再利用する場合は、同じノードで並列移行を実施する必要があります。次の手順で、並列移行を行います。

- 1 データをダウンロードします。
- 2 古いソフトウェアをアンインストールします。
- 3 新しいソフトウェアをインストールし、データをアップロードします。

HPOM 8.10 for Windows から 8.10 への置換移行はサポートされていません。

並列移行の詳細については、インストール メディアに収録されている HPOM のアップグレード ガイドを参照してください。

## リモート コンソールの再インストール

HPOM 8.10 for Windows リモート コンソールを再インストールする手順は、次のとおりです。

- 1 **[アプリケーションの追加と削除]** を使用して、既存のコンソールをアンインストールします。
- 2 2 回目のインストールを実行します。



## 6 インストール後の作業

この章では、HP Operations Manager for Windows (HPOM) のインストール後に実行できる次の項目について説明します。

- 154 ページの「HPOM の操作方法」
- 155 ページの「コンソールの概要」
- 158 ページの「設定可能な項目」

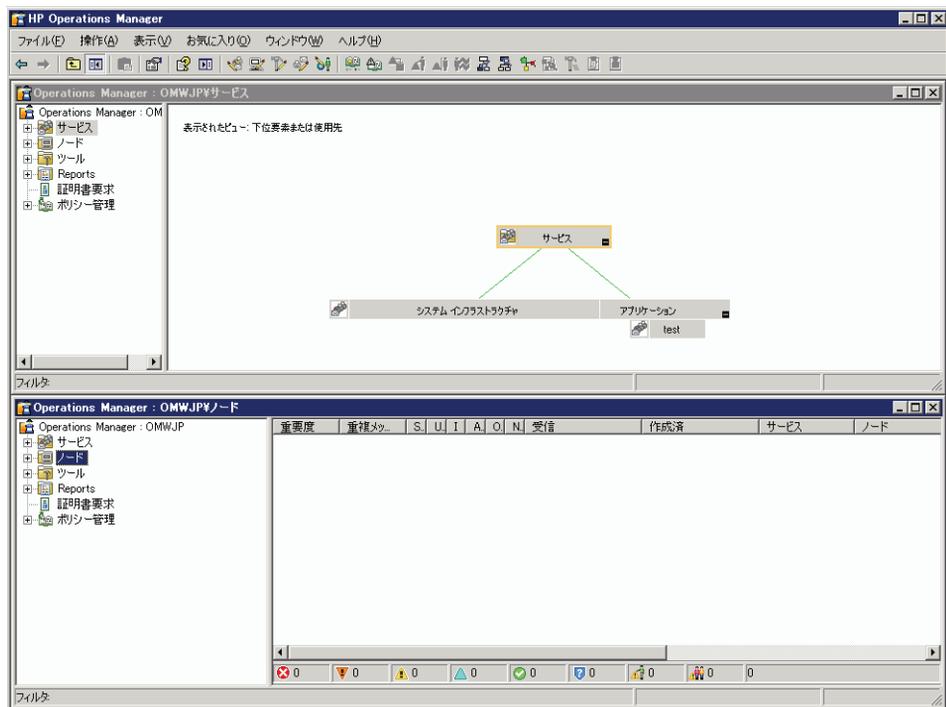
## HPOM の操作方法

- 演習および例を交えて基本的なタスクの概要を対話式で説明するチュートリアルについては、**基本トレーニング**情報を参照してください。これは、ヘルプおよびインストールメディアからアクセスできます。インストールの完了後、コンソールを最初に開いたときに、基本トレーニングチュートリアルを表示するかどうかを確認されます。チュートリアルの最初のページは、実行する管理タスクの便利なチェックリストとして使用できます。
- ノード、ツール、サービス、ポリシー、ユーザーロールの設定、ポリシーの配布、およびデータベース保守などの管理タスクについては、ヘルプシステムを参照してください。

## コンソールの概要

HPOM コンソールを開きます。[スタート]メニューから、[すべてのプログラム] → [HP] → [HP Operations Manager] → [コンソール]の順に選択して、HPOM 管理コンソールを起動します。コンソール ツリーで、[Operations Manager] をクリックします。エントリの横のプラス記号(+)をクリックして、ツリー内のコンテンツを展開または縮小表示し、コンソール ツリー内のナビゲートを実際に試してみます。メッセージおよびマップの表示に使用できるオプションを調べます。次に簡単な説明を示します。詳細はオンライン ヘルプを参照してください。

次の図は、本製品の起動時に開くデフォルトのコンソール ビューを示しています。2つのウィンドウが表示されます。1つはシステム インフラストラクチャのマップ ビューです。もう1つはメッセージブラウザです。次のように、各ウィンドウの左側にコンソール ツリーが表示され、右側に詳細ペインが表示されます。



## Microsoft Management Console (MMC) とそのメニュー

Microsoft Management Console (MMC) メニューバーは、前の図の一番上にあるメニューバーです。メニューには、[ コンソール ]、[ ウィンドウ ]、および [ ヘルプ ] が含まれています。MMC は、HPOM などの管理ツールに対するソフトウェアフレームワークです。MMC メニューバーからは、コンソールウィンドウの操作から新しいコンソールの作成まで、幅広いタスクを実行できます。MMC については、ヘルプトピック「**HP Operations Manager for Windows と MMC**」、または Microsoft の Web サイト [www.microsoft.com/japan/](http://www.microsoft.com/japan/) を参照してください。

## Web コンソール インタフェース

HP Operations Web コンソールは、管理ノードで発生したイベントにより生成されたメッセージを迅速かつ簡単に表示および対応できるツールです。どのような場所からも、Internet Explorer または Netscape ブラウザを使用して、メッセージの重要度を一瞬で把握し、その原因である問題を解決するための処置ができます。サポートされるブラウザのバージョンについては、第 2 章「要件」を参照してください。

Web コンソールへのアクセス方法については、オンラインヘルプの「ワークスペースの管理」の下にあるトピック「**Web コンソールによるメッセージの参照**」を参照してください。Web コンソールには、機能解説のヘルプが別途用意されています。

## HPOM メニュー

MMC メニューバーの直下にある HPOM のメニューバーを使用して、HPOM のタスクを実行できます。項目を選択して右クリックするとショートカットメニューが表示されます。このメニューも HPOM で頻繁に使用されます。

## 詳細ペイン

詳細ペイン (ウィンドウの右側) には、リスト、メッセージブラウザ、およびマップビューが表示されます。これらのビューを並べて表示し、複数のウィンドウを同時に参照することができます。

## コンソール ツリー

コンソール ツリー ( ウィンドウの左側 ) には、次に示す HPOM の主要コンポーネントを表すフォルダがリスト ビューとして表示されます。

- **サービス** : コンピューティング環境にある 1 つ以上のハードウェアまたはソフトウェア コンポーネントによって提供される、カスタマベース、ユーザー指向、またはインフラストラクチャの機能です ( 電子メール、ネットワーク帯域幅、アプリケーション アクセスなど )。ポリシーは、指定されたサービス利用者に対し、適切なサービス レベルを確実に提供するのに役立ちます。
- **ノード** : HPOM 管理サーバーから管理できるコンピュータ システムまたはインテリジェント デバイスです。HPOM では、Windows ノードおよび UNIX ノードの両方を管理できます。
- **ツール** : HPOM では、ツールはタスクの実行に使用するソフトウェア プログラムまたはコマンドです。たとえば、URL、実行ファイル、または Visual Basic スクリプトをリモートの管理ノード上で実行するよう設定できます。
- **ポリシー ( コンソール ツリーで [ ポリシー管理 ] の下に表示されています )** : ネットワークおよびサービスの管理を自動化するために利用される仕様またはルールです。HPOM 管理者は、社内全体で一貫性のある自動管理を行うために、管理ノードにポリシーを配布します。ポリシーは、管理ノードで監視および記録する情報や、管理サーバーからコンソールに転送するイベントおよびメッセージを指定するテンプレートと見なすことができます。
  - UNIX ノードに配布できる UNIX 用のポリシーおよびツールが提供されています。
  - Self Manager は、管理サーバーおよび管理ノードに配布して、HPOM サーバーおよびエージェントを管理することができます。
- **SPI** : Exchange アプリケーションなど、特定タイプのビジネス アプリケーションやデータベースを管理するための、あらかじめパッケージされたソフトウェアです。SPI は HPOM サーバーにインストールされ、コンピュータ システムの運用を管理するために必要なデータ ソース、ポリシー、診断ルール、修正アクションを含んでいます。SPI はヘルプ システムも備えているため、他のタイプのドキュメントも提供できます。

## 設定可能な項目

管理者は、ソフトウェアの特定の要素を設定することができます。次のリストは、設定タスクの概要を示しています。

HPOM の設定方法については、基本トレーニング チュートリアルを参照するか、コンソールからオンライン ヘルプを参照してください。管理タスクの多くは、管理者しか実行できませんが、すべてのユーザーが実行できるタスクもあります。それらのタスクには、いずれもオペレータが実行する機能を管理するユーザー ロールを割り当てることができます。

- **ユーザーの追加** : 適切なセキュリティグループへのユーザー (HPOM の管理者およびオペレータ) の追加。
- **ノードの設定** : ノード (システム) を、管理できるように設定します。設定する項目には、管理するシステム (ノード) の選択と、ノード、サービス、およびユーザー ロールが利用できるツールの選択があります。設定されたノードは、直ちに管理ノードとなります。管理サーバーは、インストール時に自動的に管理ノードとして追加されます。
- **サービスの設定** : ビジネス サービスを HPOM の機能に関連付けるには、サービス階層内のサービスの依存関係と、関連するサービスのステータスに基づいて重要度を評価するルールを定義します。開始する際には、ステータス伝達およびステータスの計算ルールにデフォルト値を使用することができます。
- **ツールの設定** : オペレータが管理ノードおよびサービスに対して使用できるツールを指定します。オペレータは許可されたツールを使用して、メッセージブラウザで報告された業務上重大な影響を与える問題の解決や、管理環境に関する情報の報告を行います。これらのツールは、サービス、管理ノード、ユーザー ロールに関連付けることができます。また、ツールは定義済みのノード リストで実行するように設定することもできます。
- **ユーザー ロールの設定** : 管理者は、特定の割り当てられたタスクと責任が重点的に表示されるように、オペレータのビュー環境を設定することができます。特定のユーザーにロールを定義することにより、オペレータに対し企業情報を表示する方法や、実行を許可するアクティビティの範囲を制御できます。各ユーザーに特定のロールを適切に定義し割り当てることで、独自の特殊技能や経験を持つ個人の集団全体に監視タスクと保守タスクを割り当て、各自のコンソール表示方法をカスタマイズすることができます。

- サービス タイプの設定：**サービスのインスタンス作成時に使用するサービス タイプのプロパティを指定できます。サービス タイプはテンプレートに似ていて、特定のレポート、グラフ、ツール、または配布パッケージに関連付けることができます。このような関連付けを行ったサービス タイプは、関連するサービスのインスタンス作成時に使用されます。各サービス タイプに関連付けられたツール、レポート、グラフ、および配布パッケージは、このサービスの過去または未来の各インスタンスに関連付けられます。サービス タイプに属するサービスは、すべてこの特性を持ちます。
- ポリシーの作成または編集：**事前設定済みのデフォルト ポリシーを使用するほかに、1 つ以上のデフォルト ポリシーのバージョンをコピーして修正するか、またはいずれかのポリシー タイプから新しいポリシーを作成することで、ユーザー定義ポリシーを設定できます。また、メッセージブラウザで受信したメッセージに関連する問題を解決するための自動またはオペレータ起動コマンドを作成することもできます。
- メッセージ フィルタの設定：**(オペレータまたは管理者) — メッセージブラウザには、管理サーバーで管理されるノードから受信したメッセージが、管理者による設定に基づいて表示されます。オペレータはフィルタを設定することで、特定の基準に合致したメッセージだけが表示されるように、メッセージの表示方法をさらにカスタマイズできます。
- 管理ノードのパフォーマンス データの収集：** HP Operations for Windows エージェントは、データを収集するすべての Windows 管理ノードに配布されます。
- パフォーマンス グラフの表示：**収集されたパフォーマンス データに基づいて、パフォーマンス上の問題を診断し、傾向を検出するために使うグラフを表示することができます。デフォルトのグラフをカスタマイズしたり、独自のグラフを作成することもできます。
- Microsoft Windows サービスの管理：**事前設定済みのデフォルトのポリシーを使い、メッセージブラウザに表示されたイベントから、ニーズに正確に適合させるためのポリシーの変更方法を判断します。
- UNIX ノードの管理：**HPOM には、UNIX ノードを管理するためのエージェントが付属しています。これらのエージェントをインストールしてアクティブ化すると、UNIX システムを管理するための事前定義済みデフォルト ポリシーとツールを配布できます。
- Self Manager を使用した HPOM の管理：**Self Manager は HPOM サービスおよびエージェントを管理します。これは、管理サーバーに自動的に配布されます。エージェントを管理するには、管理ノードに Self Manager ポリシーを配布します。



# A システム要件のチェック

HPOM のインストール開始前と実行中に、以下の必要条件がチェックされます。

- インストール開始時のチェック。161 ページの表 2 を参照してください。
- 管理サーバーとリモート コンソールの両方に適用されるチェック。162 ページの表 3 を参照してください。
- 管理サーバーのみに適用されるチェック。164 ページの表 4 を参照してください。
- リモート コンソールのみに適用されるチェック。165 ページの表 5 を参照してください。

**表 2**            **インストール開始時のチェック**

| 必要条件チェック                      | 結果  | メッセージ テキスト / 対応方法                          |
|-------------------------------|-----|--------------------------------------------|
| インストールを実行するユーザーが管理者権限を持っていない。 | エラー | HPOM のインストールを行うユーザーには、少なくともローカル管理者権限が必要です。 |



**表 3 管理サーバーとリモート コンソールの両方に適用されるチェック**

| 必要条件チェック                                                                                            | 結果                     | メッセージ テキスト / 対応方法                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| ターゲット OS が 64 ビット Windows である。                                                                      | 警告                     | 64 ビット Windows システムへの HPOM のインストールはサポートされていません。                        |
| システムに KB925336 が適用されていない (Windows Server 2003 のみ)。                                                  | 警告                     | このパッチをターゲット システムにインストールする必要があります。                                      |
| インストールプログラムが、WMI を使用してローカルシステムに接続できない。                                                              | エラー                    | WMI (Windows Management Instrumentation) サービスをターゲット システム上で実行する必要があります。 |
| システム上で WMI (Windows Management Instrumentation) サービスを実行しているが、インストールプログラムは WMI を使用してローカルシステムに接続できない。 | DCOM セキュリティ設定の確認を求められる | DCOM セキュリティ設定を確認します。                                                   |
| ディスク容量が必要最小量の 6144 MB 以下。                                                                           | 警告                     | システムのディスク容量 (<DETECTED_VALUE>) が、必要最小量の 6144 MB 未満です。                  |

**表 4 管理サーバーのみに適用されるチェック**

| 必要条件チェック                                   | 結果  | メッセージ テキスト / 対応方法                                                                             |
|--------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ターゲット システムがドメイン コントローラである。                 | エラー | HPOM 管理サーバーは、ドメイン コントローラにインストールできません。                                                         |
| 単一サーバーインストールをクラスタインストールに置換アップグレードしようとしている。 | 警告  | 単一サーバー インストールをクラスタインストールに置換アップグレードすることはできません。代わりに、並列移行を実行してください。                              |
| プライマリ DNS サフィックスが設定されていない。                 | エラー | このシステムの DNS サフィックスは設定されていません。クライアントシステムがサーバーのホスト名を解決できない場合、エージェントと管理サーバーの間の通信に問題が生じる可能性があります。 |
| HP Network Node Manager アダプタがインストールされている。  | エラー | HPOM の新しいバージョンをシステムにインストールする前に、HP NNM Adapter をアンインストールしておく必要があります。                           |
| IIS Admin サービスが存在しません。                     | エラー | IIS がターゲット システムにインストールされ、IIS Admin サービスが存在している必要があります。HPOM のインストール時に、このサービスが実行中でなければ、起動されます。  |
| ターゲット OS が Windows XP またはそれ以前の OS である。     | エラー | サポートされている管理サーバー プラットフォームについては、HPOM のサポート マトリクスを参照してください。                                      |
| Internet Explorer のバージョンが 6.0 より古い。        | 警告  | サポートされている Internet Explorer のバージョンについては、HPOM のサポート マトリクスを参照してください。                            |

| 必要条件チェック                | 結果  | メッセージ テキスト / 対応方法                                                                        |
|-------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------|
| ユーザーがドメイン管理者ではない。       | 警告  | インストールを行うユーザーがドメイン管理者でない場合、インストールの際にドメイン アカウントを作成できないほか、HP-OVE-Deleg-User の委任権限を設定できません。 |
| 物理メモリが必要最小量の 256 MB 以下。 | エラー | システムの物理メモリの容量 (<DETECTED_VALUE>) が、必要最小量の 256 MB 未満です。                                   |
| 仮想メモリが必要最小量の 512 MB 以下。 | エラー | システムの仮想メモリの容量 (<DETECTED_VALUE>) が、必要最小量の 512 MB 未満です。                                   |

**表 5 リモート コンソールのみ適用されるチェック**

| 必要条件チェック                                                 | 結果  | メッセージ テキスト / 対応方法                                            |
|----------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------|
| ターゲット OS が Windows 2000 以前か、SP2 をインストールしていない Windows XP。 | エラー | サポートされているリモート コンソール プラットフォームについては、HPOM のサポート マトリクスを参照してください。 |
| 物理メモリが必要最小量の 256 MB 以下。                                  | エラー | システムの物理メモリの容量 (<DETECTED_VALUE>) が、必要最小量の 256 MB 未満です。       |
| 仮想メモリが必要最小量の 512 MB 以下。                                  | エラー | システムの仮想メモリの容量 (<DETECTED_VALUE>) が、必要最小量の 512 MB 未満です。       |
| ディスク容量が必要最小量の 272 MB 以下。                                 | 警告  | システムのディスク容量 (<DETECTED_VALUE>) が、必要最小量の 272 MB 未満です。         |



# 索引

## 数字

- 60 日間試用版ライセンス  
    クラスタ , 97  
    非クラスタ , 85

## A

- Acrobat
    - PDF, 18
    - リーダー要件 , 25
  - Active Directory
    - HPOM SPI, 17
    - 仮想サーバー , 100
    - 管理 , 14
    - ドメイン識別子 , 32
    - ドメイン名 , 31
  - Active Server Pages、有効化 , 35
  - Administrators グループ , 55
  - [Administrators グループと Operators グループ]  
    ページ
  - クラスタ , 119
  - 非クラスタ , 72
- Adobe Acrobat。 Acrobat を参照
- AMD Opteron, 23
  - .asp ファイル、有効化 , 35
  - Athlon 64 CPU, 23
  - AutoPass オンラインヘルプ , 86

## B

- Business Availability Center アダプタ , 16

## C

- Citrix Metaframe, 14
- Cliconfg.exe, 103
- ClusterManagementServer.config, 135

## D

- DCE
  - エージェント , 36
  - 管理ノード , 36
- dcomcnfg, 56
- DCOM 設定 , 56
- Dell OpenManage, 14
- DHCP, 46
- DNS
  - 仮想サーバー , 100
  - サフィックスの変更 , 33
  - プライマリ サフィックス , 32
  - 要件 , 31
- DVD、HPOM for Windows, 16
- DVD-ROM ドライブ要件
  - 管理サーバーとコンソール , 23
  - リモート コンソール , 24

## E

ERP ソフトウェア , 14

Exchange、Microsoft, 17

## F

Firefox 要件 , 25

Firewall Client サービス , 49

Firewall Concepts and Configuration Guide, 49

FQDN 要件 , 32

## G

GPO, 89

## H

HP Business Availability Center アダプタ , 16

HP ITO Account, 39

HP Network Node Manager

アダプタ , 16

メディア キット , 17

HPOM Web コンソール IIS 拡張 , 35

HPOM インストールの準備 , 100 - 104

HPOM および SQL サーバー

同一クラスタ , 93

別々のクラスタ , 94

HPOM クラスタ

SQL Server, 95

インストールの検証 , 139 - 141

HPOM のアンインストール

手動 , 149

手順 , 145 - 149

要件 , 143

HPOM の再インストール , 151

HPOM の設定 , 158

HP OpenView Operations for Windows。OVO、  
HPOM へのアップグレードを参照

HP Operations SPI

UNIX, 15

Windows, 14

HP-OVE-ADMINS

DCOM アクセス権限 , 56

エージェントの配布 , 37

制限グループ , 88

説明 , 43

リモート コンソールのインストール , 56

HP-OVE-Deleg-User

PMAD ユーザー , 37

委任権限の設定 , 42

概要 , 41

制限グループ , 88

ドメイン

インストール , 68

管理者 , 89

要件 , 30

HP-OVE-Group アカウント , 43

HP-OVE-OPERATORS

DCOM アクセス権限 , 56

制限グループ , 88

説明 , 44

リモート コンソールのインストール , 56

HP-OVE-User

制限グループ , 88

説明 , 41

ドメイン

インストール , 68

管理者 , 89

HP Performance Agent, 17

HP Performance Manager for Windows, 17

HP Reporter

データベース要件 , 27

メディア キット , 17

HP SiteScope アダプタ , 16

HP Systems Insight Manager, 14

HTTPS

エージェント , 36

管理ノード , 36

ポート , 76

HTTP ポート , 76

## I

IIS

ポート

ページ , 122

変更 , 76

要件

コンポーネント , 34

バージョン , 25

Insight Manager, 14

Intel Pentium 4, 23

Intel Pentium III

管理サーバーとコンソール , 23

リモート コンソール , 24

Internet Explorer

Web コンソール , 156

要件 , 25

Internet Information Services。IIS を参照

IP アドレス、静的な , 98

ISA Server, 49

## L

Linux、DCE エージェントの配布 , 36

LocalSystem アカウント , 39

## M

ManagementServer.config, 81

Microsoft Active Directory。Active Directory を参照

Microsoft BackOffice, 14

Microsoft Cluster Server。MCS を参照

Microsoft Exchange, 17

Microsoft Internet Information Services。IIS を参照

Microsoft Internet Security and Acceleration Server, 49

Microsoft Management Console。MMC を参照

Microsoft .NET Framework。 .NET Framework を参照

Microsoft Security テンプレート , 21

Microsoft SQL Server。SQL Server を参照

Microsoft Visual Studio 再頒布可能パッケージ , 60

Microsoft Web Server, 14

Microsoft Windows 2003 クラスタ , 96

Microsoft クラスタ

サポート , 25

データの移行 , 19

Microsoft クラスタ アドミニストレータ

HPOM のアンインストール , 144

HPOM のインストール , 105

共有ディスクの割り当て , 101

Microsoft クラスタ ウィザード , 101

Microsoft のサポート技術情報 , 102

MMC

メニュー バー , 156

- リモート コンソール
  - 計画 , 20
  - ローカル インストール , 69

Mozilla Firefox 要件 , 25

MSCS

- インストール , 100
- 要件 , 98

msiexec, 17

## N

.NET Framework

- HPOM のインストール , 60
- リモート コンソールのインストール , 81

Netscape

- Web コンソール , 156
- 要件 , 25

Network Node Manager

- アダプタ , 16
- メディア キット , 17

NIC 設定 , 33

## O

opc\_op

- LocalSystem アカウント , 39
- UNIX root エージェント , 40

OpenView Operations for Windows。OVO、HPOM へのアップグレードを参照

“openview” データベース

- 計画 , 21
- 再使用 , 74
- 作成 , 27

Operations SPI

- UNIX, 15
- Windows, 14

OvChgPass.exe, 89

OveConfig.exe, 38

OVO、HPOM へのアップグレード  
非クラスタ , 53  
要件 , 47

OVO からのアップグレード

- 非クラスタ インストール , 53
- 要件 , 47

ovpmad

- HP-OVE-Deleg-User, 42
- セキュリティ要件 , 37

## P

PDF、Adobe Acrobat, 18

Performance Agent, 17

Performance Manager for Windows, 17

PMAD ユーザー配布方法 , 37

## Q

/qn パラメータ ( サイレント モード ), 81, 135

/qr パラメータ ( 非対話モード ), 81, 135

## R

RemoteConsole.config, 81

Reporter

- サポートされるバージョン , 27
- メディア キット , 17

## S

Self Manager, 159

Setup.exe

- HPOM のアンインストール , 145

- インストーラ
  - クラスタ , 106, 129
  - 非クラスタ , 60
  - リモート コンソール , 81, 135
  - メディア キット , 17
- SID, 55
- SiteScope Adapter, 16
- Smart Plug-in
  - UNIX, 15
  - Windows, 14
- SPI
  - インストーラ , 141
  - フォルダ , 157
- Sqlredis.exe, 103
- SQL Server
  - HPOM クラスタ , 95
  - HPOM サーバー
    - 同一クラスタ , 93
    - 別々のクラスタ , 94
  - Windows クラスタ , 96
  - インスタンス , 73
  - インスタンス ページ
    - クラスタ , 120
    - 非クラスタ , 73
  - インストーラ
    - Enterprise Edition, 102
    - データベース , 100
  - 計画 , 21
  - コンポーネント , 79
  - サポートされるバージョン
    - クラスタ , 98
    - データベース , 27
  - 設定 , 28
  - デフォルト , 21
- SQL Server Enterprise, 28

## T

- TCP/IP 設定 , 33

## U

### UNIX

- OSSPI, 15
- root エージェント アカウント , 40
- 管理ノード , 69, 159

## V

- VantagePoint for Windows、アップグレード , 53

- Veritas Backup, 14

- Visual Studio 再頒布可能パッケージ , 60

- VMWare 共有フォルダ , 46

## W

### Web コンソール

- インタフェース , 156
- 要件 , 25

- Web サーバー , 14

### Windows

- OS SPI, 14
- 環境 , 20
- 管理者 , 53
- サービスの管理 , 159
- サービス要件 , 34
- ドメイン , 20, 42, 69
- ファイアウォールが有効な
  - 管理サーバー , 50
  - リモート コンソール , 51
- ワークグループ
  - HP-OVE-Deleg-User, 42
  - 環境 , 20

### Windows 2003

- Active Directory ドメイン設定 , 32

- Microsoft SQL 2003 のインストール , 102
  - クラスタ , 98
- Windows Management Instrumentation, 55
- Windows Server 2003
  - ソフトウェア要件 , 25
- Windows XP SP2、リモート コンソール設定 , 56
- Windows ノード セキュリティの設定ツール , 38
- WMI, 55
- World-Wide-Web Publishing Server サービス , 55
- World Wide Web サーバー , 34

## あ

- アカウント
  - HP-OVE-ADMINS, 43
  - HP-OVE-Deleg-User, 41
  - HP-OVE-Group, 43
  - HP-OVE-OPERATORS, 44
  - HP-OVE-User, 41
  - LocalSystem, 39
  - UNIX root エージェント , 40
  - 管理サーバー , 41
  - 管理ノード , 39
  - 廃止 , 39
  - ユーザー , 71
  - ユーザーとグループの作成 , 45
- アカウント セットアップ ウィザード , 90
- [ アカウント タイプ ] ページ
  - クラスタ , 116
  - 非クラスタ , 68
- アクティブな仮想サーバー , 100
- アップグレード ガイド , 91
  - 説明 , 47
  - 場所 , 19

- アドオン製品
  - アンインストール , 143
  - インストール , 141
- アプリケーション サーバー , 14
- 暗号化されたファイル システム , 46

## い

- [ 移行 ] ページ , 146
- 以前のバージョン , 47
- 委任権限
  - 設定 , 42
  - ドメイン インストール , 68
- インストール
  - HPOM
    - 概要 , 104
    - クラスタ , 91
    - 最初のクラスタ ノード , 105 - 127
    - セキュア環境 , 88 - 90
    - ターミナル サービス , 54
    - 手順 , 60 - 80
    - 残りのクラスタ ノード , 128 - 134
    - 非クラスタ , 53
    - ファイアウォール環境 , 49
    - リモート デスクトップ サービス , 54
  - SPI, 141
  - SQL Server, 102
  - アドオン製品 , 141
  - ウィザード
    - 管理サーバー , 50
    - リモート コンソール , 51
  - エージェント , 22
  - 管理サーバー
    - クラスタ , 96
    - 非クラスタ , 55
  - クラスタ , 91
  - 計画チェックリスト , 19 - 22

結果, 87, 138

権限, 45

コンソール

    クラスタ, 96

    非クラスタ, 55

コンソール/サーバー, 19

準備, 100 - 104

デフォルト ディレクトリ, 67

ドメイン, 68

ネットワーク ドライブ, 46

パッチ, 48

非クラスタ, 53

複数ノードで同時, 128

リモート コンソール, 56

ローカル, 69

ログ ファイル, 87, 138

[ インストール先フォルダ ] ページ

    クラスタ, 114

    非クラスタ, 66

[ インストール終了 ] ページ

    HPOM のアンインストール, 148

    クラスタ, 126

    非クラスタ, 79

[ インストール準備完了 ] ページ

    クラスタ, 124

    非クラスタ, 78

インストール ディレクトリ、デフォルト, 114

インタラクティブ チュートリアル, 154

## う

ウィザード

    Microsoft クラスタ, 101

    アカウント セットアップ, 90

    インストール

        管理サーバー, 50

        リモート コンソール, 51

ウイルス対策アプリケーション, 14

## え

永続的な

    データ損失, 47

エージェント

    UNIX root アカウント, 40

    インストール

        概要, 22

        自動, 20

    機能パッケージ, 69

    配布

        DCE, 36

        HTTPS, 36

        自動, 20

    要件

        概要, 36

        ハードウェアとソフトウェア, 36

        配布セキュリティ, 37

エージェントの手動インストール, 88

## お

オンラインヘルプ

    AutoPass, 86

    HPOM, 18

## か

拡張、HPOM Web コンソール IIS, 35

仮想 IP アドレス, 112

[ 仮想管理サーバー名 ] ページ, 112

仮想サーバー

    アクティブ, 100

    同一クラスタ, 92

仮想サーバー、HPOM, 97

仮想サーバー名, 112

- 仮想メモリ要件
  - 管理サーバーとコンソール, 23
  - リモート コンソール, 24
- 環境、Windows, 20
- 完全修飾ドメイン名, 32
- 管理
  - HPOM サービス, 159
  - UNIX ノード, 159
  - Windows サービス, 159
- 管理サーバー
  - アカウント, 41
  - インストール, 96
    - 概要, 55
    - ファイアウォール環境, 49
  - 永続的なデータ損失, 47
  - 再インストール, 151
  - システム要件のチェック
    - 管理サーバーとリモート コンソール, 162
    - 管理サーバーのみ, 164
  - 制限グループ, 88
  - ドメイン コントローラ, 46
  - 要件
    - ソフトウェア, 25
    - ハードウェア, 23
- [ 管理サーバー アカウント ] ページ
  - クラスタ, 118
  - 非クラスタ, 71
- 管理者
  - Microsoft クラスタ, 105
  - Windows, 53
  - アカウント, 88
  - クラスタ, 101
  - タスク, 158
  - ドメイン
    - 管理サーバー, 55
    - ドメイン インストール, 68
  - ローカル
    - HPOM, 44
    - 管理サーバーとコンソール, 55
    - リモート コンソール, 56
- 管理ノード
  - DCE, 36
  - HTTPS, 36
  - UNIX, 69
  - アカウント, 39
  - アンインストール, 143
  - 制限グループ, 88
  - パフォーマンス データの収集, 159
- 管理ノードのパフォーマンス データの収集, 159
- き
  - 偽装ユーザー配布方法, 37
  - 既存のユーザー、認証, 45
  - 既存のユーザーの認証, 45
  - 機能レベル、ドメイン, 31
  - 基本機能のドキュメント, 18
  - 基本トレーニング チュートリアル
    - 開始, 80
    - 説明, 154
- 共有
  - ストレージ, 98
  - ディスク、割り当て, 101
  - ディレクトリ、デフォルト, 114
  - フォルダ、VMWare, 46
- 共有ディスクの割り当て, 101
- [ 共有フォルダ ドライブ ] ページ, 113
- く
  - クォーラム ディスク, 100

## クラスタ

### HPOM および SQL サーバー

異なるクラスタ, 94

同一クラスタ, 93

### HPOM のインストール

概要, 91

最初のクラスタ ノード, 105 - 127

残りのクラスタ ノード, 128 - 134

### Microsoft, 19

#### 検証

インストール後, 139 - 141

インストール前, 100

サポートされない設定, 99

セットアップ, 92

要件, 98

リソースの作成, 101

クラスタ アドミニストレータ, 101

[クラスタ対応インストール タイプ] ページ,  
111

#### クラスタの検証

インストール後, 139 - 141

インストール前, 100

クラスタ リソース グループ, 101

グラフ、パフォーマンスの表示, 159

グループ アカウント、作成, 45

グループ ポリシー オブジェクト, 89

## け

計画チェックリスト、インストール, 19 - 22

#### 結果、インストール

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

権限インストール, 45

#### 権限、委任

ドメイン インストール, 68

厳密なパスワード ポリシー, 89

## こ

コア SPI リリース ノート, 16

高度なセキュリティ設定, 89

購入注文, 86

混合モード, 29

#### コンソール

##### インストール

概要, 96

セキュリティ, 55

チェックリスト, 19

概要, 155

ツリー, 157

##### 要件

ソフトウェア, 25

ハードウェア, 23

#### コンソール、Web

インタフェース, 156

要件, 25

#### コンソール、リモート

MMC, 20

Windows XP SP2 設定, 56

インストール, 56

再インストール, 151

##### システム要件のチェック

管理サーバーとリモート コンソール,  
162

リモート コンソールのみ, 165

##### 要件

ソフトウェア, 25

特別, 30

ハードウェア, 24

コントローラ、ドメイン, 31

コンピュータ アカウント, 55

コンポーネント  
HPOM, 157  
SQL Server, 79

## さ

サーバー

HPOM および SQL  
同一クラスタ, 93  
別々のクラスタ, 94  
ISA, 49  
SQL Server と HPOM クラスタ, 95  
Web, 14  
WWW, 34  
アプリケーション, 14  
インストール, 19  
仮想  
クラスタ セットアップ, 92  
ライセンス, 97  
管理サーバーの再インストール, 151  
電子商取引, 14  
要件, 21

サービス

Firewall Client, 49  
World-Wide-Web Publishing Server, 55  
管理  
HPOM, 159  
Windows, 159  
設定  
サービス タイプ, 159  
ビジネス サービス, 158

サービス フォルダ, 157

最初のクラスタ ノード、HPOM のインストール, 105 - 127

サイレント モード, 81, 135  
クラスタ インストール, 81, 135

[ 削除準備完了 ] ページ, 147

作成

クラスタ リソース, 101  
ポリシー, 159  
ユーザー アカウントとグループ アカ  
ント, 45

サフィックス、プライマリ DNS, 32

サポートされない  
設定, 46, 99

## し

資格情報、別の, 37

システム要件、チェック  
インストール開始, 161  
管理サーバーとリモート コンソール, 162  
管理サーバーのみ, 164  
リモート コンソールのみ, 165

実行可能ファイルのディレクトリ  
クラスタ, 138  
非クラスタ, 87

実際の  
ユーザー, 41

自動でのエージェントのインストールと配布,  
20

自動配布, 69

手動でのファイルとフォルダの削除, 149

[ 使用許諾契約 ] ページ  
クラスタ, 108  
非クラスタ, 64

詳細ペイン, 156

## す

[ スタート ] メニュー  
クラスタ, 138  
非クラスタ, 87

ストレージ、共有, 98

## せ

正規販売代理店 , 86  
制限グループ設定 , 88 - 90  
制限グループ設定を適用した HPOM の実装 ,  
88 - 90  
静的な IP アドレス , 98

### 製品

HPOM, 16  
アドオン , 141

### セキュリティ

HPOM インストール , 88 - 90  
エージェントの配布 , 37  
コンテキストの変更 , 41  
識別子 , 55  
ルール , 21

「セキュリティ構成と分析」スナップイン , 88

セキュリティ コンテキストの変更 , 41

### 設定

HP-OVE-Deleg-User の委任権限 , 42  
クラスタ セットアップ , 92  
サポートされない  
HPOM, 46  
クラスタ , 99  
データベース , 21, 27  
プライマリ DNS サフィックス , 32

設定、サポートされない , 46

設定ファイル , 81, 135

### セットアップ

クラスタ , 92

説明、HPOM, 14

## そ

ゾーン、DNS, 31

ゾーン転送を許可するサーバー , 31

### ソフトウェア要件

Web コンソール , 25  
エージェント , 36  
概要 , 25  
管理サーバーとコンソール , 25  
リモート コンソール , 25

## た

### ターミナル サービス

HPOM サーバーへの接続 , 20  
HPOM のインストール , 54

タイプ、サービスの設定 , 159

タスク、管理者 , 158

ダブルホップ偽装 , 37

## ち

### チェック

#### システム要件

インストール開始 , 161  
管理サーバーとリモート コンソール ,  
162  
管理サーバーのみ , 164  
リモート コンソールのみ , 165  
プライマリ DNS サフィックス , 32

チェックリスト、インストール計画 , 19 - 22

### チュートリアル、基本トレーニング

開始 , 80  
説明 , 154

## つ

### ツール

Windows ノード セキュリティの設定 , 38  
設定 , 158  
ライセンス レポート , 86

ツール フォルダ , 157

ツリー、コンソール, 157

## て

ディスク

共有の割り当て, 101

クォーラム, 100

ディスク容量要件

管理サーバーとコンソール, 23

リモート コンソール, 24

ディレクトリ

実行可能ファイル

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

デフォルト, 114

ドキュメント

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

ログ ファイル

クラスタ, 138

非クラスタ, 138

データ

ストレージ, 98

損失、永続的, 47

ディレクトリ、デフォルト, 114

データベース

“openview”

計画, 21

再使用, 74

作成, 27

移行, 151

ストレージ, 98

設定, 21

要件

概要, 27

設定, 27

認証モード, 29

リモート, 28

リモート

削除, 150

サポートされていない, 20

データベースの移行, 151

テスト用システム, 53

デフォルト

インストール ディレクトリ

クラスタ, 114

非クラスタ, 67

共有ディレクトリ, 114

コンソールビュー, 155

データ ディレクトリ, 114

電子商取引サーバー, 14

電子メール, 14

テンプレート、Microsoft Security, 21

## と

統合 DNS, 32

ドキュメント

Firewall Concepts and Configuration Guide,  
49

HPOM for Windows, 18

アップグレード ガイド

クラスタ インストール, 91

計画, 19

要件, 47

ディレクトリ

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

ドメイン

Windows

HPOM のインストール, 20

HPOM アカウント, 42

管理サーバー, 69

インストール, 68

## 管理者

インストール ユーザー, 68

管理サーバーとコンソール, 55

コントローラ, 46

サフィックス, 32

ポリシー, 39

## 要件

ネットワーク, 31

リモート コンソール, 30

ドメイン ネーム システム。DNS を参照

## な

ナビゲーション, 155

## に

認証モード、データベース, 29

## ね

ネットワーク

設定, 29

ドライブ, 46

## 要件

DNS, 31

FQDN, 32

概要, 31

ドメイン, 31

ネットワーク インタフェース カード, 33

## の

ノード

HPOM のインストール

最初のクラスタ ノード, 105 - 127

残りのクラスタ ノード, 128 - 134

HTTPS エージェントの配布, 36

UNIX の管理, 159

管理アカウント, 39

設定, 158

複数での同時インストール, 128

ノード フォルダ, 157

残りのクラスタ ノード、HPOM のインストール, 128 - 134

## は

バージョン要件, 30

ハードウェア要件

エージェント, 36

概要, 23

管理サーバーとコンソール, 23

リモート コンソール, 24

廃止されたアカウント, 39

## 配布

エージェント セキュリティ, 37

プロセス (ovpmad), 42

[ 配布ユーザー アカウント ] ページ

クラスタ, 117

非クラスタ, 70

パスワード

更新, 89

標準版

クラスタ, 97

非クラスタ, 59

ポリシー, 39

有効期限ポリシー, 89

ライセンス キー, 85

パスワードの更新, 89

パッチ、インストール, 48

パフォーマンス

管理ノードのデータの収集, 159

グラフの表示, 159

パフォーマンス グラフの表示, 159

## ひ

ビジネス サービス、設定, 158

非対話モード

クラスタ インストール, 81, 135

[ 必要条件チェック ] ページ

クラスタ, 107

非クラスタ, 62

ビュー、デフォルト コンソール, 155

評価版ライセンス

クラスタ, 97

非クラスタ, 59

標準インストール, 53

標準版

ライセンス

請求, 86

説明, 59

ライセンスパスワード

クラスタ, 97

非クラスタ, 59

標準版ライセンスの請求, 86

## ふ

ファイアウォール

Windows

管理サーバー, 50

リモート コンソール, 51

環境インストール

概要, 49

管理サーバー, 49

リモート コンソール, 51

設定, 29

[ ファイアウォールの設定 ] ページ

クラスタ, 123

非クラスタ, 76

ファイル

.asp, 35

暗号化された, 46

インストール ログ

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

実行可能ファイル

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

手動で削除, 149

設定, 81, 135

ドキュメント

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

フィルタ、メッセージの設定, 159

フォルダ

VMWare, 46

手動で削除, 149

複数ノードでの同時インストール, 128

物理

メモリ要件

管理サーバーとコンソール, 23

リモート コンソール, 24

プライマリ DNS サフィックス, 32

ブラウザ要件, 25

## へ

ペイン、詳細, 156

別の資格情報, 37

ヘルプ、オンライン

AutoPass, 86

HPOM, 18

## ほ

ポート、IIS, 76

ポリシー

管理, 42  
作成と編集, 159

ポリシーの編集, 159

ポリシー フォルダ, 157

ホワイトペーパー  
場所, 16

## ま

マップ ビュー, 155

マルチプロセッサ システムのサポート, 23

## め

メッセージ  
フィルタ、設定, 159  
ブラウザ, 155

メディア キット、HPOM for Windows, 17

メニュー、スタート  
クラスタ, 138  
非クラスタ, 87

メニュー バー  
HPOM, 156  
MMC, 156

メモリ要件  
管理サーバーとコンソール, 23  
リモート コンソール, 24

## も

モード、インストール  
SQL Server データベース, 29

モニタ要件  
管理サーバーとコンソール, 23  
リモート コンソール, 24

## ゆ

有効な Windows ファイアウォール  
管理サーバー, 50  
リモート コンソール, 51

ユーザー  
HPOM, 44  
PMAD, 37  
アカウント, 71  
アカウントの作成, 45  
偽装, 37  
既存認証, 45  
実際の, 41  
追加, 158  
要件, 30  
ロールの設定, 158

ユーザー グループ  
HP-OVE-ADMINS, 56  
HP-OVE-OPERATORS, 56

ユーザーの追加, 158

## よ

要件  
Windows サービス, 34  
アンインストール, 143  
インストール権限, 45  
エージェント  
概要, 36  
配布セキュリティ, 37  
クラスタ, 98  
サーバー, 21  
システムのチェック  
インストール開始, 161  
管理サーバーとリモート コンソール,  
162  
管理サーバーのみ, 164  
リモート コンソールのみ, 165  
制限グループ設定, 88 - 90

ソフトウェア , 25

データベース

概要 , 27

設定 , 27

認証モード , 29

リモート , 28

ネットワーク

DNS , 31

FQDN , 32

概要 , 31

ドメイン , 31

ハードウェア

概要 , 23

管理サーバーとコンソール , 23

リモート コンソール , 24

リモート コンソール , 30

[ ようこそ ] ページ

クラスタ , 106

非クラスタ , 61

## ら

ライセンス

キーパスワード , 85

情報の入力 , 85 - 86

評価版

クラスタ , 97

非クラスタ , 59

標準版 , 59

標準版の取得 , 86

ライセンス情報の入力 , 85 - 86

ライセンスプログラム , 86

ライセンスレポート ツール , 86

## り

リソース、クラスタの作成 , 101

リソース グループ

ASCII 文字のみ , 98

クラスタ , 101

リソース グループ名の ASCII 文字 , 98

リモート MMC コンソール , 69

リモート コンソール

Windows XP SP2 設定 , 56

インストール

非クラスタ , 56

ファイアウォール環境 , 51

再インストール , 151

システム要件のチェック

管理サーバーとリモート コンソール ,  
162

リモート コンソールのみ , 165

制限グループ , 88

要件

ソフトウェア , 25

特別 , 30

ハードウェア , 24

リモート データベース

計画 , 20

削除 , 150

要件 , 28

リモート データベースの削除 , 150

リモート デスクトップ サービス , 54

リリース ノート , 16

## る

ルール、セキュリティ , 21

## ろ

ローカル

アカウント インストール , 69

インストール , 69

## 管理者

管理サーバーとコンソール, 55

リモート コンソール, 56

データベース, 20

ロール、ユーザーの設定, 158

ログ ファイル、インストール

クラスタ, 138

非クラスタ, 87

## わ

ワークグループ、Windows

HP-OVE-Deleg-User, 42

環境, 20

